

2018 年度
淑徳大学
授業アンケート全学報告書

淑徳大学 高等教育研究開発センター
IR 推進室

目次

【第 1 部】 2018 年度淑徳大学授業アンケートの概要・集計結果

I 2018 年度授業アンケートの概要・目的

1 淑徳大学授業アンケートの目的	3
2 授業アンケート全学報告書の目的	3
3 2018 年度淑徳大学授業アンケートの概要	3

II 授業アンケート集計結果

1 学部別集計結果	7
-----------------	---

【第2部】 授業満足度等を規定する要因に関する探索的分析

1 第2部の概要	24
2 2つの項目間の関連	35
3 複数項目間の関連(重回帰分析)	49

III 授業アンケート様式

2018 年度 学生用 授業アンケート調査票[前学期・後学期]	71
2018 年度 教員用 授業アンケート調査票[前学期・後学期]	72

別紙

IV 集計表

V 教員個人表

第 1 部

－ 2018 年度淑徳大学授業アンケートの概要・集計結果 －

I 2018 年度授業アンケート及び報告書の概要・目的

1. 淑徳大学授業アンケートの目的

淑徳大学の授業アンケートの目的は、社会から負託された大学の教育・研究の使命を遂行するため、大学として組織的に教育責任の遂行と教育成果の確認を行うとともに、教育活動において大きな比重を占める授業の改革や改善を推進することで、教育の質を高めることです。

そのために、授業アンケートで得た学生の意見や要望をくみ取り、教員一人ひとりが毎年度、担当授業の自己点検・評価を行い、翌年度の授業の改革や改善に反映させていきます。

また、大学及び学部として組織的な授業の改革と改善に向けた取り組みとして授業アンケートを活用した FD (Faculty Development) も併せて行い、学生の学修意欲を引出し、学修効果を高めるための教育改革を組織的に推進しています。

2. 授業アンケート全学報告書の目的

本報告書は、組織的な授業の改革と改善に資することを目的として大学全体及び各学部の「調査概要、調査目的、該当者の属性、質問ごとの分析」を大学教育向上委員会、高等教育研究開発センター及び IR 推進室が集計・分析し、作成したものです。

本報告書は 2 部構成となり、第 1 部では大学及び学部ごとの集計値、第 2 部では講義科目と演習科目の分析として「授業満足度等を規定する要因に関する探索的分析」を行った結果を掲載しています。

また、本報告書第 1 部の基本となるデータは学生向けアンケートであり、本報告書第 1 部の学部別の集計の場合、総合福祉学部と記載してある図は、総合福祉学部 に在籍する学生が回答した授業アンケートの集計結果となります。

3. 2018 年度淑徳大学授業アンケートの概要

(1) 授業アンケート対象科目

2018 年度に開講している全授業科目(学外の実習科目を除く)を対象に実施しています。実習科目は、それぞれの学部の実習目的や内容といった特性に応じた様式を用いてアンケートを実施しています。

(2) 授業アンケートの種類

授業アンケートは、全学部統一様式にて、次の 2 種類について実施しています。

- 学生による授業評価 : 学生向けアンケート
- 教員による授業の自己点検 : 教員向けアンケート

(3) 学生向けアンケートの実施時期

実施時期は、前学期・後学期各 1 回ずつ(年 2 回)とし、原則として、半期 15 回授業の場合は 13 回目以降に学生向けアンケートを実施しています。(半期 8 回の授業の場合は 6 回目以降、半期 30 回の授業の場合は 25 回目以降に実施しています。)

オムニバス科目についても半期 1 回の実施となり、例えば 2 人で 15 回の授業を実施する授業でも 13 回目以降に学生向けアンケートを実施しています。

(4) 学生向けアンケートの実施方法

2018 年度はアンケート実施授業回の授業終了前 10 分間を使用して、無記名のマークシートで実施しています。

(5) 授業アンケート対象科目及び回収枚数

2018 年度淑徳大学授業アンケート(学生向けアンケート)は、表1の通りに年間 2020 科目(大学全体)を対象としています。実施科目総計履修人数を母数とした回答率は、79.70%です。なお、複数の学部にあたがって開講している科目もある為、学部別の対象科目数や学生アンケート実施科目数の集計は行っておりません。

表1 2018 年度淑徳大学授業アンケート(学生向けアンケート)実施概要

	対象科目	学生アンケート 実施科目	実施科目総計 履修者数①	回答枚数 ②	回答率 (②/①)
前期	983	959	41,682	34,187	82.02%
後期	1037	1,021	38,440	29,668	77.18%
年間	2020	1,980	80,122	63,855	79.70%

大学全体及び学部別の学生アンケート回答数は表2の通りです。在籍学生数、CAP 制(単位の過剰登録を防ぐため、1 年間あるいは1 学期間に履修登録出来る単位の上限を設ける制度)による履修登録数の違いから、回答数は学部によって大きく異なります。

表2 2018 年度淑徳大学学生用アンケート学部別回答数

	学生アンケート回答数(枚)		
	前期	後期	合計
大学全体	34,187	29,668	63,855
総合福祉学部	11,536	11,161	22,697
看護栄養学部	7,730	4,789	12,519
コミュニティ政策学部	2,305	2,122	4,427
経営学部	5,238	4,587	9,825
教育学部	3,068	2,969	6,037
人文学部	3,536	3,429	6,965
その他	48	36	84
無回答	726	575	1,301

(6) アンケートの質問項目について

淑徳大学授業アンケート、学生向けアンケートは、「Ⅰ. 授業の構成について」「Ⅱ. 授業方法について」「Ⅲ. 授業に対する評価について」「Ⅳ. 授業環境について」「Ⅴ. 自由記述欄」について、計19の質問を行いました。質問紙については巻末「授業アンケート様式」をご参照下さい。

(7) 本調査結果の分母について

本報告書第1部の集計は、学生一人一人の回答ベースで集計したものであり、分母は学生アンケート回答

数(枚)表2です。

なお、Q I -2 及びQ I -3 は、次の論理矛盾回答処理を実施し、母数は表3(Q I -2)及び表4(Q I -3)となります。

- Q I -1「授業説明の有無」で「あまりそう思わない、全くそう思わない」と回答
→Q I -2「授業説明の理解度」及びQ I -3「授業説明の取組み度」を非該当として処理
- Q I -2「授業説明の理解度」で「あまりそう思わない、全くそう思わない」と回答
→Q I -3「授業説明の取組み度」を非該当として処理

表3 2018 年度淑徳大学学生用アンケート学部別 Q I -2「授業説明の理解度」回答数

	該当回答数		
	前期	後期	合計
大学全体	32,407	28,302	60,709
総合福祉学部	11,059	10,658	21,717
看護栄養学部	7,380	4,569	11,949
コミュニティ政策学部	2,152	2,022	4,174
経営学部	4,903	4,361	9,264
教育学部	2,870	2,863	5,733
人文学部	3,315	3,255	6,570
その他	48	34	82
無回答	680	540	1,220

表4 2018 年度淑徳大学学生用アンケート学部別Q I -3「授業説明の取組み度」回答数

	該当回答数		
	前期	後期	合計
大学全体	31,286	27,528	58,814
総合福祉学部	10,683	10,349	21,032
看護栄養学部	7,177	4,466	11,643
コミュニティ政策学部	2,054	1,951	4,005
経営学部	4,715	4,246	8,961
教育学部	2,781	2,800	5,581
人文学部	3,169	3,161	6,330
その他	48	33	81
無回答	659	522	1,181

(8)集計・分析について

- * 第 1 部の学部別集計結果において、「大学」にはアンケートの「学部・学科」欄における無回答や「その他」の回答を含みます。
- * 各集計結果においては、設問に対する無回答を含んでいます。

* 回収したアンケート調査票の一部には、複数の番号にマークしているものやマークしている箇所が不明なものが少数存在しました。これらの回答（選択肢が不明）は、無回答と併せて集計しています。

Ⅱ. 授業アンケート集計結果

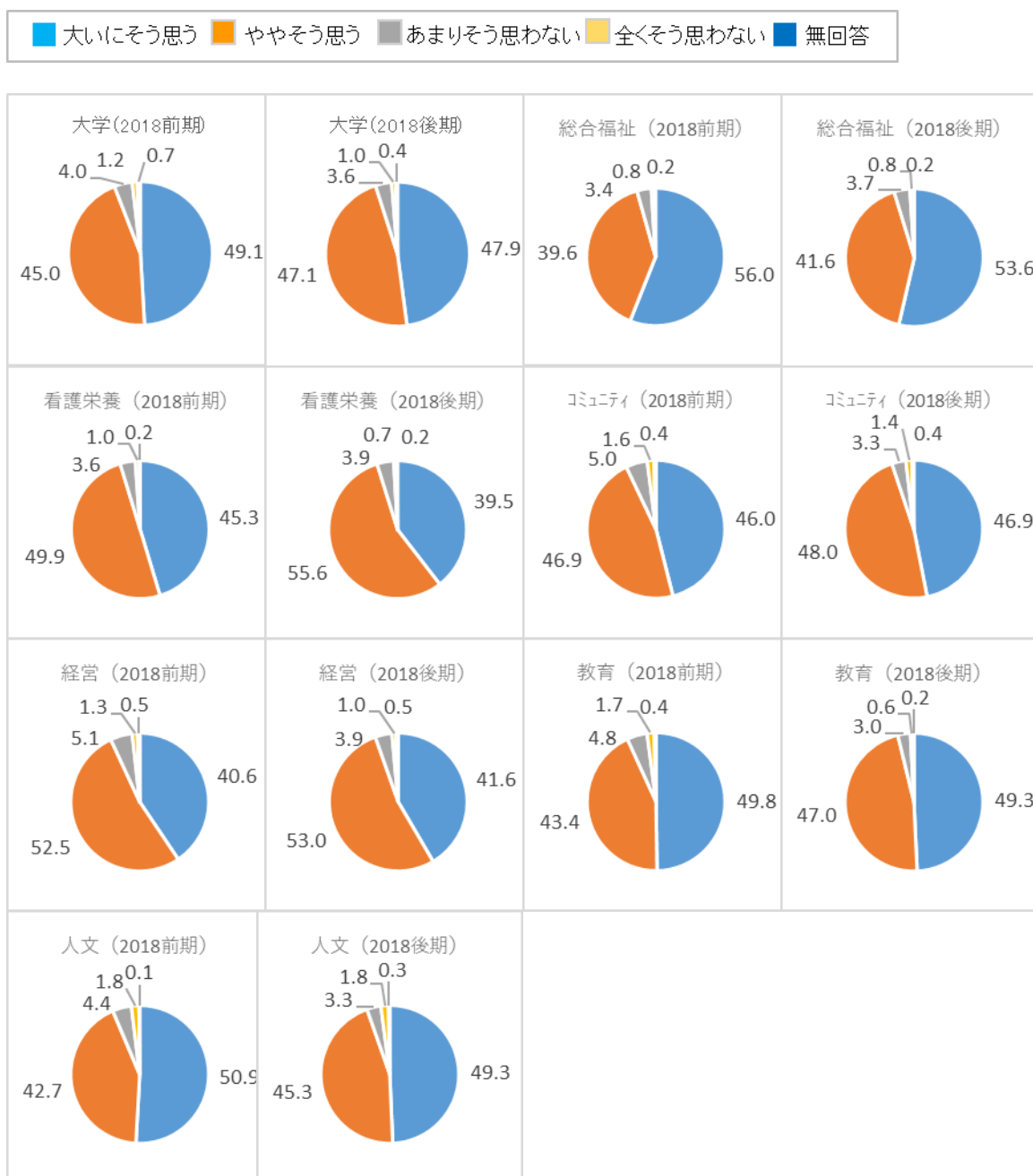
1 学部別集計結果

(1) 授業の構成について

① I-1「初回の授業において、授業目的、授業内容、到達目標、評価方法等の説明がありましたか」

授業の初回において、担当教員から授業目的や到達目標等の説明があったと答えた学生は、「大いに思う」及び「やや思う」を合わせると、大学全体では前期後期とも 94%を超えており、授業担当教員と学生との間に授業の概要の共有化が行われています（図1）。また学部別の結果についても、どの学部も「大いに思う」及び「やや思う」を合わせて 90%を超えておりますが、「大いに思う」を回答した割合は学部間で差が見られます。

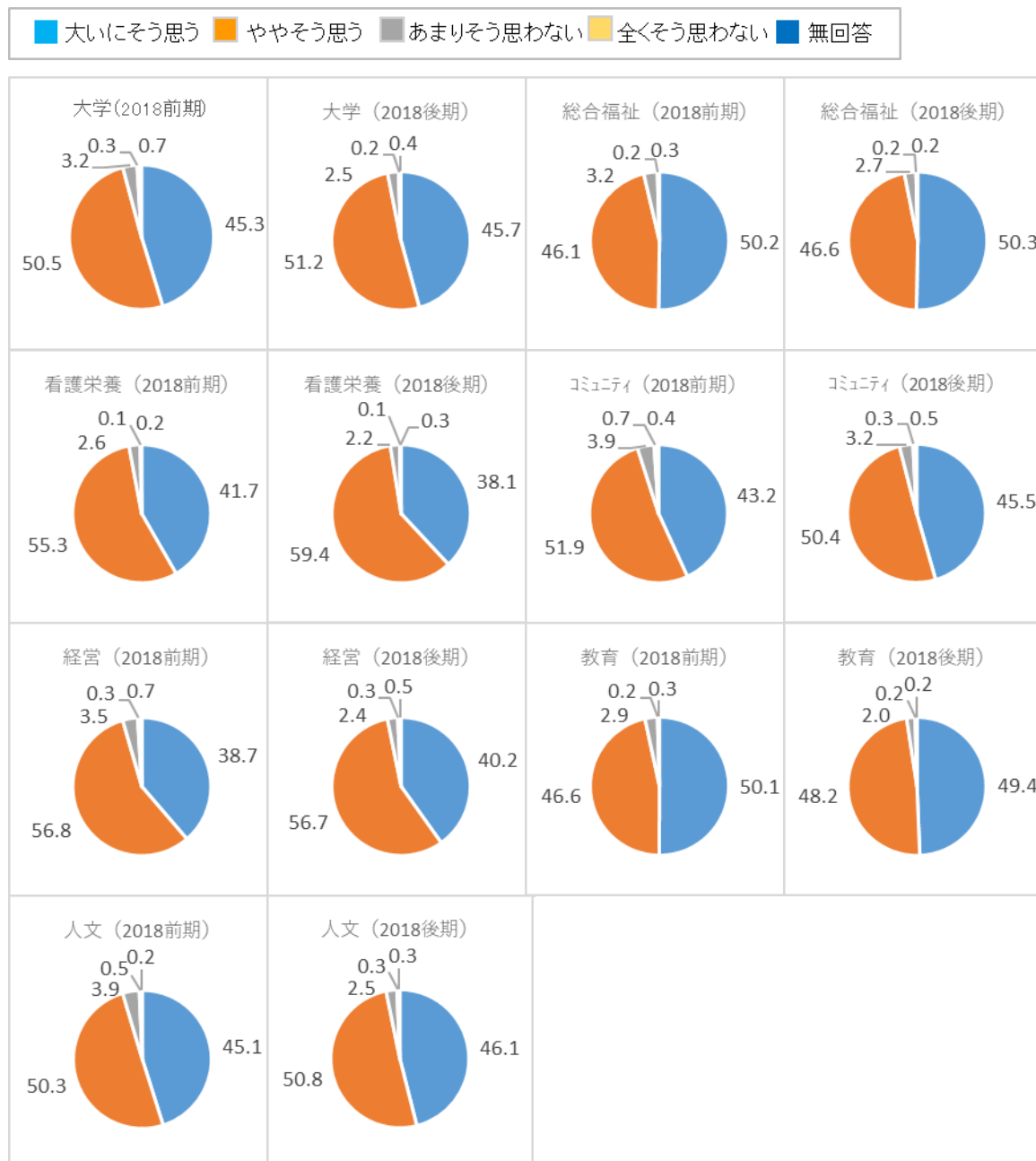
図1 I-1 授業初回の授業概要の説明



② I-2「あなたは、その説明に対して理解ができましたか」

この質問は、I-1授業の初回に行った授業の概要の理解度についての内容です。図2によれば、大学全体では、「大いにそう思う」及び「ややそう思う」を合わせると95%を超えており、ほとんどの学生は授業の目的、授業内容、到達目標、評価方法等を理解して授業を受けていると捉えられます。学部別もほとんど大学全体と同様の結果であり、受講している学生のほとんどは授業の到達目標や評価方法を理解しているといえます。

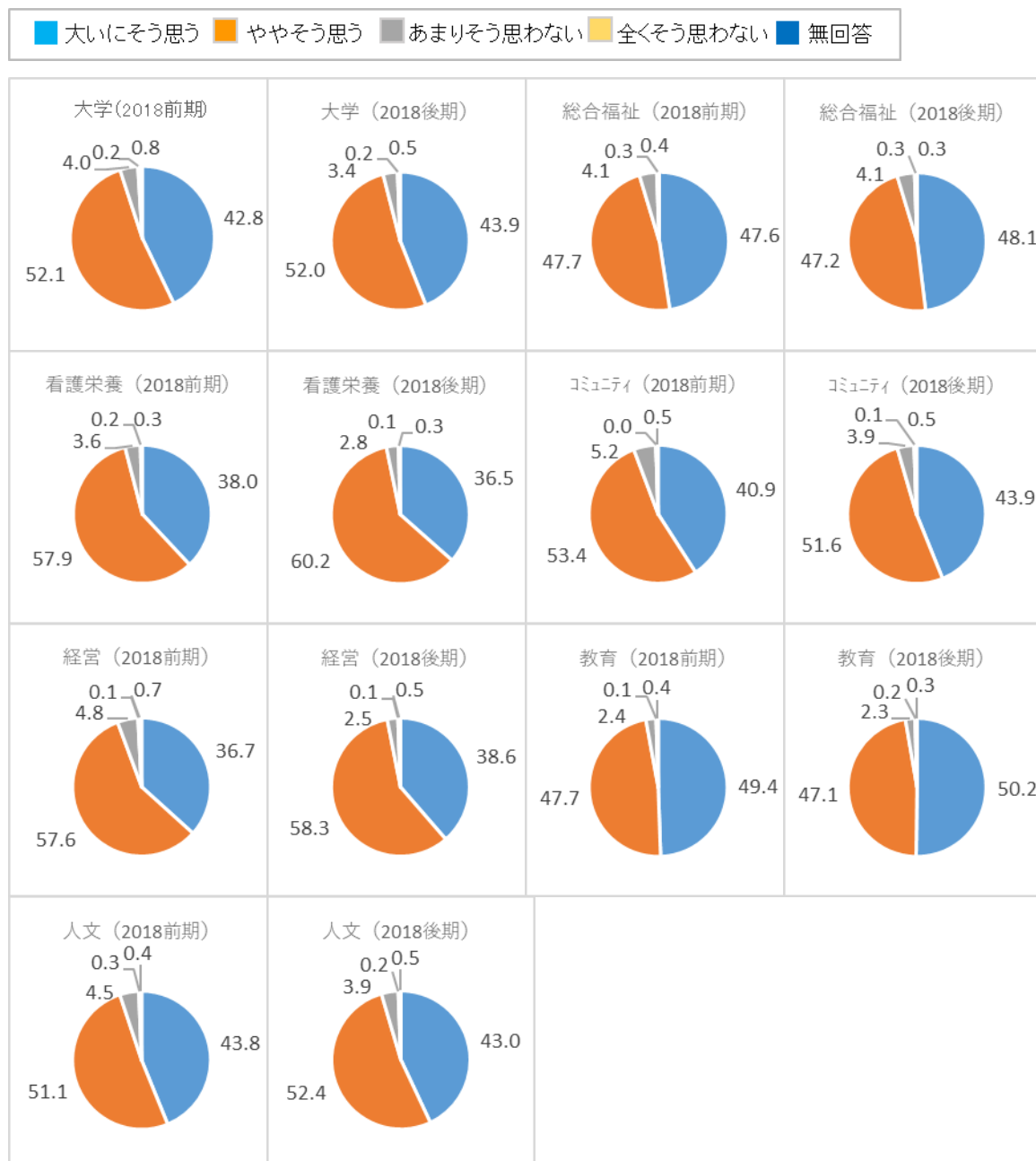
図2 I-2 学生の授業概要説明の理解



③ I-3「あなたは、理解した内容を達成するため、意欲的に取り組みましたか」

図 3 によると、大学では「大いにそう思う」と答えた学生は 40%以上であり、授業の初回で説明された内容を達成するために意欲的に取り組んでいます。しかし、学部間では「大いにそう思う」の回答の傾向に差が認められます。どのようにしたら学生がより意欲的に取り組むようになるかは課題であると言えます。

図3 I-3 意欲的に取り組んだか

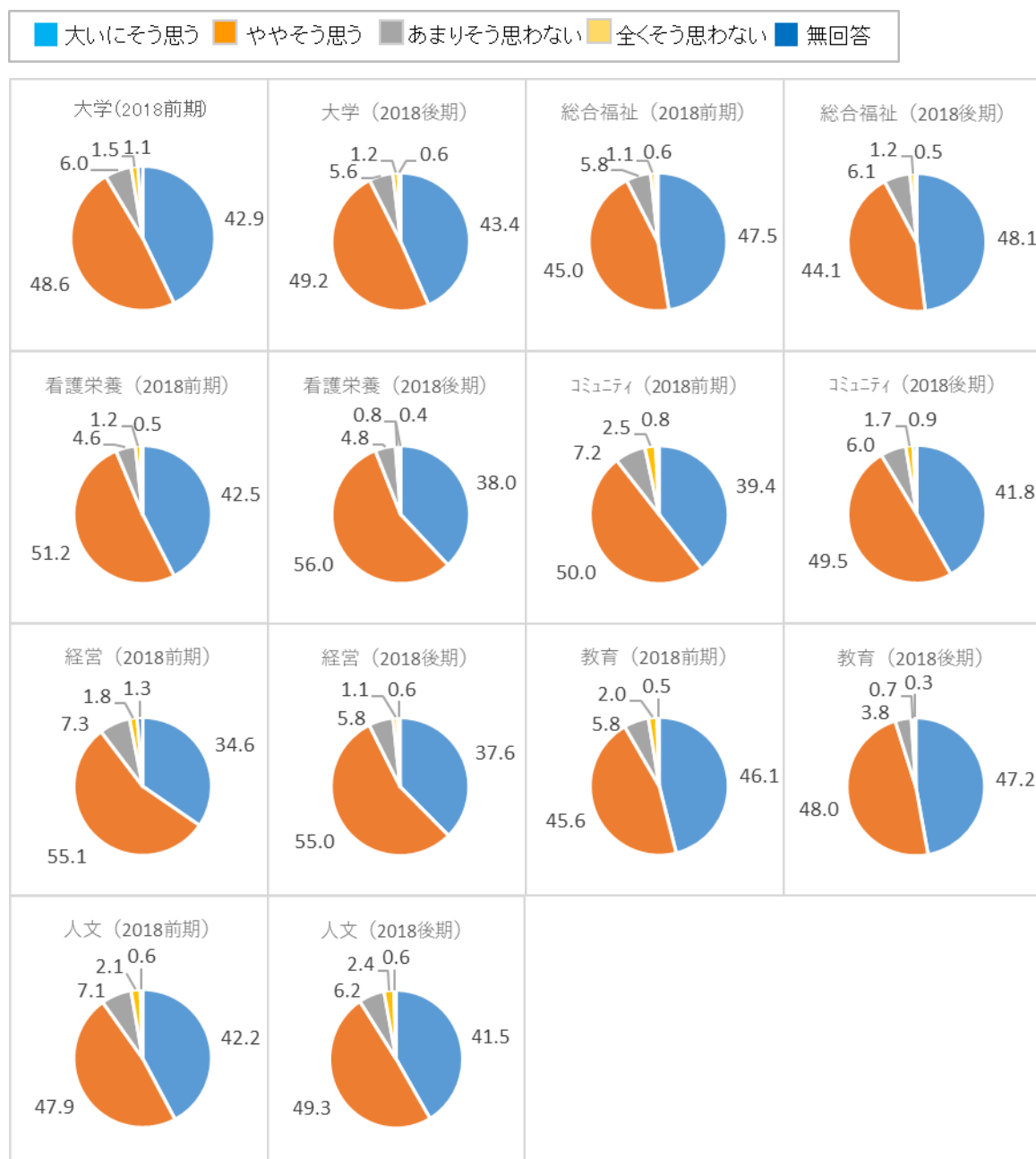


④ I-4「授業はシラバスにそって行われましたか」

本学のシラバスは授業担当教員以外の第三者によるチェックを経て、授業内容や到達目標、評価方法などの授業の全体像を示しています。このシラバスは、教員と学生との間の契約事項であり、「授業はシラバスにそって行われているか」という事は重要です。

本設問の結果を見ると大学全体としては「大いにそう思う」「ややそう思う」を併せて約 90%がシラバスに沿って授業が行われていると回答があります。

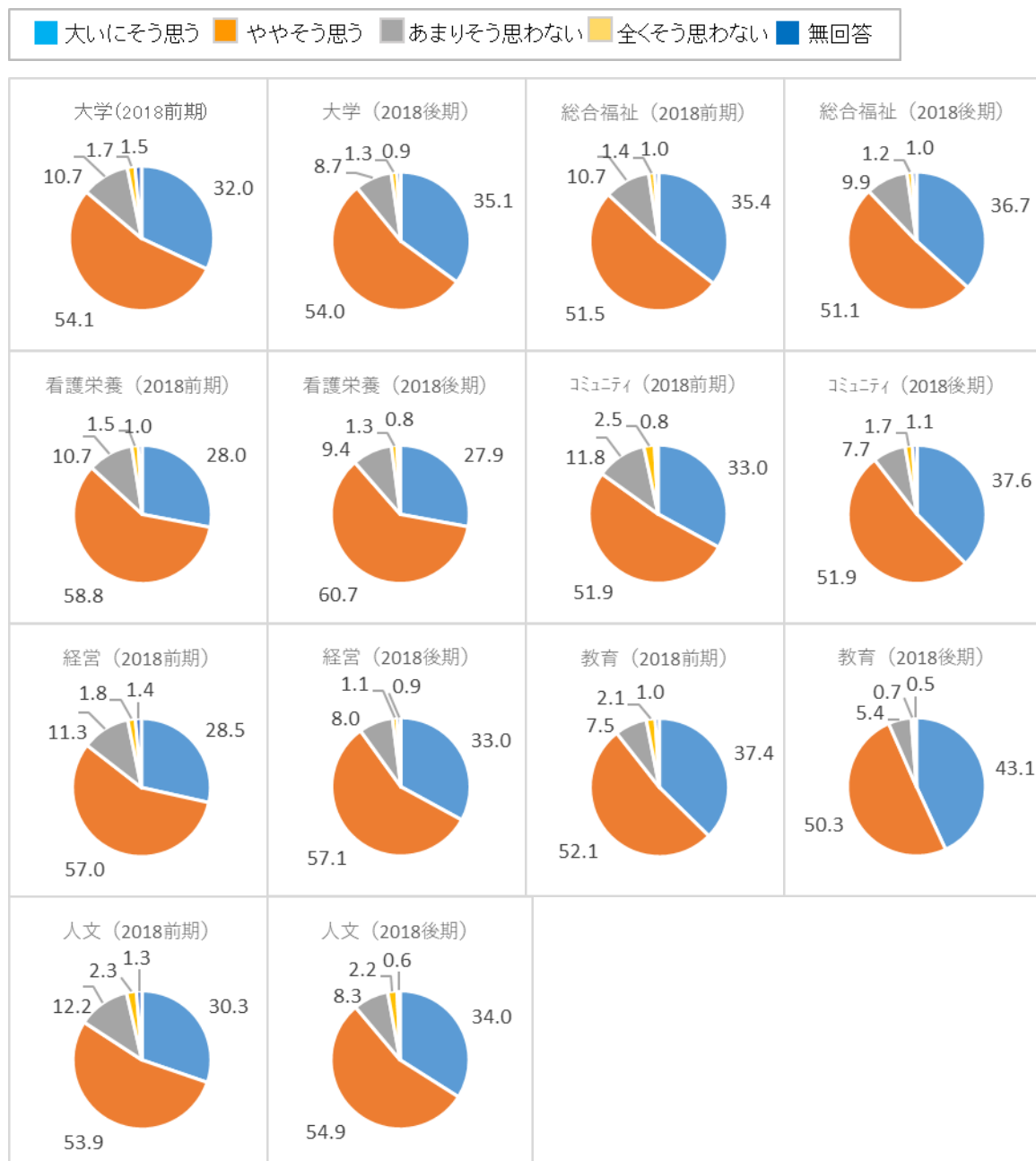
図4 I-4 授業はシラバスにそって行われたか



⑤ I-5「あなたは、シラバスに記載された到達目標を達成できましたか」

大学、学部及び学科で定めている「どのような人材を養成するか」といった方針を達成するために、各科目ではカリキュラムの体系性、順次性に沿って科目の到達目標を定めています。2017年度の授業アンケートの分析によると、シラバス目標達成度が強まる大きな要因はシラバスに沿って行われている事でした。つまり、I-4「授業はシラバスにそって行われましたか」で示されるように予め学生に提示したシラバスに沿って授業を行う事が重要であると言えます。

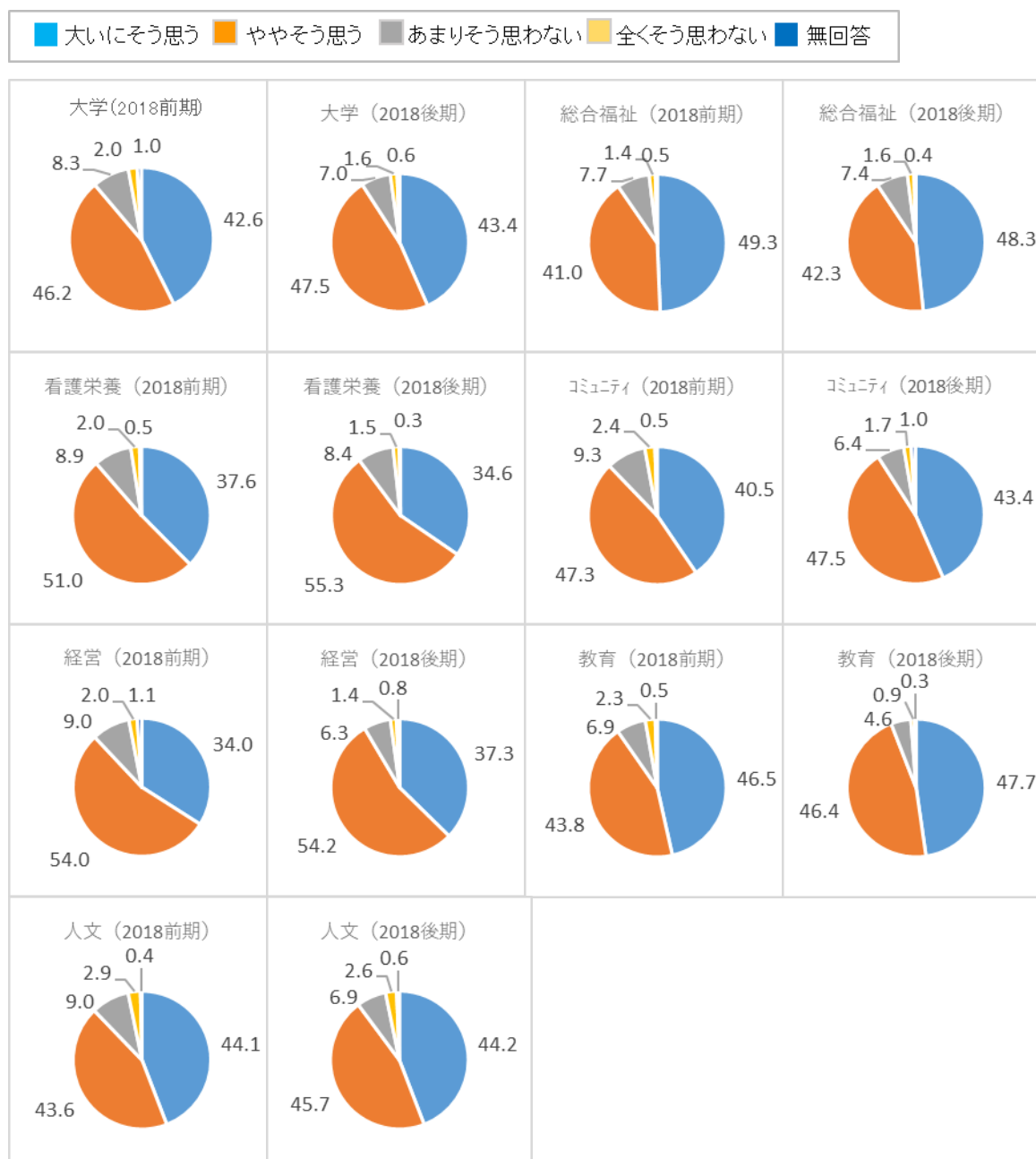
図5 I-5 シラバスに記載された到達目標を達成できたか



⑥ I－6「授業のなかで「事前学習」および「事後学習」等、「授業時間以外の学習内容・方法（資料・課題等）」について、具体的に指示がありましたか」

授業内で事前・事後学習の内容の指示をしているかについて、大学全体では、前期・後期とも約 85%以上は「大いにそう思う」「ややそう思う」と回答しています。学部別も、大学全体の結果と同様の傾向が認められました。今までの授業アンケートでは、予習・復習時間の長さについては事前事後学習の指示が影響しているとの分析結果が出ており、今後も授業回ごとにシラバスを活用しながら具体的な指示を行っていく必要があります。

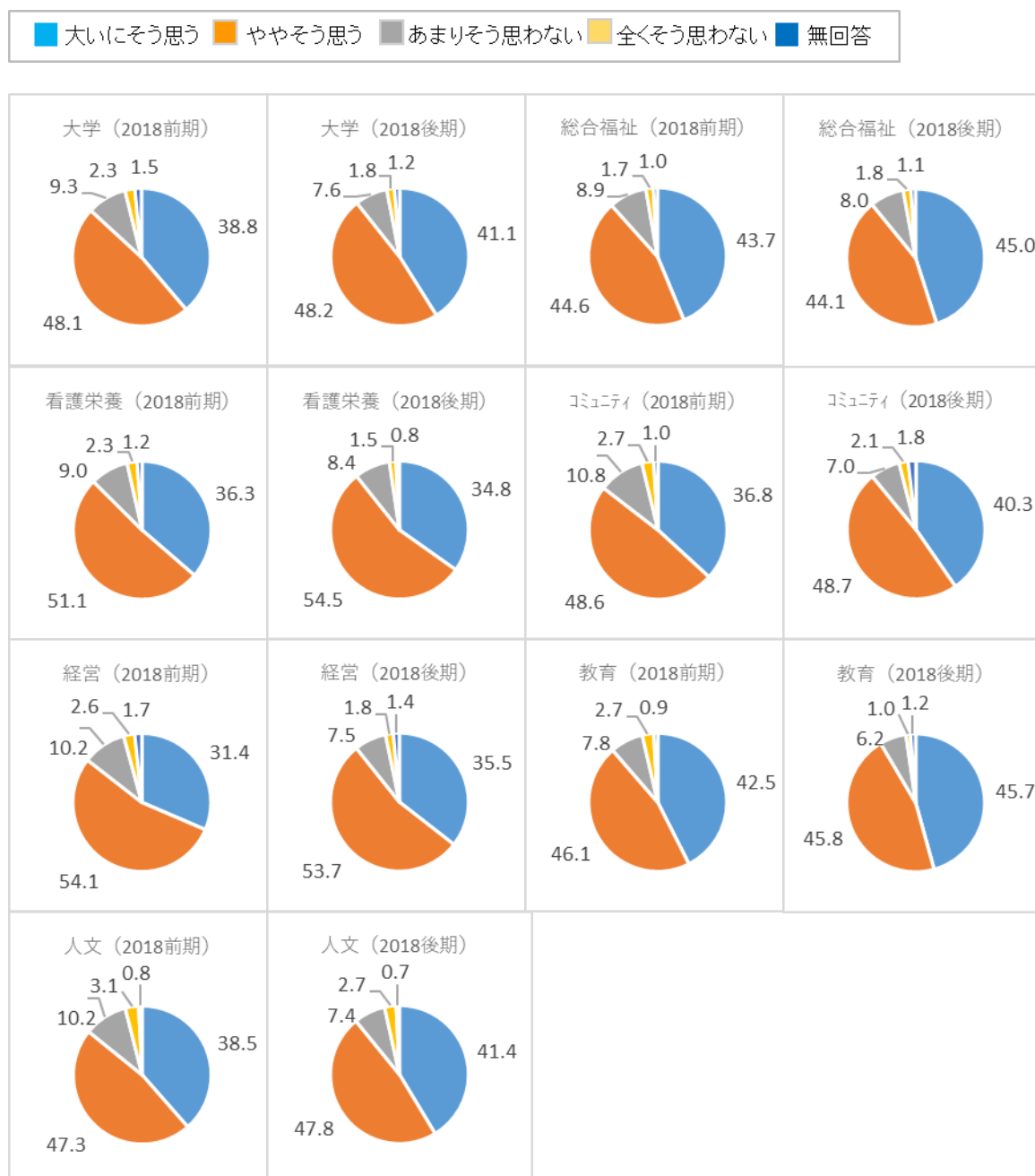
図6 I－6 事前事後学習の指示



⑦ I-7「質疑応答の時間の設定」や「課題レポート・小テストの返却」等、疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫はありましたか」

本質問は、学生の理解を促進するため質疑応答の時間を設ける等の工夫がされているかと聞いています。図7によると大学全体では、前年度と同様に前期・後期とも「大いにそう思う」と「ややそう思う」を合わせて約 85% 以上の回答となっており、学生の理解を促進する工夫が浸透しているといえます。

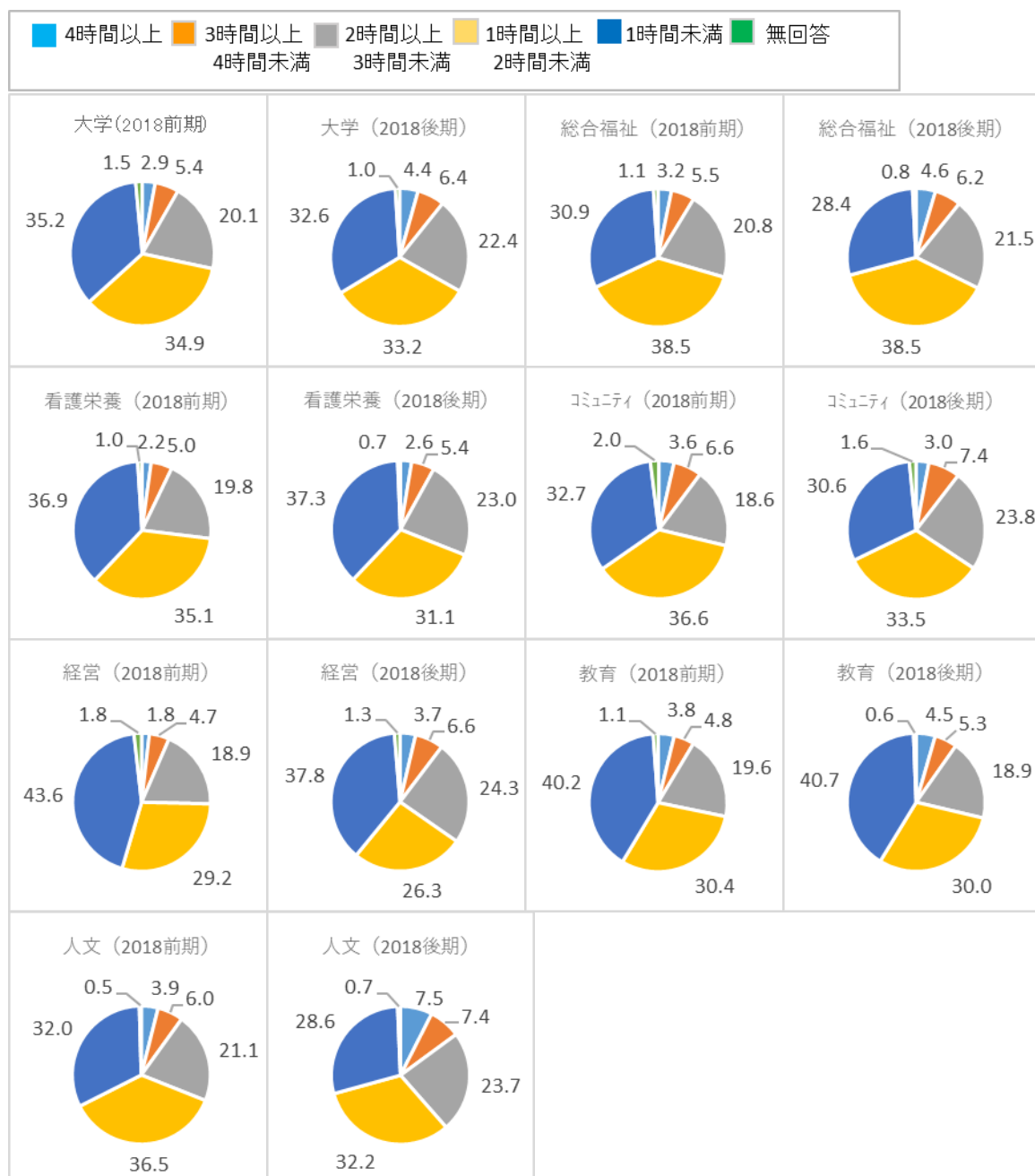
図7 I-7 疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫



⑧ I－8「あなたがこの授業1回(90分)のために予習・復習に費やした時間は平均()であった」

本質問では、各科目の授業1回における事前・事後学習の時間を聞いており、大学全体では1時間未満が前期・後期とも約35%程度となっています。これは昨年(約40%)よりは減少している結果です。2017年度の授業アンケートの分析では予習・復習時間が長くなるには、内容が難しい事が要因であり、高学年が多い事や履修人数も影響しているようです。学部により予習・復習時間の平均には違いがありますが、学部学科での事前事後学習に関するFDなどの取組みを行っていきます。

図8 I－8 授業1回に費やした予習・復習時間の平均

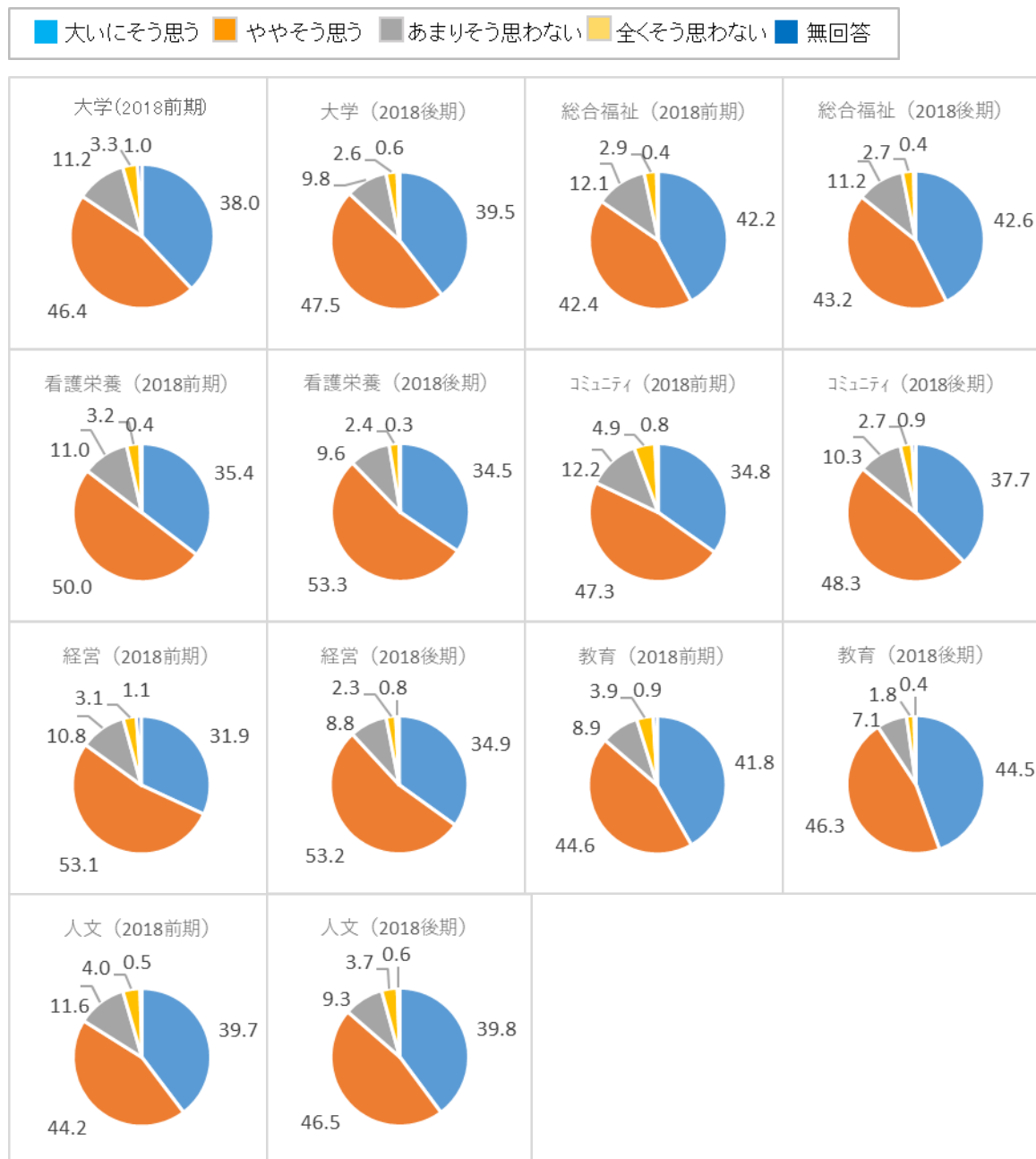


(2)授業方法について

①Ⅱ－１「双方向型の授業(発表、討論、協同学習、調べ学習等)は、効果的に行われましたか」

今までの授業アンケートの分析では双方向型の授業は授業満足度に影響を与えています。学生の理解を深めるために双方向型の授業が効果的に行われているとの回答は、「大いにそう思う」「そう思う」を合わせて大学全体では前期・後期とも80%を超えています。大学全体で双方向型の授業は効果的に行われているようです。

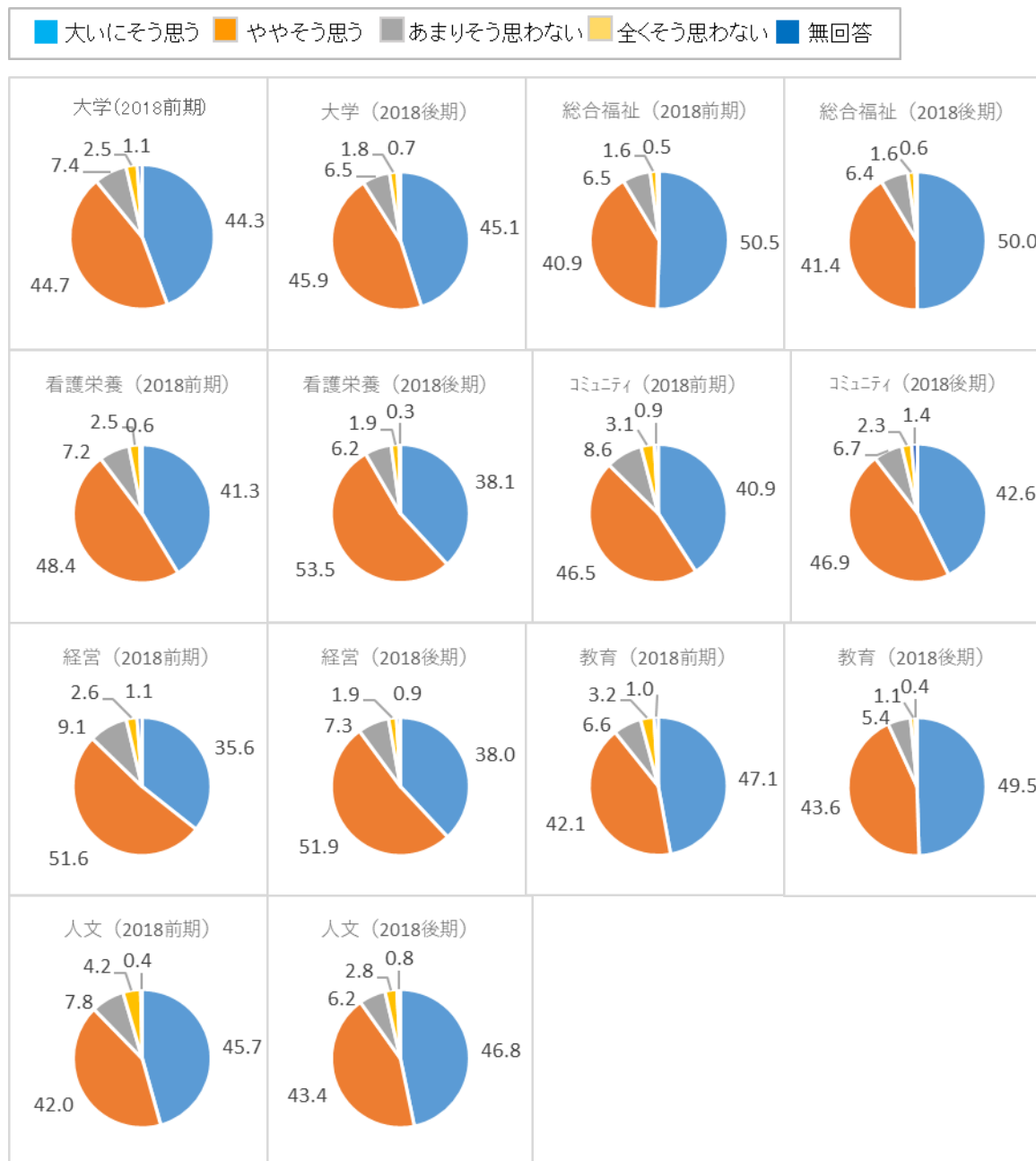
図9 Ⅱ－１ 双方向型の授業は効果的に行われたか



②Ⅱ－2「教材(教科書、板書、プリント、スライド、ビデオ等)は、授業の理解に役立ちましたか」

本質問結果(図 10)は、大学全体では、「大いにそう思う」は前期・後期とも 40%を超えており、学生は教材が授業の理解に役立っていると感じていることが見て取れます。また、学部別でも「大いにそう思う」の割合は 30～50%となっています。教材は、知的好奇心の刺激と関係しており、教材は効果的に活用され理解の手助けに役立っていると見る事ができます。

図10 Ⅱ－2 教材は授業の理解に役立ったか

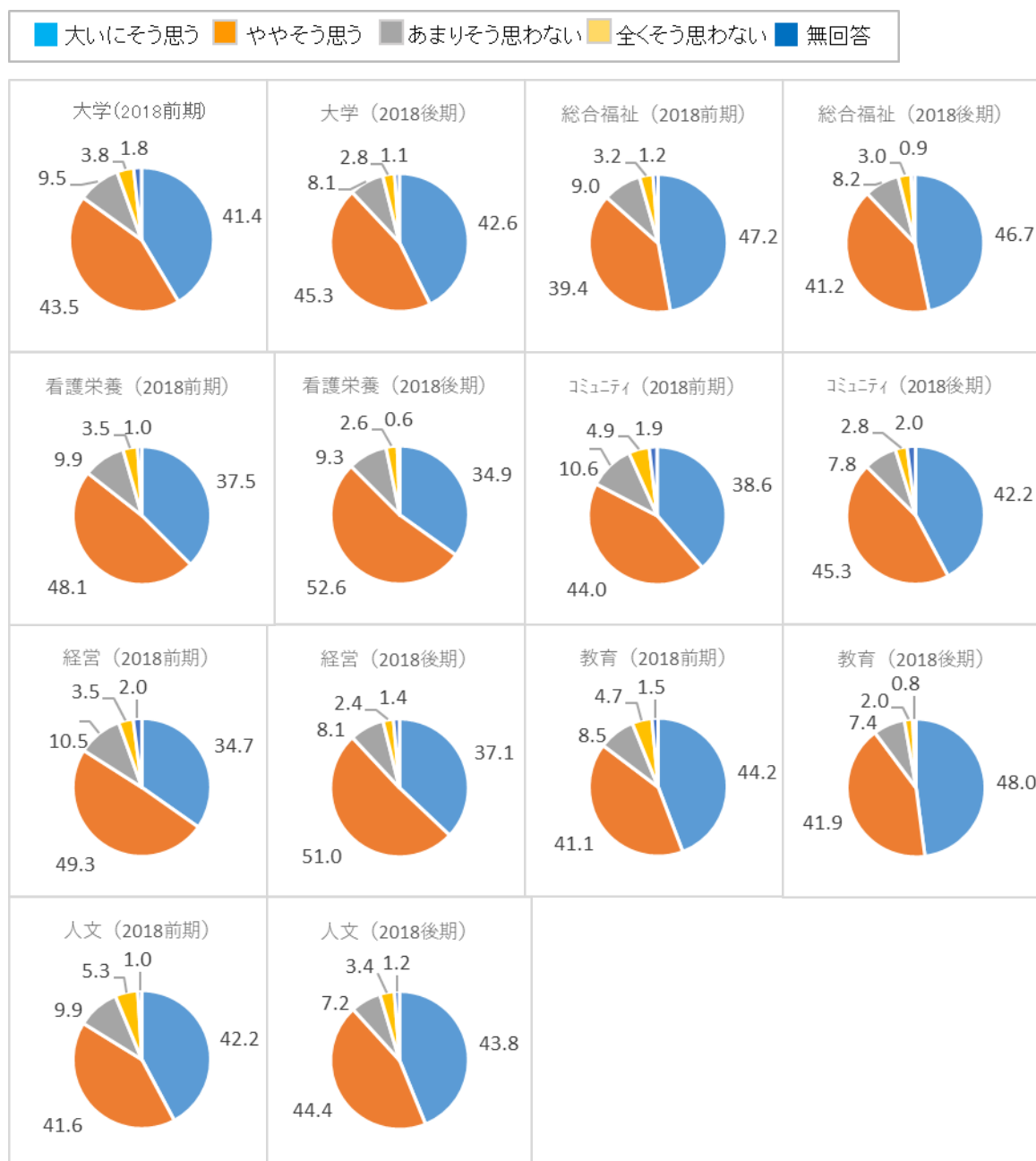


③Ⅱ-3「この授業では、話し方や説明の仕方がわかりやすかったですか」

教員の話し方や説明の仕方は、授業満足度や授業を通じて知的好奇心が刺激される事に大きな影響を与えることが2017年度の授業アンケートの分析から分かっており、重要な事項となっています。

大学全体や各学部において、話し方や説明について「大いにそう思う」「ややそう思う」の回答は80%から90%になります。一方、「あまりそう思わない」などの回答も10%前後あることから、今後FDを通じていっそうわかりやすい授業の推進を行う必要があります。

図11 Ⅱ-3 話し方や説明のわかりやすさ

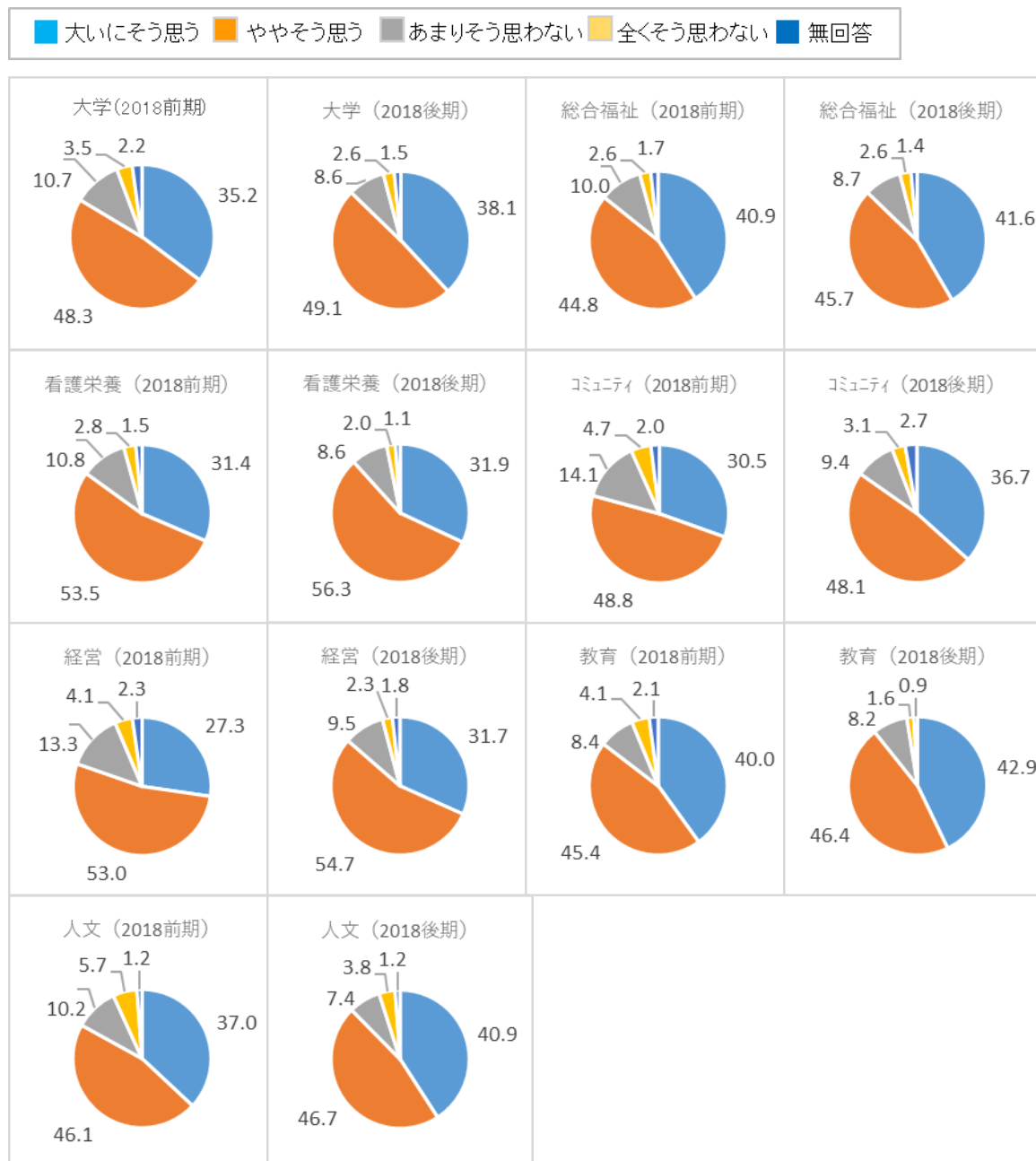


(2)授業に対する評価について

①Ⅲ－１「この授業をとおして知的好奇心が刺激されましたか」

大学全体では、「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせた数値は 80%を超えており、授業により知的好奇心への刺激を受けているように認められます。なお過去の授業アンケートの分析によると「話し方・分かりやすさ」「双方向型授業」等と関連があります。

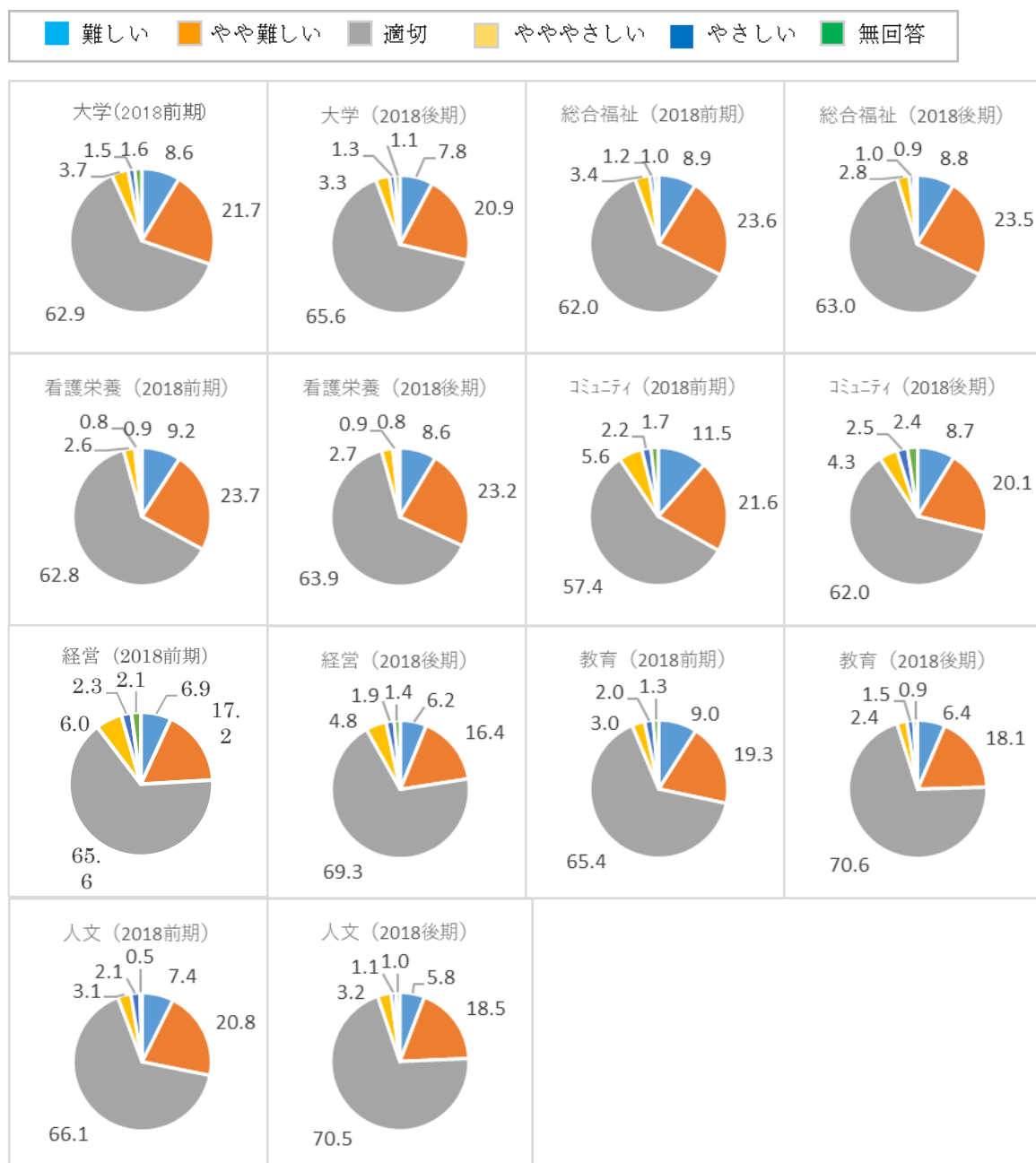
図 12 Ⅲ－１ 知的好奇心の刺激



②Ⅲ－2「あなたの授業内容の理解において、難易度は適切でしたか」

授業の難易度は、図 13 によれば、ほぼ 50%以上は難易度が適切であると回答しています。また適切以外で回答したほとんどは「難しい」もしくは「やや難しい」であり、難易度が「やややさしい」「やさしい」といった回答が少ない傾向にあるようです。

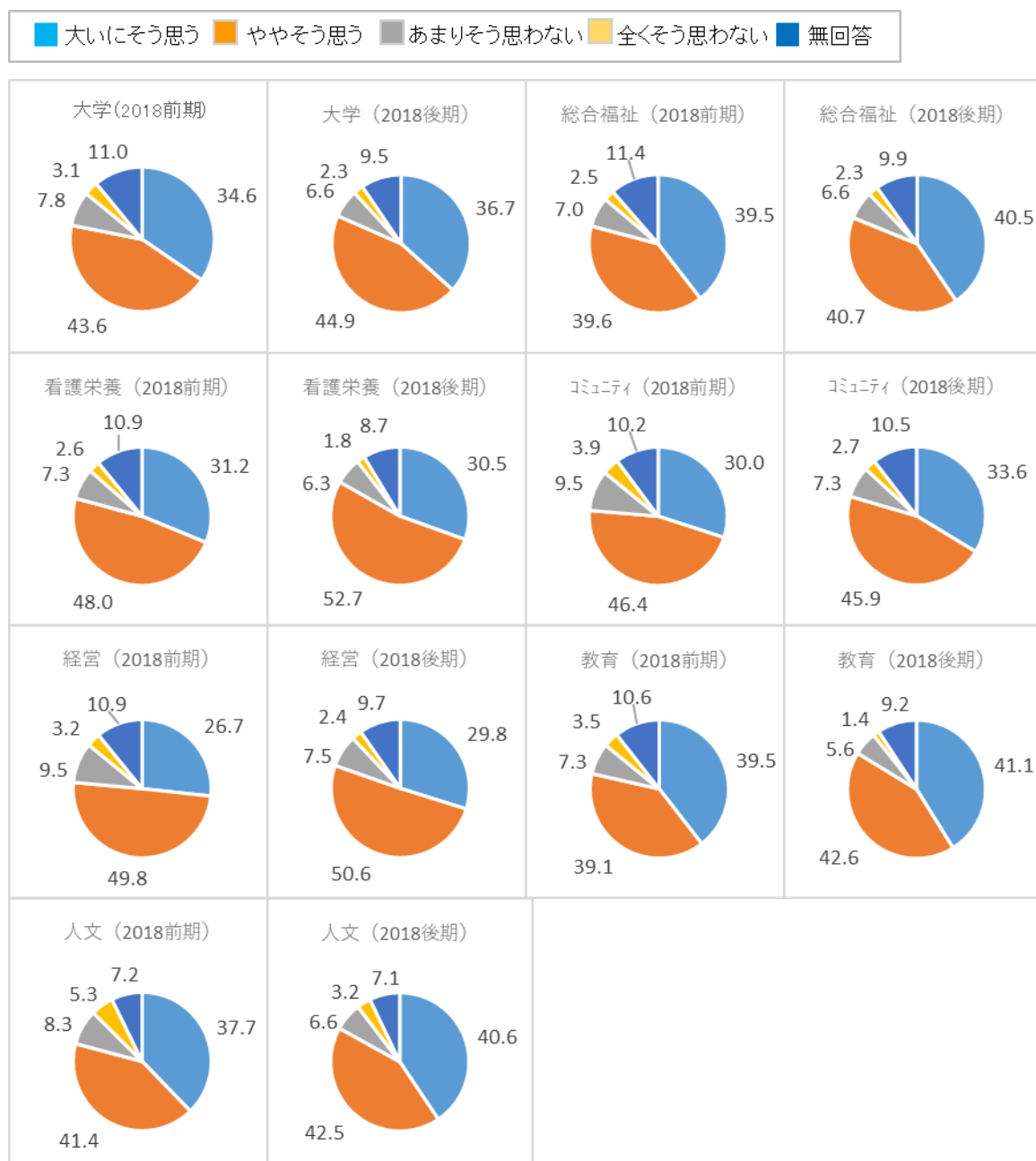
図 13 Ⅲ－2 難易度の適切さ



②Ⅲ－3「この授業を受講して、満足していますか」

授業の満足度は、大学全体では「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて前期・後期とも 80%前後となっており高いようです。学部別でも「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて 75～85%になりますが、「大いにそう思う」と答えている割合は異なります。また授業の満足度の要因は、過去の授業アンケートでも分析を行い、教員の話し方や説明の仕方が大きく影響し、機器備品の充実やアクティブラーニングが効果的に行われている事も影響しています。

図 14 Ⅲ－3 授業の満足度

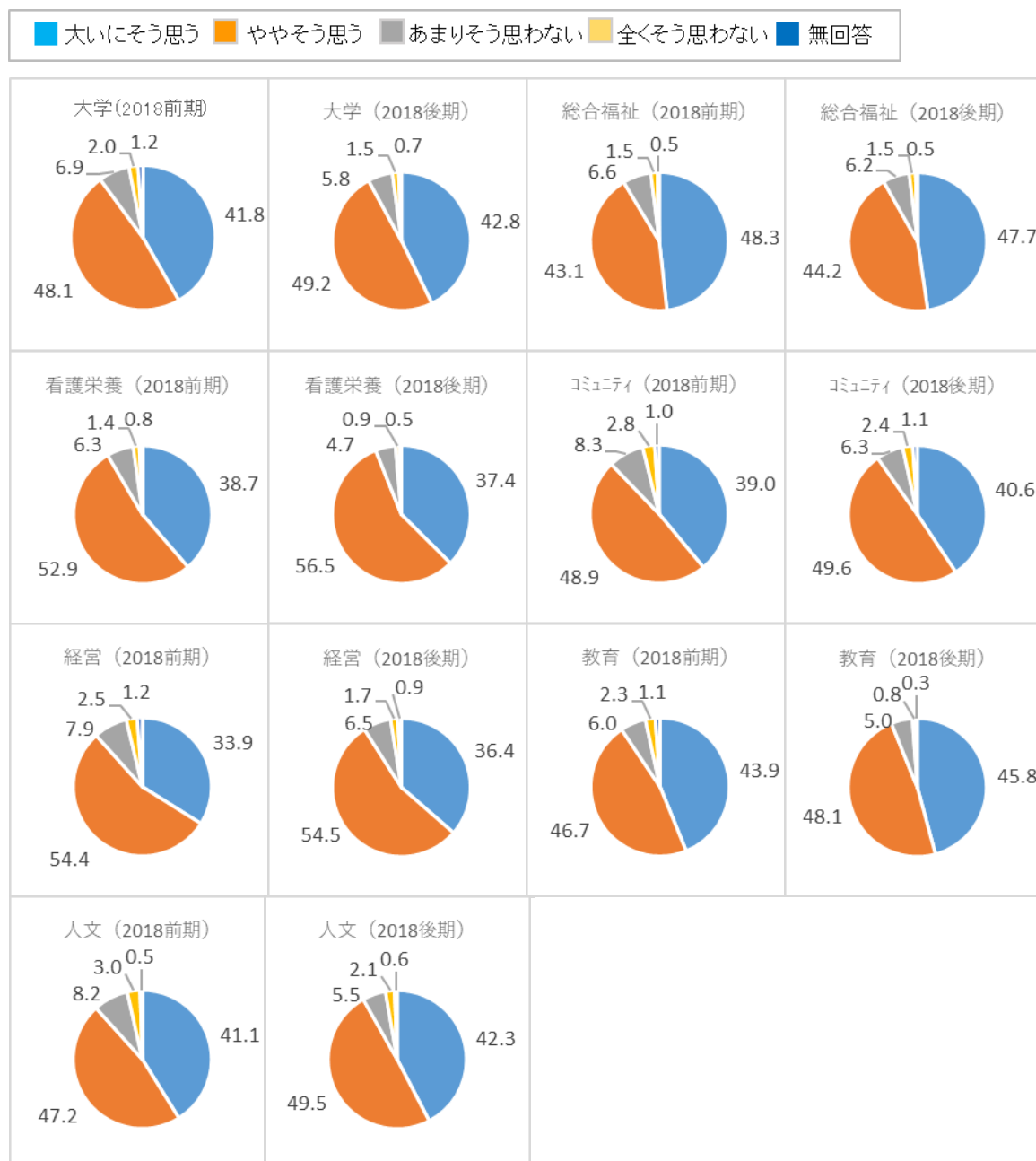


(4)授業環境について

①Ⅳ－１「受講態度(私語、携帯電話の使用等への注意等)に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれていましたか」

授業内での私語や携帯電話の注意等の対応は、大学全体では「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて前後期ともに90%程度になっていますので、学習にふさわしい環境はほぼ保たれているようです。(図20)

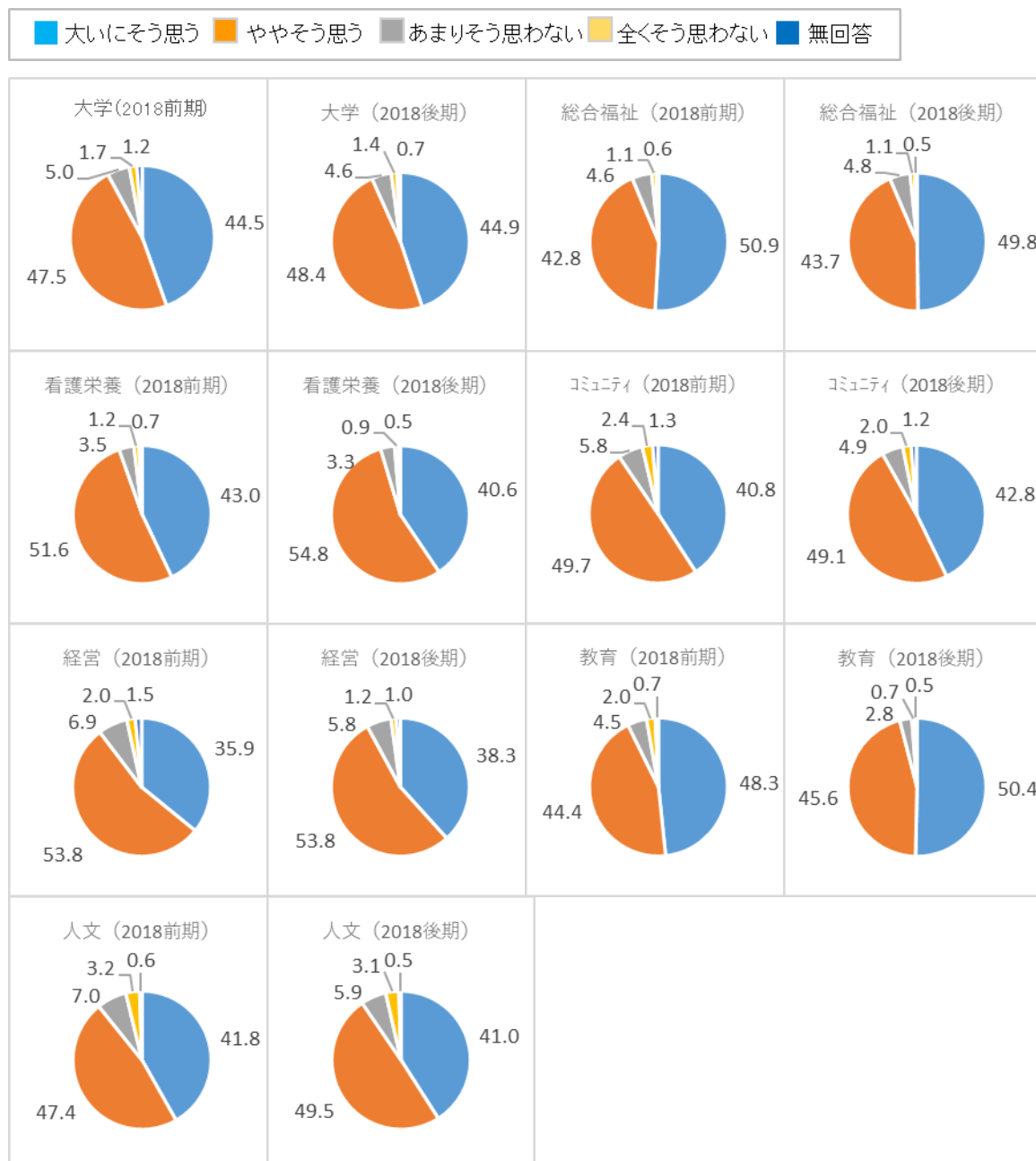
図15 Ⅳ－１ 学習するのにふさわしい環境が保たれていたか



②Ⅳ－2「授業に関する機器・備品等は充実していましたか」

授業に関する機器備品は、大学全体で 90%以上が「大いにそう思う」「ややそう思う」と回答していますが、「大いにそう思う」の数値は各キャンパス・学部によって異なるため、各授業の使用教室等の調査を今後も行っていく必要があります。

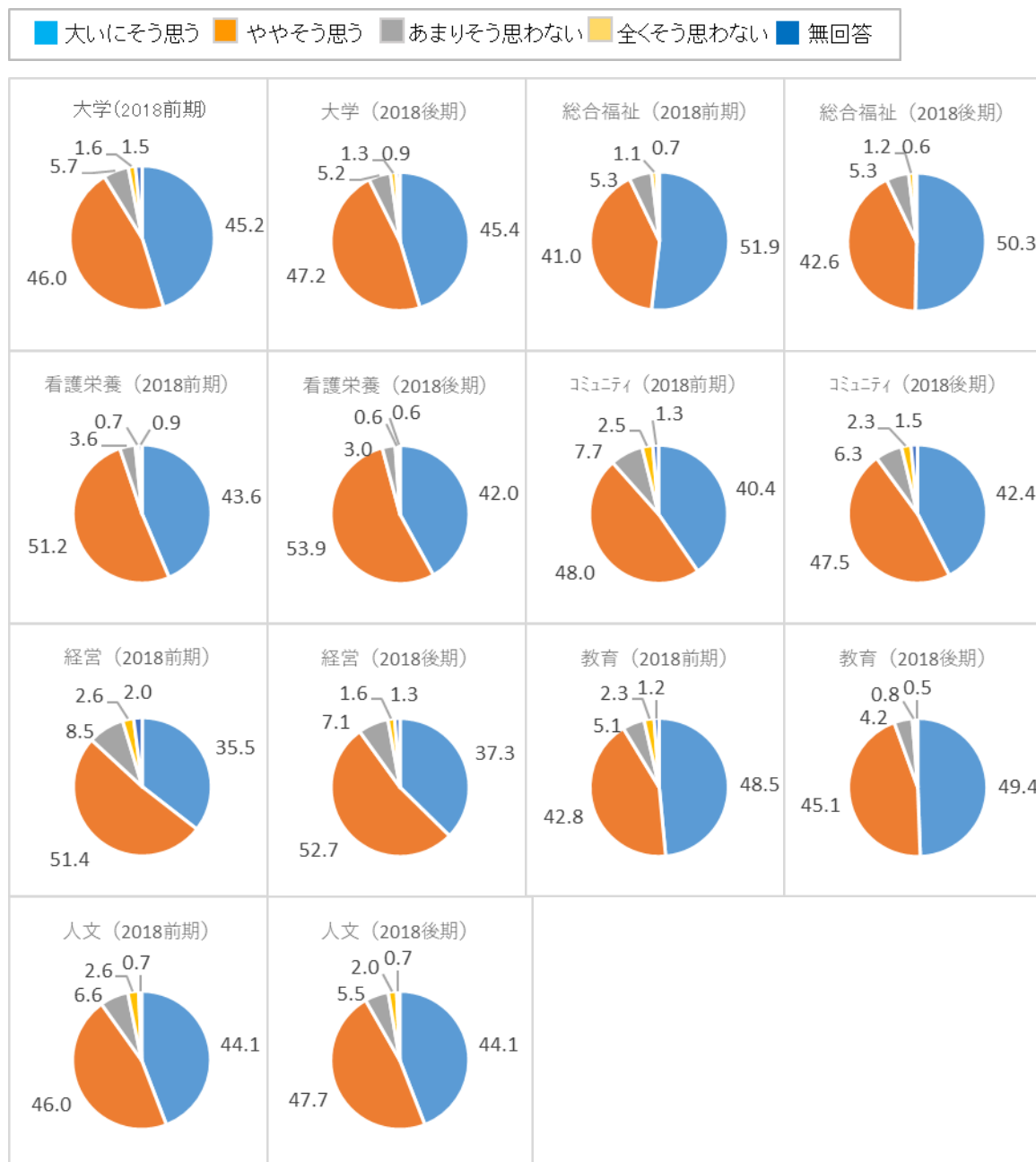
図 16 Ⅳ－2 授業に関する機器・備品の充実



③Ⅳ－3「この授業を受けるにあたり、履修人数は適切でしたか」

履修人数の適切さについて、大学全体や各学部の前学期・後学期とも「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせた数値は 90%前後であり、授業の履修人数は適切であると感じている学生は多くいるようです。

図 17 Ⅳ－3 履修人数は適切か



第2部

- 授業満足度等を規定する要因に関する探索的分析-

1. 第2部の概要

(1) 分析結果の概要

分析の詳細は次節以降に記しますが、ここでは「学生の評価が高く、学習行動を促進しているのはどのような授業か」という分析結果について簡単に示します。

① 各分析結果の概要

- 「授業満足度」は、以下の条件の授業において高まる。(影響が大きい要因順。下線はとくに影響が多い要因。以下同じ。)
 - ・ 教員の話し方や説明の仕方が分かりやすい。
 - ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれている。
 - ・ 機器、備品等が充実している。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている(講義形式の授業のみの場合は影響せず)。
 - ・ 事前事後の学習等の具体的な指示があった。
 - ・ 初回の授業で、目的、内容、到達目標、評価方法等の説明があった(講義形式の授業のみの場合は影響せず)。
 - ※ キャンパス(東京キャンパスで実施)、履修者の学年(高学年が多い)も影響する。
 - ※ 講義形式の授業に絞ると、「話し方や説明の仕方」の影響はさらに大きくなる。この結果は、履修人数や授業の難易度によらない。
- 「知的刺激(授業を通じて知的好奇心が刺激される度合い)」は、以下の条件の授業において高まる。
 - ・ 教員の話し方や説明の仕方が分かりやすい。
 - ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれている。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
 - ・ シラバスに沿って行われている(講義形式の授業のみの場合は影響せず)。
 - ・ 事前事後の学習等の具体的な指示があった(講義形式の授業のみの場合は影響せず)。
 - ※ 履修者の学年(高学年が多い。ただし講義形式の授業のみの場合は影響せず)、キャンパス(東京キャンパスで実施)も影響する。
 - ※ 講義形式の授業に絞ると、「話し方や説明の仕方」の影響が高まり、「双方向型の授業」の影響が弱まる。この結果は、履修人数や授業の難易度によらない。

- 「予習復習時間」は、以下の条件の授業において長くなる。
 - ・ 事前事後の学習等の具体的な指示があった。
 - ・ 内容が難しい。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
 - ・ 教材(教科書、板書、プリント、ビデオ等)が授業の理解に役立っていない。
 - ※ キャンパス(東京キャンパスで実施。講義形式の授業のみの場合は千葉第2キャンパスで実施していないことも影響)、履修者の学年(高学年が多い)、履修人数(少ない。ただし講義形式の授業のみの場合は影響せず)も影響する。
 - ※ 授業形態も影響し、講義形式の授業ではない方が予習復習時間が長い傾向がある。
 - ※ 履修人数別に分けて講義形式の授業を分析したところ、「20～49 人」の場合は上記とよく似た結果となった。「19 人未満」では「難易度」と「双方向型授業評価」だけしか影響せず、逆に「50 人以上」では「双方向型授業評価」の影響は消え、「事前事後課題の指示」の効果が非常に大きくなった。
 - ※ 難易度に分けて講義形式の授業を分析したところ、「やや難しい」場合は上記とよく似た結果となった。それより「やさしい」側では「双方向型授業評価」の影響が消え、履修人数(少ない)の影響が見られた。それより「難しい」側では「事前事後課題の指示」の影響が消え、「双方向型授業評価」の効果が非常に大きくなった。

- 「シラバス目標達成度(シラバスに記載された到達目標が達成できたか否か)」は、以下の条件の授業において高まる。
 - ・ シラバスに沿って行われている。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
 - ・ 事前事後の学習等の具体的な指示があった。
 - ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれている。
 - ・ 内容がやさしい。
 - ・ 教員の話し方や説明の仕方が分かりやすい(講義形式の授業のみの場合は影響せず)。
 - ※ キャンパス(埼玉キャンパスで実施。講義形式の授業のみの場合は千葉第2キャンパスで実施していないことも影響)、履修者の学年(高学年が多い。ただし講義形式の授業のみの場合は影響せず)も影響する。

- 「授業説明取り組み度(理解した内容を達成するため意欲的に取り組んだか)」は、以下の条件の授業において高まる。
 - ・ シラバスに沿って行われている。
 - ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれて

いる。

- ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
 - ・ 事前事後の学習等の具体的な指示があった。
 - ・ 教材(教科書、板書、プリント、ビデオ等)が授業の理解に役立っていない(講義形式の授業のみの場合は影響せず)。
 - ・ 機器、備品等が充実していない(講義形式の授業のみの場合に影響)。
 - ・ 内容が難しい(講義形式の授業のみの場合に影響)。
- ※ キャンパス(千葉キャンパスで実施等)、履修人数(少ない。ただし講義形式の授業のみの場合は影響せず)も影響する。
- ※ 「授業説明取り組み度」は論理矛盾回答処理により欠測値が多いデータであるため、この結果は参考程度である。

② 結果のまとめと考察

- 学生の評価(「授業満足度」「知的刺激」)にもっとも大きく影響するのは「話し方等分かりやすさ」であり、講義形式の授業では非常に顕著である。その他「受講態度への対応」、「双方向型授業評価」(とくに「知的刺激」に対して)、「事前事後学習の指示」等が影響する。
 - ・ 「話し方等分かりやすさ」は、「教材役立ち度」等、多くの調査項目との間に非常に高い相関があるが、この背後には「分かりやすさ」という共通の因子があることが示唆される。このため、他の影響が検討できなかったとも考えることができる。
- 学生の学習行動(「予習復習時間」の長さ)をもっとも促進するのは、「授業の難易度(難しい)」「事前事後学習の指示」である。「教材役立ち度(役立っていない)」「双方向型授業評価」も促進する。
- 評価の高さ、学習行動の促進の双方に効果があるのは、「双方向型授業評価」と「事前事後課題の指示」である。この2つは、「シラバス目標達成度」「授業説明取り組み度」にも影響する。

(2) 分析の目的と方針

第二部では、アンケート調査結果および授業の実施場所や履修人数等の情報を用いて、「**学生の評価が高く、学習行動を促進しているのはどのような授業か**」を探索的に分析します。

「学生の評価」および「学習行動の促進」を測定する変数は、昨年までと同様に、主に以下の変数とします。

- 授業満足度(QⅢ3, 選択肢は「大いにそう思う」～「全くそう思わない」の4水準。4水準の内容は以下同様)

「この授業を受講して、満足していますか」
- 知的好奇心(QⅢ1, 選択肢は4水準)

「この授業を通じて知的好奇心が刺激されましたか」

- 予習復習時間(Q I 8, 選択肢は「1 時間未満」「～2 時間未満」「～3 時間未満」「～4 時間未満」「4 時間以上」の 5 水準)

「あなたが、この授業1回(90 分)のために予習復習時間に費やした時間は平均()分であった」

分析の方針は以下のとおりです。

1. 相関分析、単回帰分析等を行い、「授業満足度」、「知的好奇心」、「予習復習時間」とその他の調査項目および履修人数・学年等の授業属性との関連を中心に、2 つの変数間にどのような関連があるのかを検討する。
2. 1の結果をふまえて、「授業満足度」、「知的好奇心」、「予習復習時間」等をそれぞれ目的変数、その他の調査項目および授業属性を説明変数とした重回帰分析を行い、「授業満足度」等はどのような要因によって規定されているのかを検討する。

(3)分析データについて

本分析で用いるのは授業ごとのデータで、総数は 1,980 です。
大きく以下の 2 種類に分けることができます。

① アンケート結果(授業ごとの平均点データ)

各学生の回答結果そのものではなく、その授業を履修した学生の平均点を用います。平均点は、各学生のアンケート設問の各回答を点数とみなした上で算出しています。たとえば、回答の選択肢が「大いにそう思う～全くそう思わない」の 4 段階の場合、「大いにそう思う=4 点」～「全くそう思わない=1 点」とみなします。

なお、平均点を計算する前に、以下の論理矛盾回答処理を行っています。

- 「授業説明の有無(Q I 1)」で「説明がなかった(1 または 2)」と回答
→「授業説明の理解度(Q I 2)」および「授業説明取組み度(Q I 3)」を非該当として処理
- 「授業説明の理解度(Q I 2)」で「理解できなかった(1 または 2)」と回答
→「授業説明取組み度(Q I 3)」を非該当として処理

② 授業属性データ

授業の実施場所、回答した学生の学年・性別・所属学部(アンケートに回答欄あり)、履修人数、授業形態などのデータです。

データ化は、以下のように行いました。

- 学期 「前学期」「後学期」の 2 変数。前学期を「1」、後学期を「0」として 0-1 データ化。
- 曜日 「月」「火」「水」「木」「金」「土」の 6 変数。該当曜日を「1」、非該当を「0」として 0-1 データ化。
- 時限 「1 限」「2 限」「3 限」「4 限」「5 限」「6 限」「7 限」「集中講義」の 8 変数。該当を「1」、非該当を「0」として 0-1 データ化。
- キャンパス 「千葉」「千葉第 2」「埼玉」「東京」の 4 変数。該当を「1」、非該当を「0」として 0-1 データ化。
- 学年 回答した学生の学年の平均値。5,6 年生のデータは不使用(欠測値扱い)。
- 性別 回答した学生のうち、女子が何%かを示した「女子比」。
- 学部 「総合福祉」「看護栄養」「コミュニティ政策」「経営」「教育」「人文」「その他」の 7 変数。回答した学生の所属学部の割合を数値化。たとえば、その授業の回答者が全員「総合福祉」であれば、「総合福祉」を「1」、その他の変数をすべて「0」となる。100 人の学生が回答した授業で、「総合福祉」が 20%、「コミュニティ政策」が 80%なら、「総合福祉」を「0.2」、「コミュニティ政策」を「0.8」とし、

その他の変数すべてを「0」となる。

- 履修人数 「10 人未満」「10 人～19 人」「20 人～49 人」「50 人～99 人」「100 人以上」の 5 項目として順序尺度化。
- 授業形態 講義形式を「1」、演習や実習等を「0」として 0-1 データ化。

なお、「授業形態」は今回初めて分析に用いたデータで、「演習」が 59%と最も多く、次いで「講義」(38%)です(図 1)。

講義形式とそれ以外では「履修人数」で顕著な差があります。講義形式では 50 人以上の授業が 60%であるのに対し、講義以外では 19 人以下の授業が過半数を超えています(図 2)。

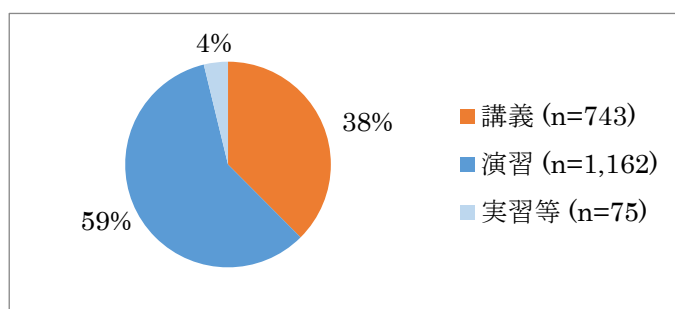


図 1 「授業形態」内訳(n=1,980)

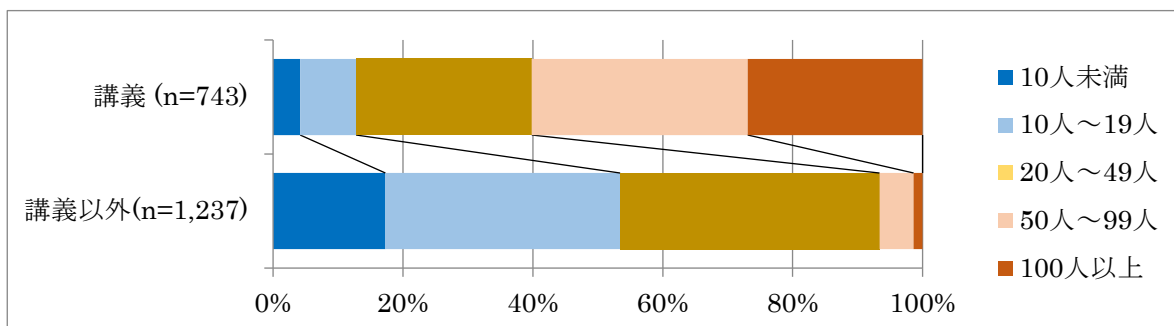


図 2 授業形態×履修人数(n=1,980)

アンケート結果(授業ごとの平均点)の単純集計結果を図 3 に示します。「予習復習時間」「難易度」を除く全ての変数は、最低 1 点(=「全くそう思わない」)、最高 4 点(=「大いにそう思う」)ですが、全て高得点側に分布しています。

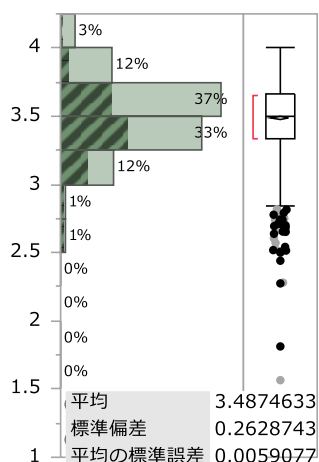
各グラフ内で濃い色は講義形式の授業ですが、「難易度」を除く全ての変数で、講義形式の授業ではピークが低得点側によっていることがわかります。この傾向は、とくに「Ⅱ-1 双方向型授業評価」等で顕著です。

図 4 に、授業ごとに集約する前の学生個人のデータの単純集計結果を示します。高得点側の回答が非常に多いこと、数少ない低得点側の回答の多くが講義形式の授業(グラフでは濃い色で表現)であることがわかります。

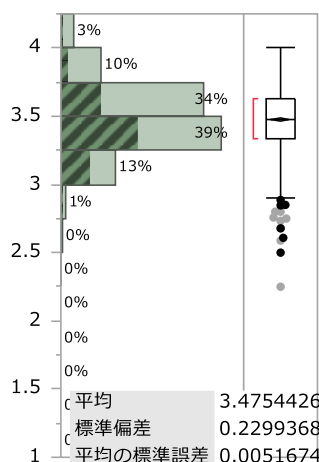
図3 授業単位の平均点データ(n=1,980) 単純集計結果 1/2

Q I 授業の構成について

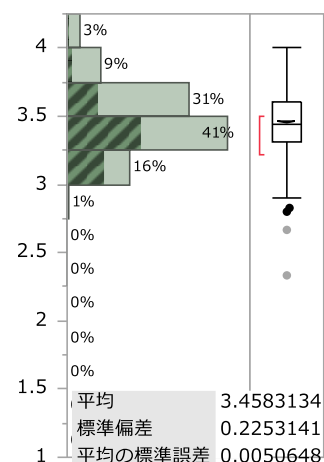
Q I-1 授業初回の授業概要の説明



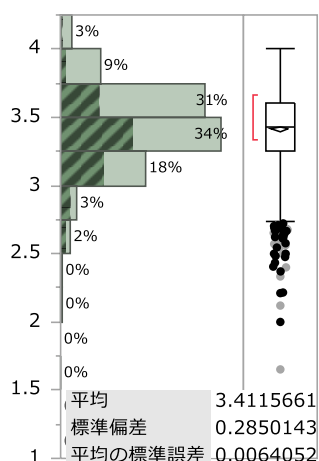
Q I-2 学生の授業概要説明の理解



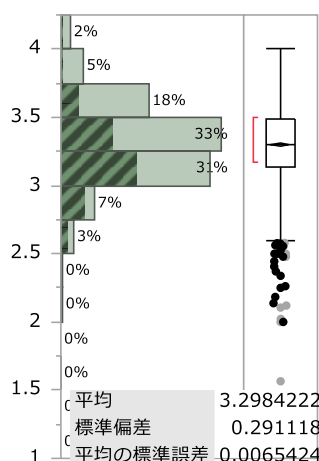
Q I-3 意欲的に取り組んだか



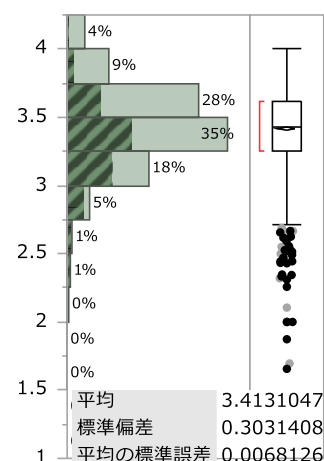
Q I-4 授業はシラバスにそって行われたか



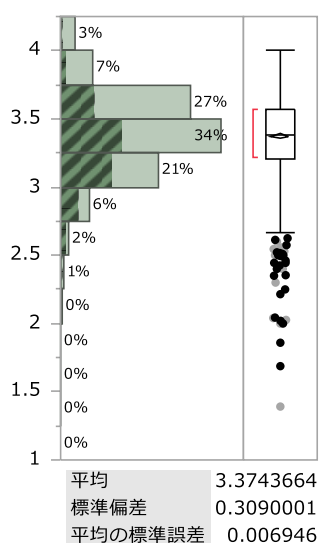
Q I-5 シラバスに記載された到達目標を達成できたか



Q I-6 事前事後学習の指示



Q I-7 疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫



Q I-8 授業1回に費やした予習復習時間の平均

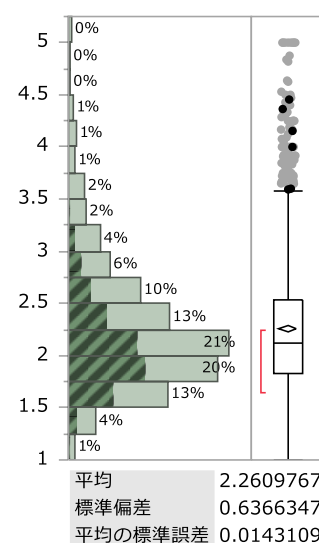
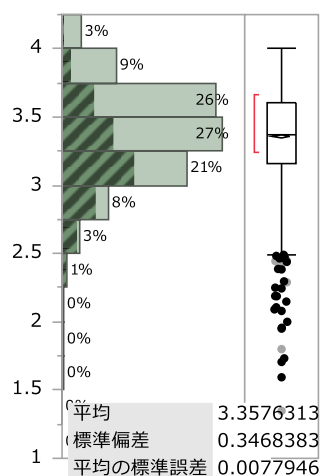


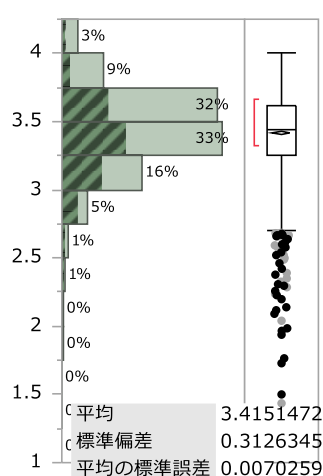
図3 授業単位の平均点データ(n=1,980) 単純集計結果 2/2

Q II 授業方法について

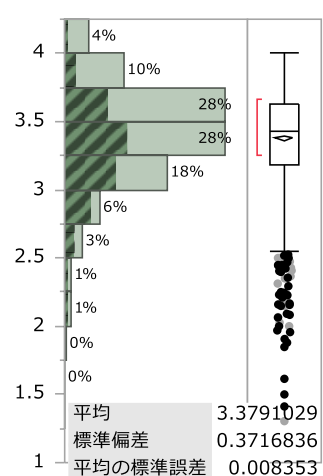
Q II-1 双方向形の授業は効果的に行われたか



Q II-2 教材は授業の理解に役立ったか

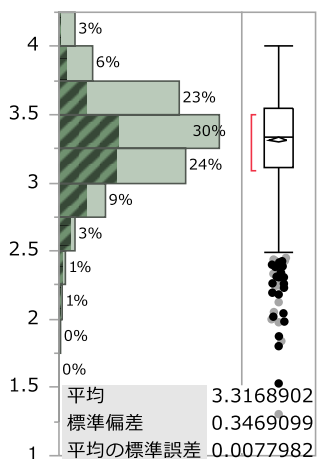


Q II-3 話し方や説明のわかりやすさ

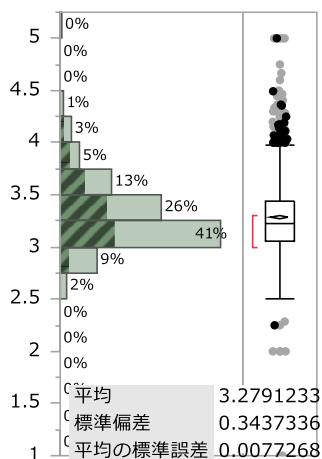


Q III 授業に対する評価について

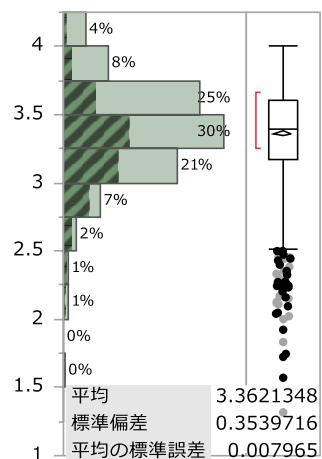
Q III-1 知的好奇心の刺激



Q III-2 難易度の適切さ

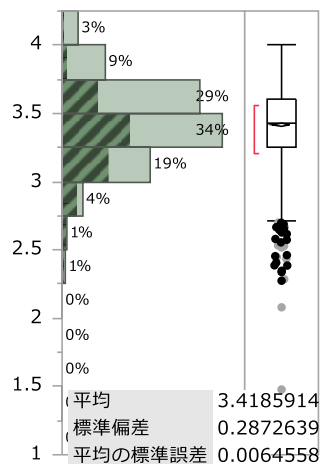


Q III-3 授業の満足度

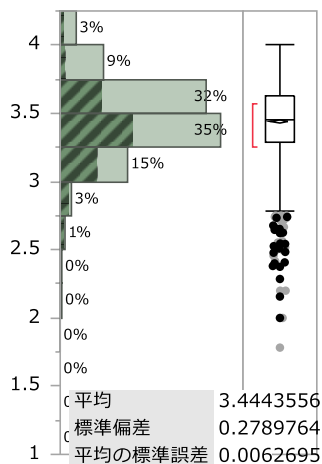


Q IV 授業環境について

Q IV-1 学習するのにふさわしい環境が保たれていたか



Q IV-2 授業に関する機器・備品の充実



Q IV-3 履修人数は適切か

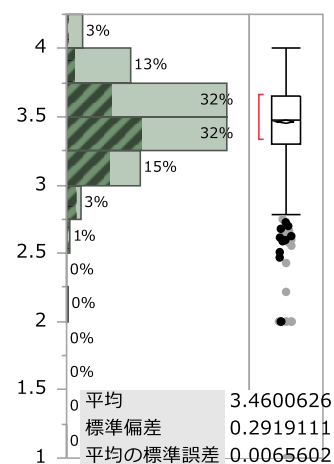
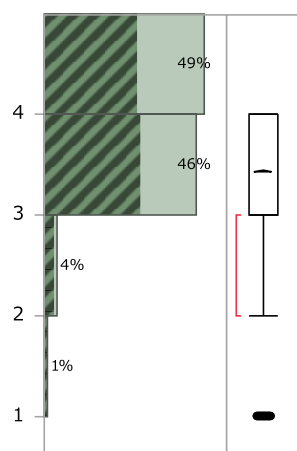


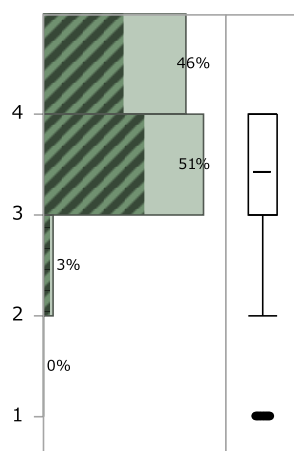
図 4 学生個人データ(n=63,729) 単純集計結果 1/2

Q I 授業の構成について

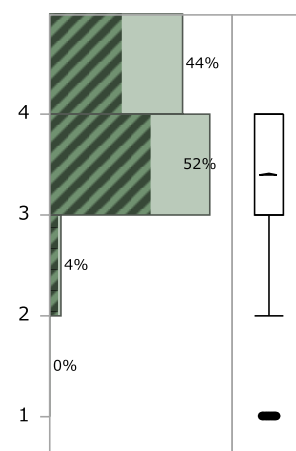
Q I-1 授業初回の授業概要の説明



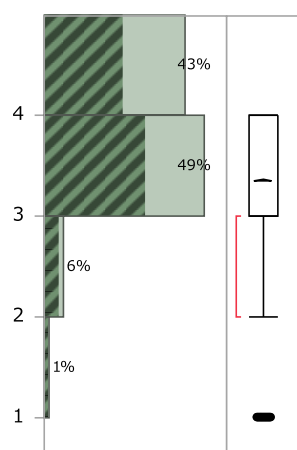
Q I-2 学生の授業概要説明の理解



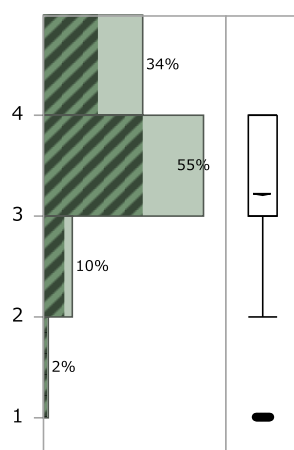
Q I-3 意欲的に取り組んだか



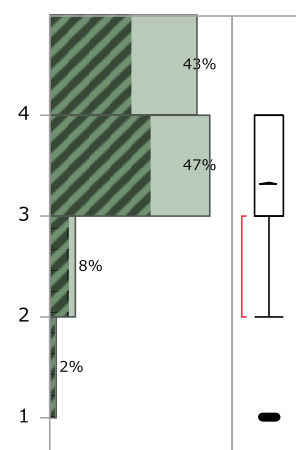
Q I-4 授業はシラバスにそって行われたか



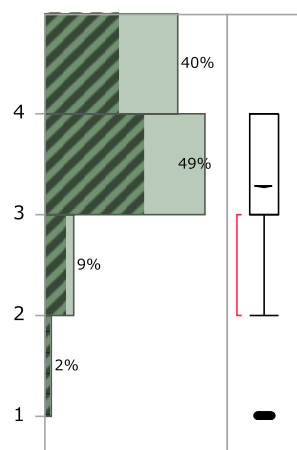
Q I-5 シラバスに記載された到達目標を達成できたか



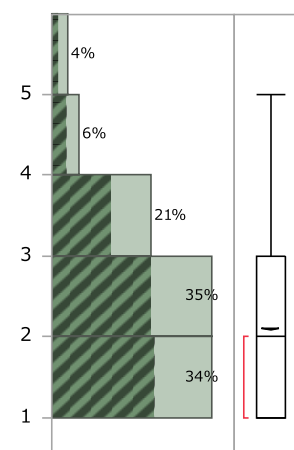
Q I-6 事前事後学習の指示



Q I-7 疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫



Q I-8 授業1回に費やした予習復習時間の平均



【凡例: 4水準】

- 4 大いにそう思う
- 3 ややそう思う
- 2 あまりそう思わない
- 1 全くそう思わない

【凡例: I 8 予習復習時間】

- 5 4時間以上
- 4 3時間～4時間未満
- 3 2時間～3時間未満
- 2 1時間～2時間未満
- 1 1時間未満

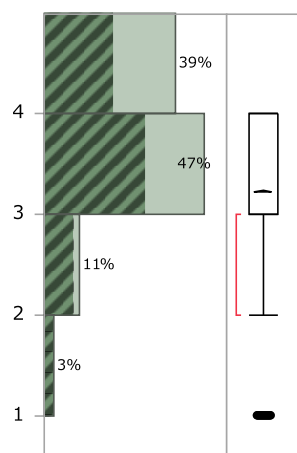
【凡例: III 2 難易度】

- 5 難しい
- 4 やや難しい
- 3 適切
- 2 やややさしい
- 1 やさしい

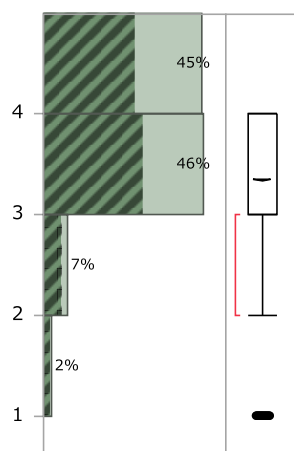
図 4 学生個人データ(n=63,729) 単純集計結果 2/2

Q II 授業方法について

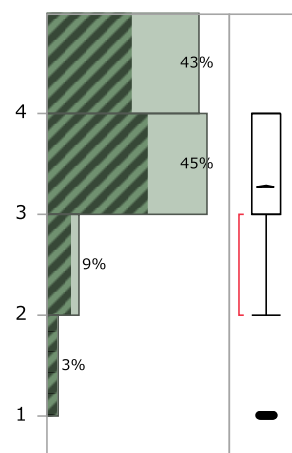
Q II-1 双方向形の授業は効果的に行われたか



Q II-2 教材は授業の理解に役立ったか

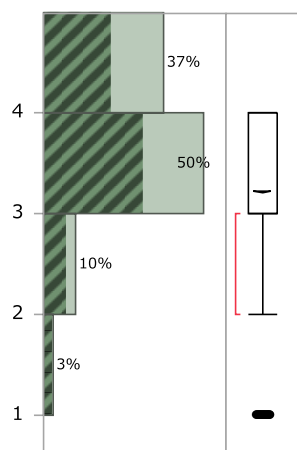


Q II-3 話し方や説明のわかりやすさ

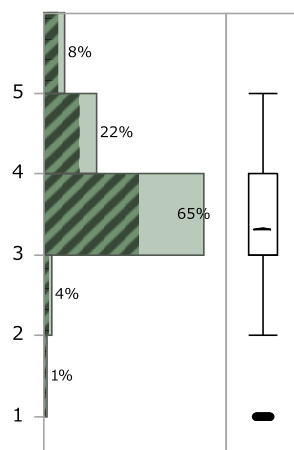


Q III 授業に対する評価について

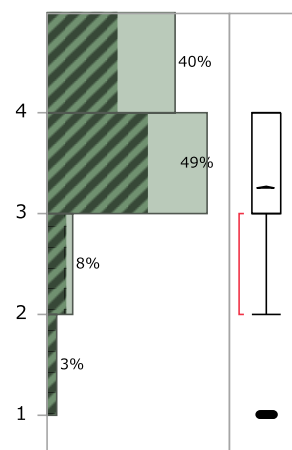
Q III-1 知的好奇心の刺激



Q III-2 難易度の適切さ

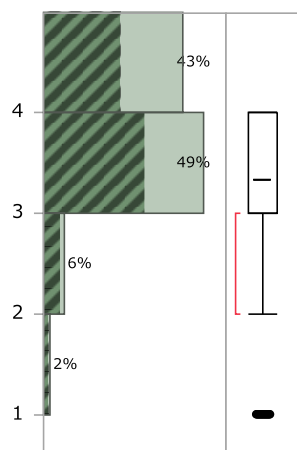


Q III-3 授業の満足度

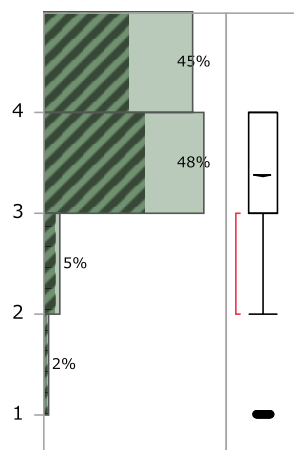


Q IV 授業環境について

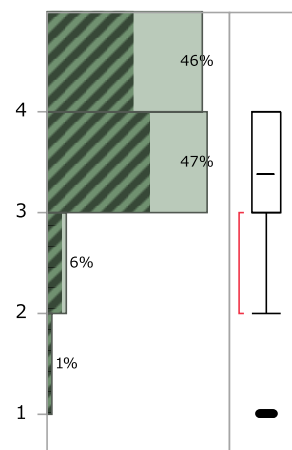
Q IV-1 学習するのにふさわしい環境が保たれていたか



Q IV-2 授業に関する機器・備品の充実



Q IV-3 履修人数は適切か



2. 2つの項目間の関連

(1) 相関係数行列

全項目間の関連を俯瞰するため、相関分析を行いました。その結果の相関係数行列を表 1 (全授業データで行った結果)、および表 2 (講義形式の授業のみで行ったアンケート調査部分の結果) に示します。

相関係数とは、2 つの変数の関連の強さの程度を表す指標で、 ± 1 の範囲内の値をとります。一方が大きくなるにつれもう一方も大きくなるという正の関連であれば+の値、一方が大きくなるにつれもう一方が小さくなるという負の関連であれば-の値、完全に一致していれば+1、完全に反対であれば-1 です。

表 1 では、数値の大きさを直感的に分かりやすくするために色分けしています。オレンジおよび濃い水色は ± 0.7 以上の高相関、薄いオレンジおよび水色は ± 0.4 以上 0.7 未満、グレーは ± 0.12 未満です。

濃い青色は+1 (同じ項目間の相関係数なので完全に一致) です。表 1 は、濃い青色ラインを境に右上と左下は同じ内容になっています。

表 1 授業単位データの相関係数行列(n=1,980) 1/3

■ =1 高相関 ■ : 0.7以上 ■ : -0.7以下 ■ : 0.4~0.7未満 ■ : -0.4~-0.7 低相関 ■ -0.12~0.12未満		前期	月	火	水	木	金	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	集中講義
学期(0-1)	前期	1.00	.01	.00	-.01	-.01	.02	.03	.03	-.01	.02	.01	.00	-.13	-.07
曜日 (0-1)	月	.01	1.00	-.23	-.24	-.20	-.24	-.02	-.01	.03	.10	.02	-.08	-.09	-.04
	火	.00	-.23	1.00	-.27	-.23	-.26	.01	-.01	-.04	-.01	.06	.06	.03	-.05
	水	-.01	-.24	-.27	1.00	-.24	-.29	.06	-.02	.03	-.03	.00	-.05	.00	-.05
	木	-.01	-.20	-.23	-.24	1.00	-.24	.02	.05	-.04	-.06	-.07	.09	.11	-.04
	金	.02	-.24	-.26	-.29	-.24	1.00	-.05	.02	.03	.02	.00	-.01	-.04	-.05
時限 (0-1)	1限	.03	-.02	.01	.06	.02	-.05	1.00	-.24	-.25	-.21	-.14	-.09	-.09	-.04
	2限	.03	-.01	-.01	-.02	.05	.02	-.24	1.00	-.31	-.26	-.18	-.12	-.11	-.05
	3限	-.01	.03	-.04	.03	-.04	.03	-.25	-.31	1.00	-.23	-.18	-.12	-.11	-.05
	4限	.02	.10	-.01	-.03	-.06	.02	-.21	-.26	-.23	1.00	-.14	-.10	-.09	-.04
	5限	.01	.02	.06	.00	-.07	.00	-.14	-.18	-.18	-.14	1.00	-.06	-.06	-.03
	6限	.00	-.08	.06	-.05	.09	-.01	-.09	-.12	-.12	-.10	-.06	1.00	-.04	-.02
	7限	-.13	-.09	.03	.00	.11	-.04	-.09	-.11	-.11	-.09	-.06	-.04	1.00	-.02
	集中講義	-.07	-.04	-.05	-.05	-.04	-.05	-.04	-.05	-.05	-.04	-.03	-.02	-.02	1.00
キャンパス (0-1)	千葉	-.01	-.05	.14	.04	-.13	.02	-.05	-.01	-.10	-.03	.07	.21	.20	-.09
	千葉第2	.05	-.03	.00	-.05	-.02	.04	.07	-.02	.01	-.04	.00	-.07	-.07	.12
	埼玉	-.01	.00	-.13	.00	.12	.02	-.02	.02	.09	.05	-.05	-.11	-.12	-.02
	東京	-.02	.09	-.02	-.03	.05	-.09	.03	.01	.02	.02	-.03	-.08	-.07	.04
学年	学年平均	-.05	-.04	.03	-.08	.07	-.03	-.16	-.12	-.06	-.02	.04	.27	.32	.11
性別	女子比	.03	-.02	.03	.00	-.10	.06	.02	-.02	.02	.03	.00	-.07	-.04	.05
学部 (割合)	総合福祉 率	.00	-.06	.17	.09	-.20	.01	-.02	-.01	-.10	.01	.11	.14	.09	-.07
	看護栄養 率	.05	.00	-.01	-.04	-.03	.03	.06	-.03	.01	-.03	.00	-.08	-.07	.12
	コミュニティ政策 率	-.01	-.02	-.03	-.08	.12	.03	-.05	.00	-.01	-.07	-.07	.15	.22	-.03
	経営 率	-.01	-.02	-.07	.06	.10	-.05	.02	.05	.08	-.02	-.06	-.10	-.09	-.03
	教育 率	.00	.03	-.10	-.06	.04	.10	-.05	-.04	.03	.10	.00	-.05	-.07	.02
	人文 率	-.02	.09	-.02	-.03	.05	-.09	.03	.01	.02	.02	-.03	-.08	-.07	.04
	その他 率	.02	-.01	-.01	.04	-.01	-.01	-.01	-.01	.05	-.01	-.01	-.01	-.01	.00
履修人数	履修人数(5水準)	.10	.09	.03	.02	.00	-.09	.14	.10	.03	-.01	-.01	-.22	-.23	-.07
回答者数	回答者数(5水準)	.12	.08	.03	.01	.00	-.07	.14	.09	.04	-.02	-.01	-.21	-.24	-.07
講義(0-1)	講義	.04	.08	-.02	-.01	.02	-.05	.11	.03	-.03	.01	.03	-.13	-.15	-.02
アンケート (平均値)	I 1授業説明 有無	.00	-.02	.03	.02	-.03	-.03	-.08	-.06	-.04	.03	.05	.12	.10	.03
	I 2授業説明 理解度	-.03	-.02	.03	.00	-.01	-.01	-.09	-.07	-.05	.03	.06	.13	.14	.01
	I 3授業説明 取組み度	-.05	-.05	.04	-.02	-.01	.02	-.10	-.07	-.04	.03	.05	.11	.17	-.01
	I 4シラバス 忠実度	-.03	-.04	.03	-.01	.00	.01	-.07	-.07	-.03	.02	.05	.10	.09	.04
	I 5シラバス 目標達成度	-.11	-.06	-.01	-.03	.03	.04	-.11	-.09	-.03	.03	.04	.14	.16	.04
	I 6事前事後課題の指示	-.05	-.04	.03	-.02	-.01	.03	-.09	-.07	-.02	.01	.02	.18	.12	-.01
	I 7双方向性工夫の有無	-.09	-.06	.02	-.03	.00	.03	-.10	-.08	-.02	.00	.04	.16	.15	.03
	I 8予習復習時間	-.16	.03	.02	-.03	-.01	-.04	-.08	-.10	.00	-.02	-.03	.20	.25	.03
	II 1双方向型授業評価	-.06	-.08	.03	-.01	.00	.02	-.12	-.07	-.02	.00	.04	.15	.16	.06
	II 2教材役立ち度	-.04	-.06	.03	-.02	-.01	.02	-.07	-.06	-.02	.02	.03	.10	.09	.06
	II 3話し方等分かりやすさ	-.06	-.06	.02	-.01	.01	.01	-.10	-.07	-.03	.01	.03	.12	.16	.07
	III 1知的刺激	-.09	-.06	.03	-.05	.01	.04	-.11	-.07	-.04	.02	.05	.13	.14	.07
	III 2難易度	-.01	-.01	.05	.00	-.03	-.02	.04	-.02	-.02	.01	.01	.08	-.05	.00
	III 3授業満足度	-.07	-.06	.04	-.03	.00	.01	-.10	-.08	-.03	.01	.06	.13	.15	.08
	IV 1受講態度への対応	-.05	-.05	.02	-.01	.00	.02	-.05	-.08	-.05	.00	.03	.15	.15	.04
	IV 2機器・備品等充実度	-.02	-.08	.05	-.01	-.02	.03	-.07	-.06	-.05	.01	.03	.15	.13	.03
	IV 3履修人数適切さ	-.01	-.07	.04	.00	-.05	.05	-.06	-.04	-.04	.01	.07	.09	.05	.05

表 1 授業単位データの相関係数行列(n=1,980) 2/3

=1 高相関 : 0.7以上 : -0.7以下 : 0.4～0.7未満 : -0.4～-0.7 低相関 -0.12～0.12未満		千葉	千葉第2	埼玉	東京	学年平均	女子比	総合福祉_率	看護栄養_率	コミュニティ政策_率	経営_率	教育_率	人文_率	その他_率	履修人数(5水準)	回答者数(5水準)	講義
学期(0-1)	前期	-.01	.05	-.01	-.02	-.05	.03	.00	.05	-.01	-.01	.00	-.02	.02	.10	.12	.04
曜日 (0-1)	月	-.05	-.03	.00	.09	-.04	-.02	-.06	.00	-.02	-.02	.03	.09	-.01	.09	.08	.08
	火	.14	.00	-.13	-.02	.03	.03	.17	-.01	-.03	-.07	-.10	-.02	-.01	.03	.03	-.02
	水	.04	-.05	.00	-.03	-.08	.00	.09	-.04	-.08	.06	-.06	-.03	.04	.02	.01	-.01
	木	-.13	-.02	.12	.05	.07	-.10	-.20	-.03	.12	.10	.04	.05	-.01	.00	.00	.02
	金	.02	.04	.02	-.09	-.03	.06	.01	.03	.03	-.05	.10	-.09	-.01	-.09	-.07	-.05
時限 (0-1)	1限	-.05	.07	-.02	.03	-.16	.02	-.02	.06	-.05	.02	-.05	.03	-.01	.14	.14	.11
	2限	-.01	-.02	.02	.01	-.12	-.02	-.01	-.03	.00	.05	-.04	.01	-.01	.10	.09	.03
	3限	-.10	.01	.09	.02	-.06	.02	-.10	.01	-.01	.08	.03	.02	.05	.03	.04	-.03
	4限	-.03	-.04	.05	.02	-.02	.03	.01	-.03	-.07	-.02	.10	.02	-.01	-.01	-.02	.01
	5限	.07	.00	-.05	-.03	.04	.00	.11	.00	-.07	-.06	.00	-.03	-.01	-.01	-.01	.03
	6限	.21	-.07	-.11	-.08	.27	-.07	.14	-.08	.15	-.10	-.05	-.08	-.01	-.22	-.21	-.13
	7限	.20	-.07	-.12	-.07	.32	-.04	.09	-.07	.22	-.09	-.07	-.07	-.01	-.23	-.24	-.15
	集中講義	-.09	.12	-.02	.04	.11	.05	-.07	.12	-.03	-.03	.02	.04	.00	-.07	-.07	-.02
キャンパス (0-1)	千葉	1.00	-.32	-.60	-.37	.16	-.07	.83	-.29	.35	-.44	-.34	-.37	.02	-.02	-.03	.01
	千葉第2	-.32	1.00	-.22	-.14	-.07	.44	-.27	.98	-.11	-.16	.13	-.14	-.01	.22	.24	.12
	埼玉	-.60	-.22	1.00	-.25	-.12	-.08	-.50	-.24	-.21	.73	.56	-.25	-.02	-.09	-.11	-.10
	東京	-.37	-.14	-.25	1.00	-.01	-.20	-.31	-.14	-.13	-.18	-.14	1.00	.01	-.06	-.03	.02
学年	学年平均	.16	-.07	-.12	-.01	1.00	-.08	.13	-.08	.08	-.10	-.05	-.01	.00	-.35	-.41	.03
性別	女子比	-.07	.44	-.08	-.20	-.08	1.00	.13	.45	-.37	-.29	.24	-.20	-.01	.20	.25	.01
学部 (割合)	総合福祉_率	.83	-.27	-.50	-.31	.13	.13	1.00	-.26	-.21	-.37	-.28	-.31	.00	-.03	-.01	-.03
	看護栄養_率	-.29	.98	-.24	-.14	-.08	.45	-.26	1.00	-.11	-.18	-.14	-.14	-.01	.25	.27	.15
	コミュニティ政策_率	.35	-.11	-.21	-.13	.08	-.37	-.21	-.11	1.00	-.15	-.12	-.13	-.01	-.02	-.07	.03
	経営_率	-.44	-.16	.73	-.18	-.10	-.29	-.37	-.18	-.15	1.00	-.15	-.18	-.01	-.05	-.10	-.06
	教育_率	-.34	-.13	.56	-.14	-.05	.24	-.28	-.14	-.12	-.15	1.00	-.14	-.01	-.06	-.04	-.08
	人文_率	-.37	-.14	-.25	1.00	-.01	-.20	-.31	-.14	-.13	-.18	-.14	1.00	.01	-.06	-.03	.02
	その他_率	.02	-.01	-.02	.01	.00	-.01	.00	-.01	-.01	-.01	-.01	.01	1.00	-.03	-.03	.03
履修人数	履修人数(5水準)	-.02	.22	-.09	-.06	-.35	.20	-.03	.25	-.02	-.05	-.06	-.06	-.03	1.00	.92	.56
回答者数	回答者数(5水準)	-.03	.24	-.11	-.03	-.41	.25	-.01	.27	-.07	-.10	-.04	-.03	-.03	.92	1.00	.50
講義(0-1)	講義	.01	.12	-.10	.02	.03	.01	-.03	.15	.03	-.06	-.08	.02	.03	.56	.50	1.00
アンケート (平均値)	I 1授業説明_有無	.15	-.11	-.08	-.02	.10	-.05	.18	-.12	-.03	-.12	.03	-.02	-.04	-.32	-.28	-.23
	I 2授業説明_理解度	.12	-.12	-.03	-.03	.14	-.05	.14	-.13	.00	-.10	.07	-.03	-.09	-.34	-.32	-.24
	I 3授業説明_取組み度	.13	-.11	-.03	-.04	.14	-.04	.14	-.13	.01	-.11	.09	-.04	.06	-.39	-.36	-.30
	I 4シラバス忠実度	.08	-.03	-.02	-.06	.09	.00	.11	-.05	-.02	-.09	.08	-.06	-.11	-.29	-.26	-.25
	I 5シラバス目標達成度	.05	-.10	.06	-.07	.16	-.05	.05	-.12	.04	-.04	.14	-.07	-.06	-.39	-.37	-.29
	I 6事前事後課題の指示	.13	-.13	-.02	-.04	.14	-.05	.15	-.15	.01	-.08	.07	-.04	-.10	-.40	-.36	-.30
	I 7双方向性工夫の有無	.10	-.09	-.01	-.05	.16	-.03	.11	-.10	.01	-.09	.09	-.05	-.10	-.41	-.38	-.29
	I 8予習復習時間	.05	-.07	-.10	.12	.35	-.11	.06	-.08	.01	-.07	-.07	.12	.01	-.34	-.34	-.20
	II 1双方向型授業評価	.09	-.07	-.01	-.06	.19	-.01	.12	-.09	-.01	-.07	.07	-.05	-.09	-.49	-.45	-.40
	II 2教材役立ち度	.11	-.08	-.05	-.02	.11	-.02	.14	-.10	-.02	-.11	.07	-.02	-.14	-.34	-.30	-.22
	II 3話し方等分かりやすさ	.09	-.09	-.01	-.03	.16	-.05	.11	-.11	.00	-.07	.06	-.03	-.12	-.39	-.36	-.28
	III 1知的刺激	.08	-.07	-.04	.00	.21	.00	.11	-.09	-.03	-.11	.08	.00	-.06	-.41	-.38	-.24
	III 2難易度	.10	.08	-.16	-.01	.03	.03	.12	.08	-.03	-.12	-.08	-.01	.11	.10	.11	.14
	III 3授業満足度	.10	-.07	-.05	-.01	.18	-.01	.14	-.09	-.04	-.12	.08	-.01	-.06	-.41	-.37	-.26
	IV 1受講態度への対応	.13	-.07	-.05	-.07	.13	-.02	.16	-.08	-.02	-.11	.07	-.07	-.04	-.42	-.38	-.29
	IV 2機器・備品等充実度	.17	-.04	-.04	-.16	.08	.03	.20	-.05	-.02	-.13	.09	-.16	-.12	-.35	-.31	-.26
	IV 3履修人数適切さ	.12	-.03	-.07	-.05	.06	.07	.19	-.05	-.09	-.14	.07	-.05	.00	-.35	-.30	-.27

表 1 授業単位データの相関係数行列(n=1,980) 3/3

■ = 1 高相関 : 0.7以上 : -0.7以下 : 0.4～0.7未満 : -0.4～-0.7 低相関 -0.12～0.12未満		I 1授業説明_有無	I 2授業説明_理解度	I 3授業説明_取組み度	I 4シラバス忠実度	I 5シラバス目標達成度	I 6事前事後課題の指示	I 7双方向性工夫の有無	I 8予習復習時間	II 1双方向型授業評価	II 2教材役立ち度	II 3話し方等分かりやすさ	III 1知的刺激	III 2難易度	III 3授業満足度	IV 1受講態度への対応	IV 2機器・備品等充実度	IV 3履修人数適切さ
学期(0-1)	前期	.00	-.03	-.05	-.03	-.11	-.05	-.09	-.16	-.06	-.04	-.06	-.09	-.01	-.07	-.05	-.02	-.01
曜日 (0-1)	月	-.02	-.02	-.05	-.04	-.06	-.04	-.06	.03	-.08	-.06	-.06	-.06	-.01	-.06	-.05	-.08	-.07
	火	.03	.03	.04	.03	-.01	.03	.02	.02	.03	.03	.02	.03	.05	.04	.02	.05	.04
	水	.02	.00	-.02	-.01	-.03	-.02	-.03	-.03	-.01	-.02	-.01	-.05	.00	-.03	-.01	-.01	.00
	木	-.03	-.01	-.01	.00	.03	-.01	.00	-.01	.00	-.01	.01	.01	-.03	.00	.00	-.02	-.05
	金	-.03	-.01	.02	.01	.04	.03	.03	-.04	.02	.02	.01	.04	-.02	.01	.02	.03	.05
時限 (0-1)	1限	-.08	-.09	-.10	-.07	-.11	-.09	-.10	-.08	-.12	-.07	-.10	-.11	.04	-.10	-.05	-.07	-.06
	2限	-.06	-.07	-.07	-.07	-.09	-.07	-.08	-.10	-.07	-.06	-.07	-.07	-.02	-.08	-.08	-.06	-.04
	3限	-.04	-.05	-.04	-.03	-.03	-.02	-.02	.00	-.02	-.02	-.03	-.04	-.02	-.03	-.05	-.05	-.04
	4限	.03	.03	.03	.02	.03	.01	.00	-.02	.00	.02	.01	.02	.01	.01	.00	.01	.01
	5限	.05	.06	.05	.05	.04	.02	.04	-.03	.04	.03	.03	.05	.01	.06	.03	.03	.07
	6限	.12	.13	.11	.10	.14	.18	.16	.20	.15	.10	.12	.13	.08	.13	.15	.15	.09
	7限	.10	.14	.17	.09	.16	.12	.15	.25	.16	.09	.16	.14	-.05	.15	.15	.13	.05
	集中講義	.03	.01	-.01	.04	.04	-.01	.03	.03	.06	.06	.07	.07	.00	.08	.04	.03	.05
キャンパス (0-1)	千葉	.15	.12	.13	.08	.05	.13	.10	.05	.09	.11	.09	.08	.10	.10	.13	.17	.12
	千葉第2	-.11	-.12	-.11	-.03	-.10	-.13	-.09	-.07	-.07	-.08	-.09	-.07	.08	-.07	-.07	-.04	-.03
	埼玉	-.08	-.03	-.03	-.02	.06	-.02	-.01	-.10	-.01	-.05	-.01	-.04	-.16	-.05	-.05	-.04	-.07
	東京	-.02	-.03	-.04	-.06	-.07	-.04	-.05	.12	-.06	-.02	-.03	.00	-.01	-.01	-.07	-.16	-.05
学年	学年平均	.10	.14	.14	.09	.16	.14	.16	.35	.19	.11	.16	.21	.03	.18	.13	.08	.06
性別	女子比	-.05	-.05	-.04	.00	-.05	-.05	-.03	-.11	-.01	-.02	-.05	.00	.03	-.01	-.02	.03	.07
学部 (割合)	総合福祉_率	.18	.14	.14	.11	.05	.15	.11	.06	.12	.14	.11	.11	.12	.14	.16	.20	.19
	看護栄養_率	-.12	-.13	-.13	-.05	-.12	-.15	-.10	-.08	-.09	-.10	-.11	-.09	.08	-.09	-.08	-.05	-.05
	コミュニティ政策_率	-.03	.00	.01	-.02	.04	.01	.01	.01	-.01	-.02	.00	-.03	-.03	-.04	-.02	-.02	-.09
	経営_率	-.12	-.10	-.11	-.09	-.04	-.08	-.09	-.07	-.07	-.11	-.07	-.11	-.12	-.12	-.11	-.13	-.14
	教育_率	.03	.07	.09	.08	.14	.07	.07	.07	.07	.07	.06	.08	-.08	.08	.07	.09	.07
	人文_率	-.02	-.03	-.04	-.06	-.07	-.04	-.05	.12	-.05	-.02	-.03	.00	-.01	-.01	-.07	-.16	-.05
	その他_率	-.04	-.09	.06	-.11	-.06	-.10	-.10	.01	-.09	-.14	-.12	-.06	.11	-.06	-.04	-.12	.00
履修人数	履修人数(5水準)	-.32	-.34	-.39	-.29	-.39	-.40	-.41	-.34	-.49	-.34	-.39	-.41	.10	-.41	-.42	-.35	-.35
回答者数	回答者数(5水準)	-.28	-.32	-.36	-.26	-.37	-.36	-.38	-.34	-.45	-.30	-.36	-.38	.11	-.37	-.38	-.31	-.30
講義(0-1)	講義	-.23	-.24	-.30	-.25	-.29	-.30	-.29	-.20	-.40	-.22	-.28	-.24	.14	-.26	-.29	-.26	-.27
アンケート (平均値)	I 1授業説明_有無	1.00	.79	.66	.78	.72	.82	.80	.28	.74	.80	.80	.75	-.07	.78	.80	.74	.66
	I 2授業説明_理解度	.79	1.00	.75	.75	.75	.76	.79	.24	.70	.76	.78	.75	-.19	.76	.72	.69	.59
	I 3授業説明_取組み度	.66	.75	1.00	.70	.75	.70	.73	.29	.70	.65	.67	.69	-.10	.67	.68	.62	.56
	I 4シラバス忠実度	.78	.75	.70	1.00	.82	.80	.81	.24	.73	.79	.78	.73	-.14	.74	.73	.72	.63
	I 5シラバス目標達成度	.72	.75	.75	.82	1.00	.78	.83	.26	.77	.75	.79	.79	-.25	.76	.73	.71	.63
	I 6事前事後課題の指示	.82	.76	.70	.80	.78	1.00	.88	.34	.80	.82	.82	.78	-.13	.80	.79	.77	.64
	I 7双方向性工夫の有無	.80	.79	.73	.81	.83	.88	1.00	.31	.84	.84	.86	.83	-.17	.83	.81	.76	.66
	I 8予習復習時間	.28	.24	.29	.24	.26	.34	.31	1.00	.31	.21	.22	.29	.32	.27	.27	.20	.20
	II 1双方向型授業評価	.74	.70	.70	.73	.77	.80	.84	.31	1.00	.81	.85	.82	-.19	.82	.79	.75	.65
	II 2教材役立ち度	.80	.76	.65	.79	.75	.82	.84	.21	.81	1.00	.89	.84	-.19	.86	.81	.79	.63
	II 3話し方等分かりやすさ	.80	.78	.67	.78	.79	.82	.86	.22	.85	.89	1.00	.87	-.27	.89	.81	.77	.65
	III 1知的刺激	.75	.75	.69	.73	.79	.78	.83	.29	.82	.84	.87	1.00	-.20	.91	.79	.72	.64
	III 2難易度	-.07	-.19	-.10	-.14	-.25	-.13	-.17	.32	-.19	-.19	-.27	-.20	1.00	-.21	-.07	-.11	-.07
	III 3授業満足度	.78	.76	.67	.74	.76	.80	.83	.27	.82	.86	.89	.91	-.21	1.00	.81	.76	.67
	IV 1受講態度への対応	.80	.72	.68	.73	.73	.79	.81	.27	.79	.81	.81	.79	-.07	.81	1.00	.83	.71
	IV 2機器・備品等充実度	.74	.69	.62	.72	.71	.77	.76	.20	.75	.79	.77	.72	-.11	.76	.83	1.00	.70
	IV 3履修人数適切さ	.66	.59	.56	.63	.63	.64	.66	.20	.65	.63	.65	.64	-.07	.67	.71	.70	1.00

表 2 講義形式の授業単位データの相関係数行列 (n=743)

■ =1 高相関 ■ : 0.7以上 ■ : -0.7以下 ■ : 0.4~0.7未満 ■ : -0.4~-0.7 低相関 ■ -0.12~0.12未満		I 1 授業説明_有無	I 2 授業説明_理解度	I 3 授業説明_取組み度	I 4 シラバス 忠実度	I 5 シラバス 目標達成度	I 6 事前事後課題の指示	I 7 双方向性工夫の有無	I 8 予習復習時間	II 1 双方向型授業評価	II 2 教材役立ち度	II 3 話し方等分かりやすさ	III 1 知的刺激	III 2 難易度	III 3 授業満足度	IV 1 受講態度への対応	IV 2 機器・備品等充実度	IV 3 履修人数適切さ
学期(0-1)	前期	-.03	-.05	-.05	-.06	-.12	-.07	-.11	-.05	-.07	-.08	-.08	-.12	.04	-.09	-.09	-.04	-.04
曜日	月	.00	-.01	-.01	-.05	-.04	-.03	-.05	.04	-.05	-.05	-.06	-.05	-.03	-.06	-.03	-.02	-.05
(0-1)	火	.02	.02	-.01	.01	-.03	.01	.00	-.02	-.03	-.01	-.01	-.04	.06	-.02	-.01	.01	-.02
	水	-.01	-.02	-.01	-.02	-.04	-.02	-.03	.02	-.02	-.03	-.03	-.03	.05	-.03	-.02	-.05	-.03
	木	-.04	-.03	-.03	-.01	.01	-.02	-.01	-.03	.01	.00	.02	.02	-.01	.00	-.01	-.02	-.03
	金	.02	.05	.07	.05	.08	.08	.08	-.01	.08	.08	.07	.09	-.06	.09	.06	.06	.10
時限	1限	.00	.02	-.02	.01	-.01	.02	.01	.06	-.01	.01	.02	-.01	.04	.01	.04	.02	-.01
(0-1)	2限	-.02	-.03	-.01	-.03	-.03	-.01	-.01	-.05	.00	-.01	-.03	-.02	-.02	-.05	-.03	-.03	-.03
	3限	-.04	-.05	-.04	-.05	-.03	-.03	-.03	.07	.00	-.04	-.03	-.03	-.02	-.03	-.04	-.04	-.04
	4限	.04	.06	.06	.01	.02	.02	.00	-.03	.02	.02	.02	.02	-.02	.03	.02	.03	.04
	5限	.02	.00	.02	.04	.05	.01	.01	-.07	-.01	.00	.01	.03	.02	.03	-.01	.02	.03
	6限	.00	.00	.00	.00	.00	.02	.01	.09	.01	-.01	-.01	-.01	.08	-.01	.01	.01	-.01
	集中講義	.03	.00	-.04	.10	.08	-.04	.06	-.06	.04	.09	.08	.08	.04	.11	.05	.10	.11
キャンパス	千葉	.09	.07	.08	-.02	.00	.06	.00	-.02	-.05	.00	-.03	-.02	.03	-.03	-.01	.02	.01
(0-1)	千葉第2	-.03	-.04	-.07	.07	-.05	-.06	.01	-.13	.01	-.03	-.02	-.03	.09	-.01	.00	.05	.08
	埼玉	-.11	-.07	-.03	-.07	.02	-.05	-.04	-.05	.02	-.07	-.03	-.06	-.07	-.06	-.06	-.06	-.18
	東京	.04	.03	.00	.04	.02	.03	.03	.23	.03	.10	.09	.13	-.05	.14	.08	-.02	.12
学年	学年平均	.01	.06	.04	.06	.11	.09	.08	.17	.11	.06	.07	.10	-.12	.10	.07	.03	.08
性別	女子比	.01	-.03	-.04	.07	-.02	-.03	.01	-.19	.01	-.02	-.04	-.03	.07	-.03	.01	.08	.10
学部	総合福祉_率	.15	.13	.12	.06	.04	.11	.06	.00	.01	.07	.03	.06	.02	.05	.06	.09	.09
(割合)	看護栄養_率	-.04	-.06	-.10	.04	-.07	-.08	-.02	-.15	-.02	-.04	-.03	-.05	.09	-.04	-.01	.04	.06
	コミュニティ政策_率	-.07	-.05	-.03	-.08	-.04	-.04	-.04	-.02	-.05	-.08	-.06	-.10	.02	-.11	-.09	-.08	-.10
	経営_率	-.15	-.12	-.13	-.12	-.06	-.10	-.11	-.10	-.06	-.13	-.08	-.13	-.10	-.13	-.15	-.14	-.24
	教育_率	.02	.04	.13	.05	.12	.06	.09	.05	.11	.06	.06	.08	.03	.07	.10	.10	.02
	人文_率	.04	.03	.00	.04	.02	.03	.03	.23	.03	.10	.09	.13	-.05	.14	.08	-.02	.12
	その他_率	-.06	-.17	.12	-.18	-.10	-.16	-.16	.03	-.13	-.21	-.17	-.08	.21	-.08	-.05	-.19	.02
履修人数	履修人数(5水準)	-.24	-.26	-.36	-.22	-.32	-.31	-.33	-.29	-.35	-.29	-.29	-.37	.11	-.35	-.41	-.28	-.37
回答者数	回答者数(5水準)	-.18	-.22	-.31	-.18	-.30	-.25	-.29	-.25	-.30	-.23	-.24	-.31	.15	-.28	-.33	-.22	-.28
アンケート	I 1 授業説明_有無	1.00	.82	.65	.78	.78	.87	.84	.24	.75	.86	.85	.81	-.27	.83	.81	.83	.70
(平均値)	I 2 授業説明_理解度	.82	1.00	.71	.74	.77	.79	.78	.19	.70	.79	.82	.77	-.35	.78	.72	.75	.65
	I 3 授業説明_取組み度	.65	.71	1.00	.62	.73	.68	.68	.31	.69	.61	.64	.68	-.16	.65	.66	.61	.61
	I 4 シラバス 忠実度	.78	.74	.62	1.00	.85	.77	.80	.21	.75	.80	.81	.76	-.30	.78	.71	.77	.71
	I 5 シラバス 目標達成度	.78	.77	.73	.85	1.00	.81	.86	.23	.84	.82	.84	.83	-.43	.83	.76	.80	.71
	I 6 事前事後課題の指示	.87	.79	.68	.77	.81	1.00	.89	.35	.82	.84	.85	.82	-.30	.83	.79	.82	.67
	I 7 双方向性工夫の有無	.84	.78	.68	.80	.86	.89	1.00	.27	.86	.88	.89	.86	-.31	.87	.82	.83	.72
	I 8 予習復習時間	.24	.19	.31	.21	.23	.35	.27	1.00	.32	.20	.20	.26	.20	.25	.27	.21	.21
	II 1 双方向型授業評価	.75	.70	.69	.75	.84	.82	.86	.32	1.00	.81	.84	.82	-.32	.81	.78	.79	.69
	II 2 教材役立ち度	.86	.79	.61	.80	.82	.84	.88	.20	.81	1.00	.94	.90	-.36	.91	.84	.86	.71
	II 3 話し方等分かりやすさ	.85	.82	.64	.81	.84	.85	.89	.20	.84	.94	1.00	.92	-.41	.94	.84	.83	.71
	III 1 知的刺激	.81	.77	.68	.76	.83	.82	.86	.26	.82	.90	.92	1.00	-.36	.95	.85	.82	.72
	III 2 難易度	-.27	-.35	-.16	-.30	-.43	-.30	-.31	.20	-.32	-.36	-.41	-.36	1.00	-.37	-.21	-.25	-.19
	III 3 授業満足度	.83	.78	.65	.78	.83	.83	.87	.25	.81	.91	.94	.95	-.37	1.00	.84	.83	.73
	IV 1 受講態度への対応	.81	.72	.66	.71	.76	.79	.82	.27	.78	.84	.84	.85	-.21	.84	1.00	.86	.77
	IV 2 機器・備品等充実度	.83	.75	.61	.77	.80	.82	.83	.21	.79	.86	.83	.82	-.25	.83	.86	1.00	.76
	IV 3 履修人数適切さ	.70	.65	.61	.71	.71	.67	.72	.21	.69	.71	.71	.72	-.19	.73	.77	.76	1.00

(2) アンケート項目間の関連

アンケート項目間の相関係数行列(表 1-3/3、および表 2 の下側)をみると、「難易度(QⅢ2)」
「予習復習時間(QⅠ8)」を除くすべての項目間に正の高い相関があることがわかります。「授業満足度」との関連については、たとえば以下のようなことがいえます。

- 知的好奇心が刺激される授業は、満足度が高い授業である(図 5 左上)。
- 双方向型の授業は、満足度が高い授業である(図 5 右上)。
- 話し方等が分かりやすい授業は、満足度が高い授業である(図 5 左下)。

また、「予習復習時間」は、他の調査項目に比べると、どの調査項目とも相関は低いという結果でした(表 1-3/3、表 2、および図 5 右下)。

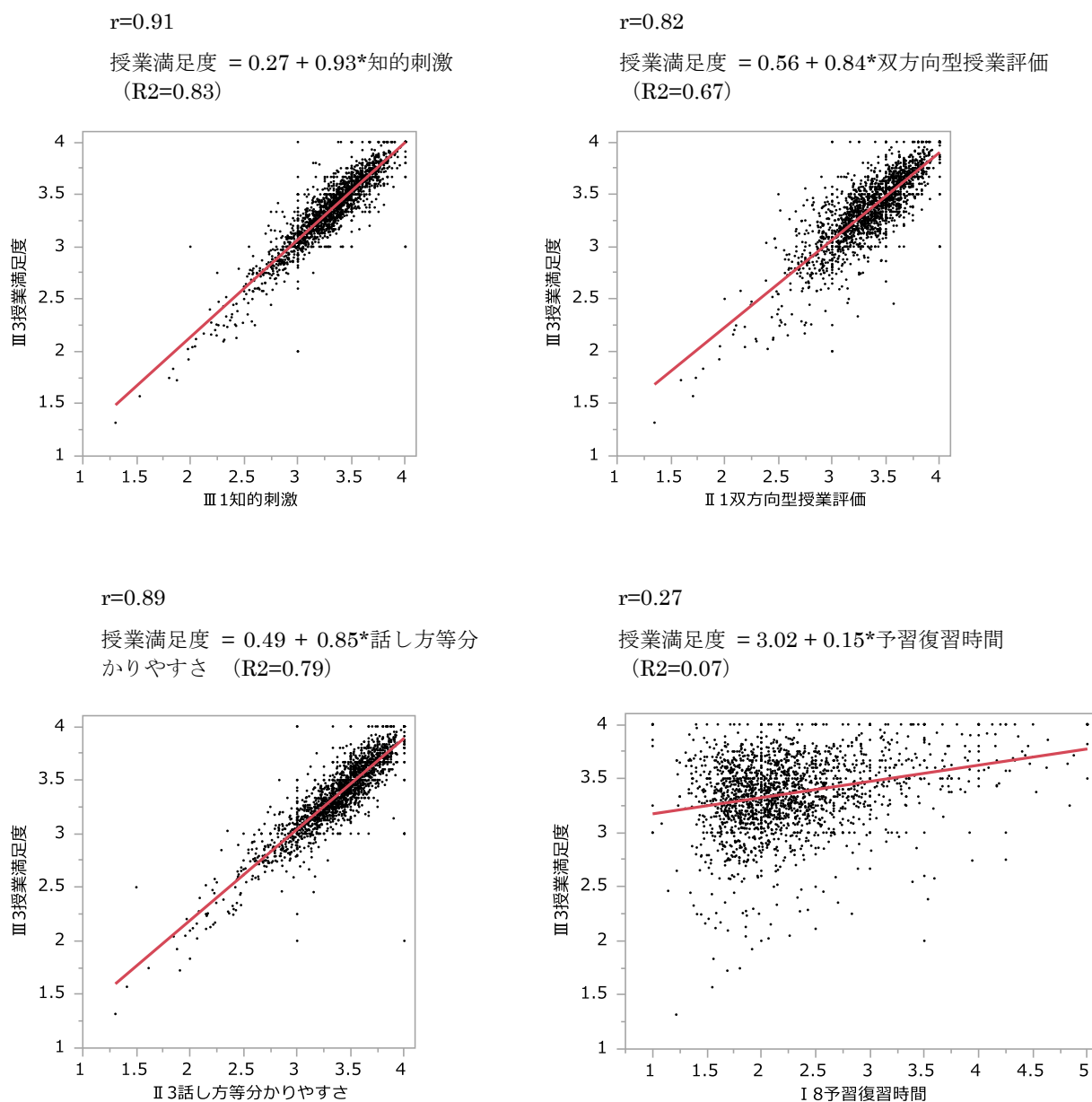


図 5 「授業満足度」と「知的刺激」「双方向型の授業」「話し方等分かりやすさ」「予習復習時間」との
関連(全授業データを使用)

図 5 は全授業データの結果ですが、講義形式のみで分析しても傾向は全く同じです。

「難易度」については、「予習復習時間」を除き、すべて項目との間に負の相関がありました。全授業データの相関係数の絶対値がもっとも大きいのは「予習復習時間」の $r=0.32$ 、次いで「話し方等分かりやすさ」($r=-0.27$)で、「シラバス目標達成度」($r=-0.25$)、「授業満足度」($r=-0.21$)と続きます。

つまり、以下のような傾向があることが示唆されます。

- 難易度が高い授業の方が、授業のための予習・復習の時間が長い。
- 難易度が高い授業の方が、シラバスに記載された到達目標を達成できない。
- 話し方等が分かりやすすくない授業では、難易度が高いと感じられる。
- 難易度が高い授業の方が、満足度等が低い。

講義形式のみの場合も上記の傾向は見られますが、「予習復習時間」を除くすべての項目で、「難易度」との負の相関が全授業よりも強く現れています（「話し方等分かりやすさ」 $r=-0.41$ 、「シラバス目標達成度」 $r=-0.43$ 、「授業満足度」 $r=-0.37$ など）。これは、講義形式の方が比較的「内容が難しい」と評価されていること（難易度の最小値は講義形式で 2.25、全授業で 1）の影響が考えられます。逆に、「難易度」との負の関連が強い「話し方等分かりやすさ」等では、「予習復習時間」を除くすべての項目で、正の相関が全授業より強い傾向があります。

以上より、**講義形式の授業の授業満足度等は、演習等の授業よりも「話し方等分かりやすさ」等の影響を受けやすく、話し方等が分かりやすすくない授業で「難易度が高い」と感じる率が高くなる**ことが示唆されます。「難易度が高い」と感じる授業で満足度が低いという傾向も、講義形式の授業においてより顕著です。

ただし、予習復習時間の長さや授業満足度等の関連については、講義形式の授業の方が弱いという結果です。

(3) アンケート項目とその他の項目との関連

① 履修人数、授業形態(講義形式か否か)

アンケート項目との相関がもっとも高かったのは「履修人数」です。

「難易度」(全授業: $r=0.10$ 、講義形式: $r=0.11$ 。いずれも関連なし)を除き、すべての変数で、履修人数との相関係数はマイナスでした。つまり、「履修人数が少ない授業ほど評価等が高い」といえます。

図 6 は、全授業のアンケート項目の各平均値を、履修人数「10 人未満」「10 人～19 人」「20 人～49 人」「50 人～99 人」「100 人以上」に分けて示したものです。「難易度」を除くほぼすべての項目で、履修人数が少ない方がアンケート調査結果の平均値が高くなっています。ただし、履修人数が多い側である 50～99 人と 100 人以上については大きな差はありません。

全授業と講義形式の「履修人数」関連の相関係数の値を比較すると、ほぼ全てのアンケート項目で、全授業の方が大きくなっていることが分かります(表 1-3/3 および表 2)。講義形式は、50 人以上の大人数授業が 60%もあり、20 人未満の授業は 13%と少ないことから、履修人数による違いが比較的小さくなったと解釈できます。講義形式の方がアンケート項目の平均値が若干低いのは(図 3 および 4)、履修人数が多い授業が多いためとも考えられます。

ただし、講義形式とそれ以外の授業とに分けて履修人数ごとのアンケートの平均値をみてみても(図 7 および 8)、「履修人数が少ない授業ほど評価等が高い」という全体の傾向は変わりませんでした。

図 7 および 8 からは、以下のような特徴を読み取ることができます。

- 講義形式とそれ以外の授業とで差が大きかったのは、双方向型の授業が効果的に行われたか(双方向型授業評価)である。履修人数の多少に関わらず、講義形式よりそれ以外の授業の方が常に平均値が高い。
- 履修人数の適切さの評価は、講義形式では「10 人未満」が低く、10 人以上 50 人未満の授業の方が高くなっている。一方、講義以外では 20 人未満の授業評価はほとんど変わらない。
 - ・ ただし、講義形式の授業のうち「10 人未満」は 4%($n=31$)と授業数自体が少ない。
- 予習復習時間は、講義形式では 20 人未満の授業ではほとんど変わらないが、講義以外では「10 人未満」の授業で顕著に長い。
- 難易度の評価は、講義式の授業では履修人数が多くなるほど「適切(3 点)」から離れて「難しい(5 点)」側に近づいていく傾向があるが、講義以外の授業では履修人数による違いはみられない。

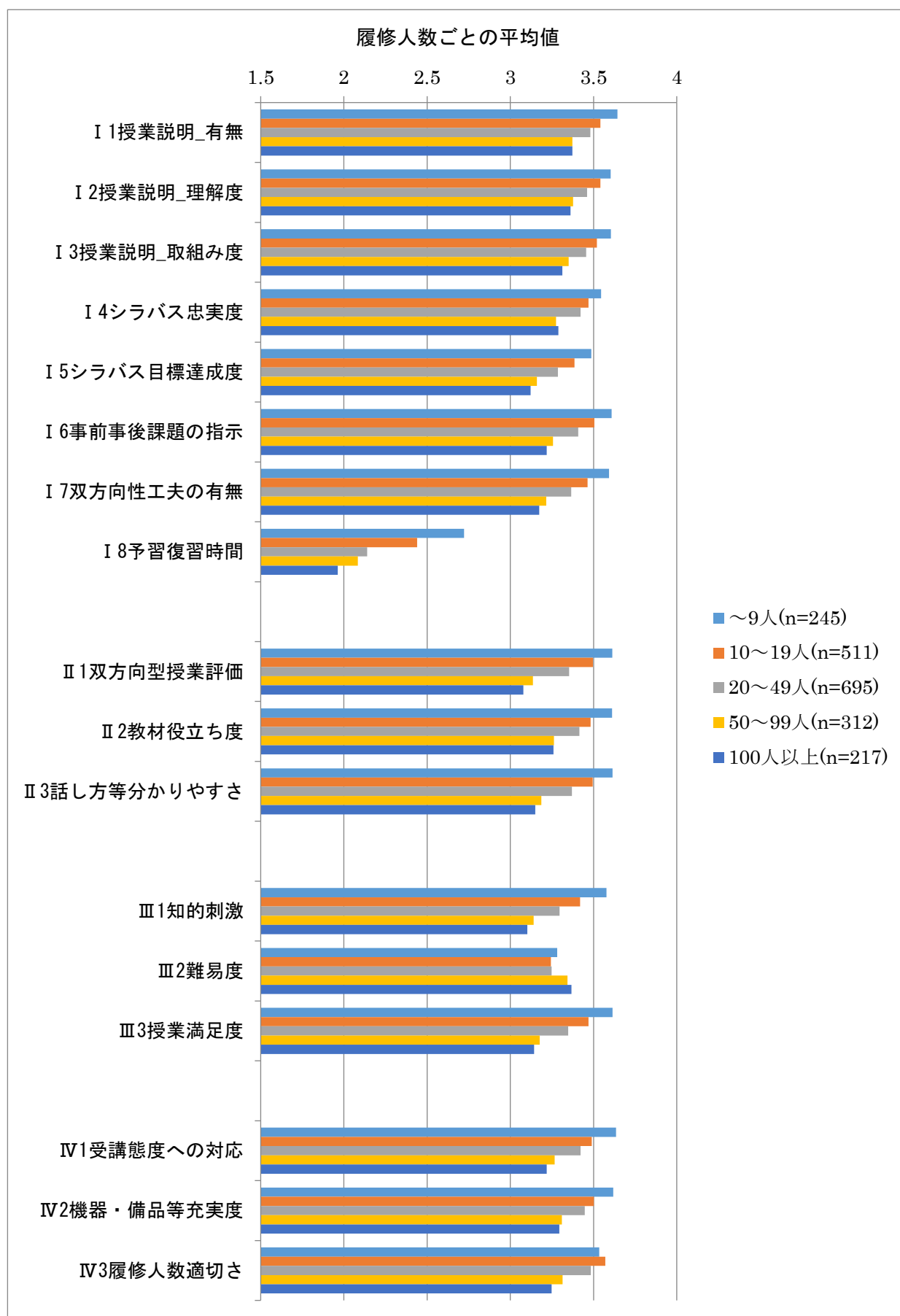


図 6 履修人数によるアンケート項目の平均値(全授業データ)

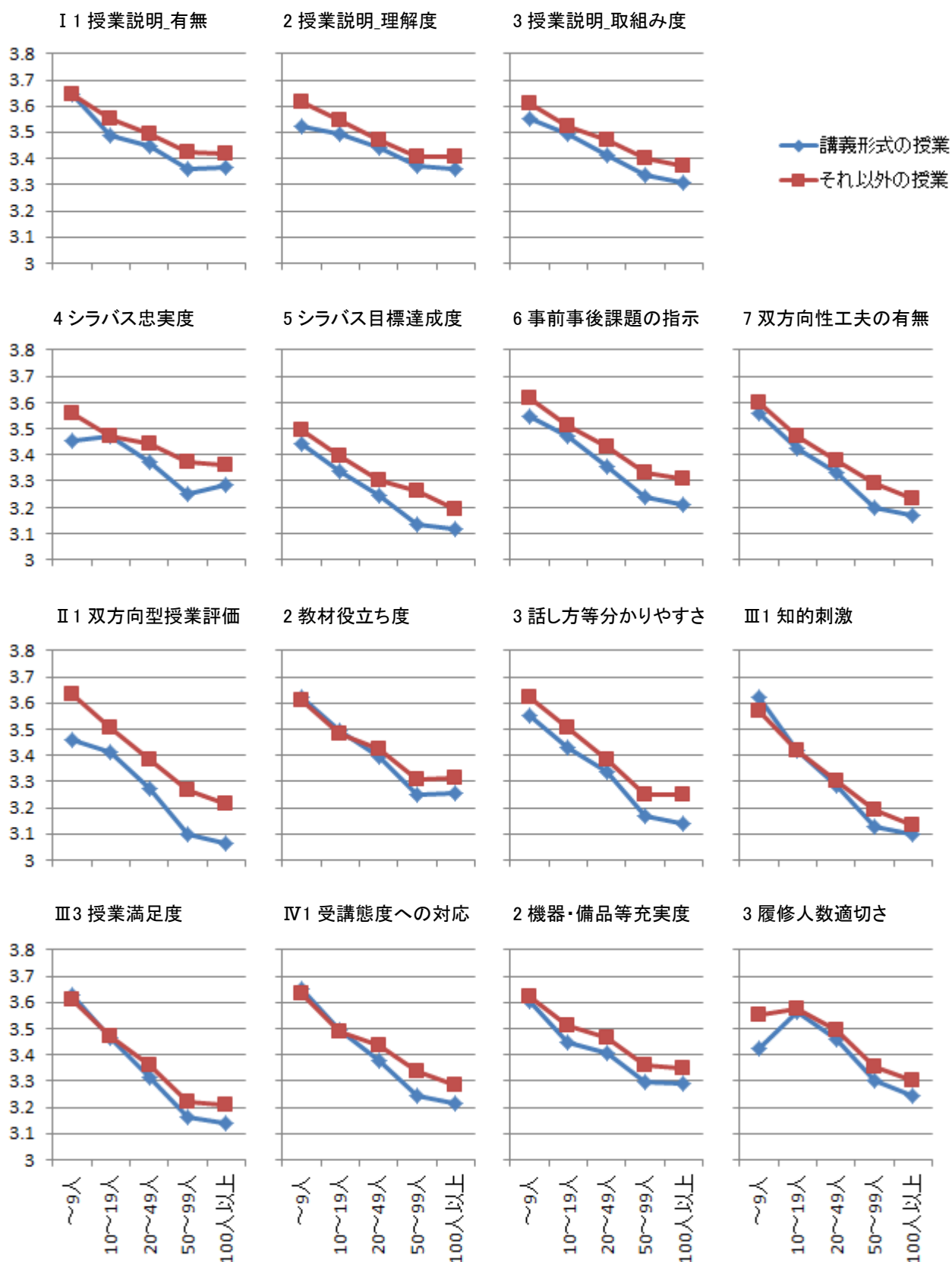


図 7 履修人数によるアンケート項目の平均値(講義形式とその他の比較)

～4 水準のアンケート項目(4 点満点)～

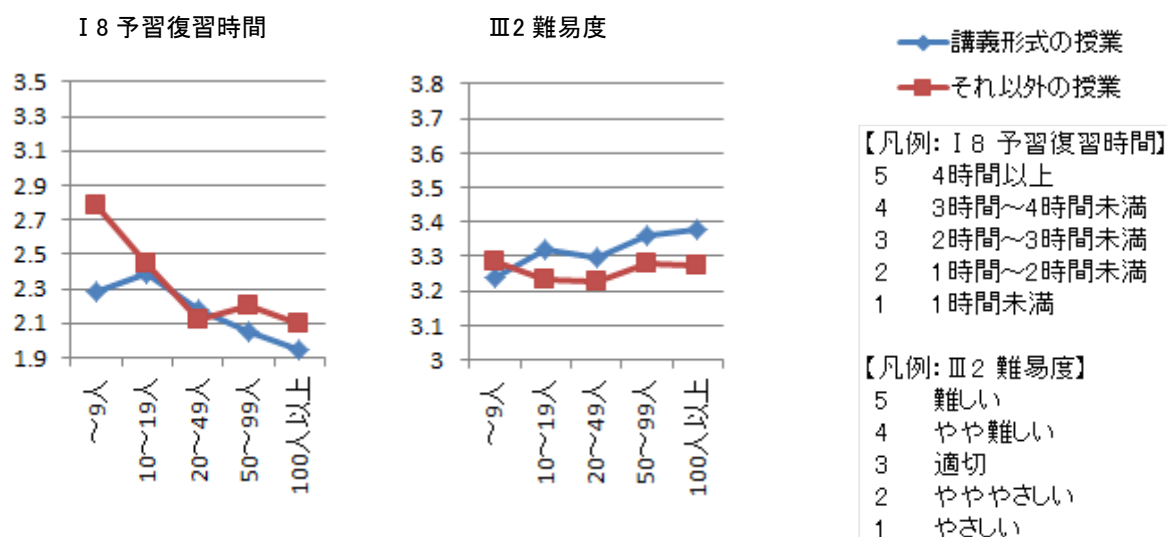


図 8 履修人数によるアンケート項目の平均値(講義形式とその他の比較)
 ~5 水準のアンケート項目(5 点満点)~

② 学年

「学年平均」も、全授業データでは、多くのアンケート項目との相関が比較的高い傾向がありました。

全授業データではいずれの相関係数もプラスであり、もっとも値が大きいのは「予習復習時間」($r=0.35$)、次いで「知的刺激」($r=0.21$)、「双方向性授業評価」($r=0.19$)、「授業満足度」($r=0.18$)という結果です(図 9)。

全授業データに比べると、講義形式の授業データでは相関係数の値はいずれも小さいですが、「予習復習時間」($r=0.17$)がなかでもっとも値が大きいなど、上記の傾向はほぼ同じようにみられます。

まとめると、以下ようになります。

- 高学年の学生の割合が高い授業ほど、予習復習時間が長く、授業満足度等の授業の評価が高い傾向がある。この傾向は講義以外の授業においてより強く現れる。

なお、「学年」と「履修人数」との間には弱い負の関連があります(全授業データ、講義形式の授業データともに $r=-0.36$)。

図 10 には、「学年」と「履修人数」の関連を、講義以外の授業(主に演習)と講義形式の授業とに分けて示しました。この図からは、授業形態によらず、高学年の学生の割合が多いほど履修人数が少ない授業が多いことが分かります。履修学生の学年平均値は、講義以外では 2.29、講義では 2.34 であり差はありません。

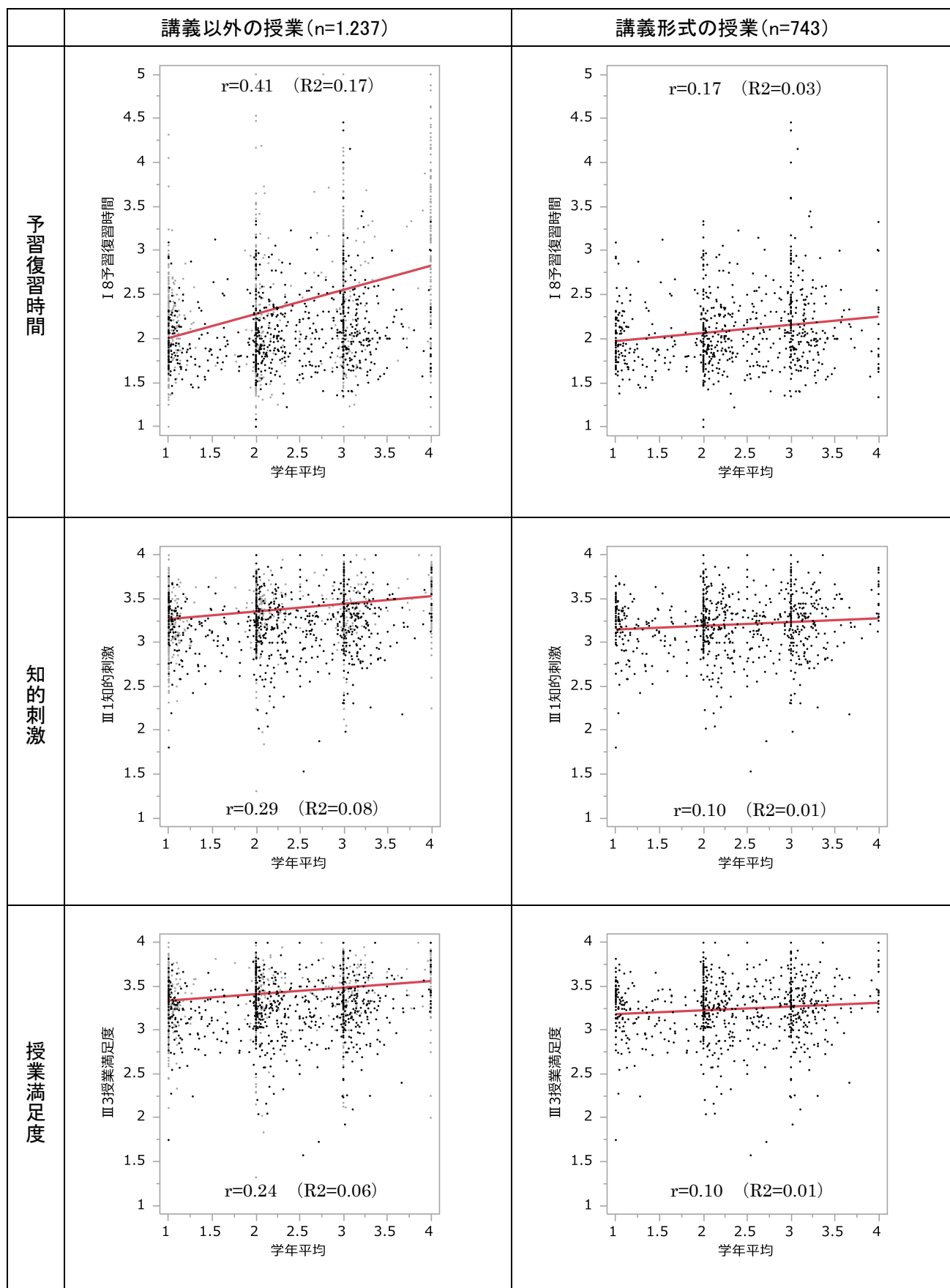
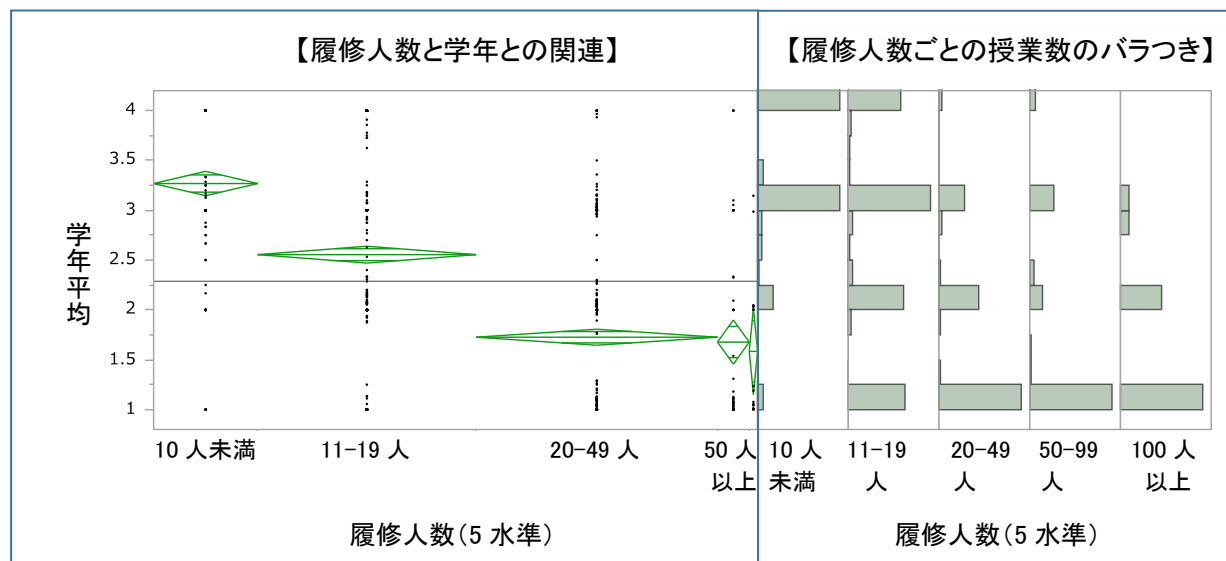
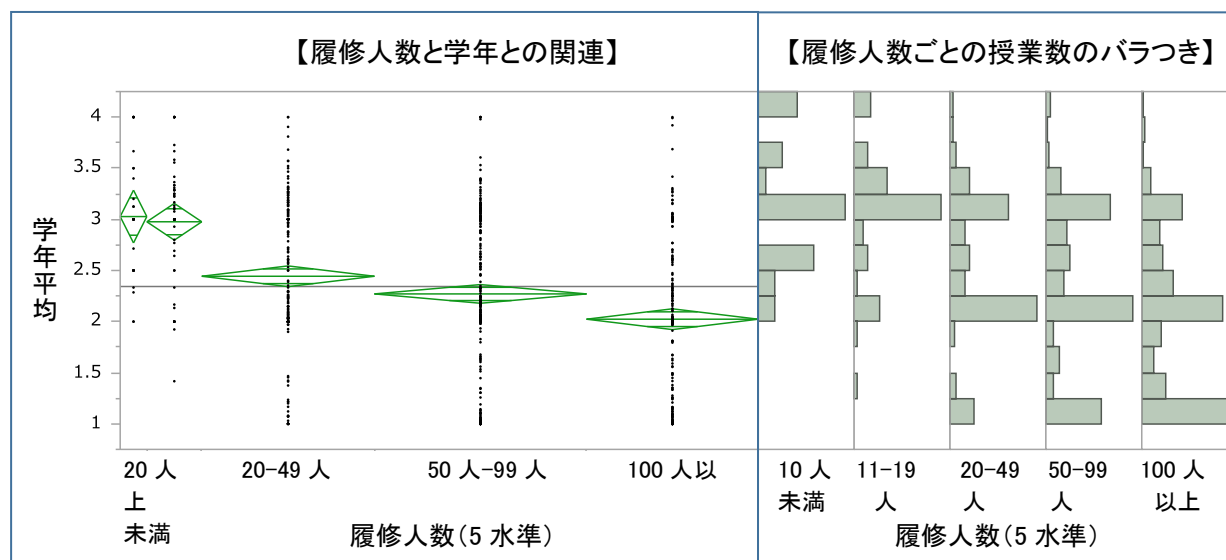


図9 「学年平均」と、「授業満足度」「知的刺激」「予習復習時間」との関連(授業形態別)

講義以外の授業 (n=1,237)



講義形式の授業 (n=743)



※ 左右の図は縦軸を共有。左図: 菱形は各履修人数の平均値(中央の線)と信頼区間を示す。横軸方向の間隔は各履修人数の授業数を反映している(講義以外では大人数の授業数が、講義では少人数の授業数が非常に少ない)。右図: ヒストグラム(横棒グラフ)。棒の長さが各履修人数の授業数(度数)を示す。

図 10 「履修人数(5水準)」と「学年平均」との関連(授業形態別)

③ その他の関連

この他、表 1 および 2 の相関係数行列からは、以下のような傾向を読み取ることができます。

- 学部 「総合福祉」の学生が多い授業は評価等が高め、「看護栄養」は低め。
- 時限 「6限」「7限」の授業は評価等が高めで、早い時間では若干低め。全授業でみると、早い時間の授業は講義形式および低学年の割合が多く、遅い時間の授業は講義以外の形式および高学年の割合が多い傾向があるので、これらが影響していると考えられる。
- 学期 「前期」より「後期」の授業の方が評価等は若干高め。とくに講義以外の授業においては「予習復習時間」が長くなる傾向がある。

3. 複数項目間の関連(重回帰分析)

(1) 重回帰分析の方針

学生の授業評価、学習行動の促進要因を探るため、「授業満足度」、「知的刺激」、「予習復習時間」、「シラバス目標達成度」、および「授業説明取り組み度」を目的変数、その他の調査項目および履修人数等を説明変数とした重回帰分析を行います。

重回帰分析では、説明変数として互いに相関が高い変数が入り入れられていると偏回帰係数が統計的に不安定になるため(多重共線性の問題)、説明変数としては互いに相関が低いものを取り入れるべきであるといわれます。しかし、今回用いる調査項目データは互いに相関が高いものが多いのが特徴です。

そこで、ここでは以下の方針で重回帰分析を行うこととしました。

① 分析に取り入れる説明変数

すべての調査項目を説明変数として取り入れるのではなく、調査項目各々の意味を考慮して最初から変数を絞ります。

今回の調査項目は、「その授業がどうであったかという事実を評価する項目(例:授業はシラバスに沿って行われたか)」と「その授業において自分がどうであったかを評価する項目(例:あなたはシラバスにある到達目標を達成できたか)」に大別することができ、前者のボリュームが大きくなっています。そこで、説明変数として重回帰分析に取り入れるのは、より原因側の変数である前者に絞ることとします。さらに、意味的に重複する項目については一つに絞ります。

これらに、目的変数と相関が高かった「履修人数」「学年」「キャンパス」を加えて説明変数とします。「学部」を加えないのは、「キャンパス」と相関が非常に高いペアがあるためです。なお、「履修人数」は単純な人数の差ではなく、講義、演習・実習等による授業の質的な違いであるとも考えられるので、量的変数ではなく順序尺度として扱います。

以上をふまえると、分析に取り入れる説明変数は次のようになります。

- キャンパス(「千葉」「千葉第2」「埼玉」「東京」の4変数)
- 学年
- 履修人数(5水準の順序尺度として)
- 講義(講義形式の授業データの分析では除外)
- I1 授業説明_有無(「授業説明取り組み度」を目的変数とした重回帰分析では除外。論理矛盾処理を行ったため。)
- I4 シラバス忠実度
- I6 事前事後課題の指示
- II1 双方向型授業評価
- II2 教材役立ち度
- II3 話し方等分かりやすさ
- III2 難易度
- IV1 受講態度への対応

- IV2 機器・備品等充実度

② 分析の方法

一定の基準に基づいて説明変数を取捨選択することができる「ステップワイズ法」を用います。その際、説明変数ごとの VIF (Variance Inflation Factor、分散拡大要因) の値や R2 乗値 (決定係数。モデルのあてはまりの良さ、つまり分析の精度を表す指標) 等を参考にします。VIF は、他の説明変数との関連の強さを表す指標であり、この値が大きいと多重共線性が疑われます。

実際の手順は、目的変数ごとに、まず全説明変数候補を投入した分析を行い、得られた一時的な分析結果の VIF や R2 乗値、推定値、解釈可能性などをみながら、説明変数の取捨選択を繰り返して再分析を行い、最終的な採用モデルを得るというものです。

③ どのようなモデルを検討するか

まず、全授業データ (n=1,980) および講義形式の授業データ (n=743) を用いて重回帰分析を行ってモデルを検討します。目的変数は、「授業満足度」、「知的刺激」、「予習復習時間」、「シラバス目標達成度」、および「授業説明取り組み度」とします。

次に、以下の変数ごとにデータを分けて、講義形式の授業データ (n=743) を用いた重回帰分析を行い、それぞれのモデルを検討します。講義形式の授業データのみの分析としたのは、アンケート項目の多くが講義形式の授業評価に適した内容になっているためです。

- 履修人数

- ・ 履修人数の違いによって、授業満足度等を規定する要因が異なるのか、どのように異なるか等を検討します。たとえば「100 人以上」の場合は何が授業満足度を規定するか、「50 人～99 人」の場合はどうか等の検討です。

- 難易度

- ・ 全体としては、授業満足度等は「やさしい」授業の方が高い傾向があります（「授業満足度」と「難易度」の相関係数は-0.37）。そこで、難易度を揃えた上で、どのような要因が満足度等を規定するのか、難易度の高さによってその要因は異なるのか等を検討します。

- 学部

- ・ 回答者が特定の学部学生である授業のみを抽出し、学部ごとのデータに分けて同じ分析を行うことで、各学部の特徴をみます。

これらの分析では、目的変数は「授業満足度」「知的刺激」「予習復習時間」の3つに絞ります。「シラバス目標達成度」は「I 4 シラバス忠実度」の影響が極めて大きいこと、「授業説明取り組み度」は論理矛盾回答処理を行ったため欠測値が多いことが省いた理由です。

(2) 全授業および講義形式の授業データを用いた分析

① 「授業満足度」を目的変数とした重回帰モデル

参考として、全説明変数候補を投入した一次的な結果(全授業データを使用)を表3に示します。

表4(全授業データ)と表5(講義形式の授業データを使用)は、VIF等の値や解釈可能性をみながら説明変数を取捨選択した採用モデルであり、図11はこれらを図示したものです。

表3 全説明変数投入モデル[全授業] (目的変数＝授業満足度)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-0.1723	0.050	-3.45	0.0006	
千葉第2	0.0221	0.011	2	0.0453	1.107
東京	0.0270	0.010	2.73	0.0064	1.065
学年平均	0.0121	0.004	3.32	0.0009	1.205
履修人数(5水準){1&2&3-4&5}	0.0065	0.004	1.49	0.1359	1.383
履修人数(5水準){1&2-3}	0.0111	0.004	2.61	0.0091	1.256
I 1授業説明の有無	0.0924	0.025	3.66	0.0003	4.104
I 6事前事後課題の指示	0.0498	0.023	2.15	0.0313	4.586
II 1双方向型授業評価	0.0813	0.021	3.92	<.0001	4.855
II 2教材役立ち度	0.2079	0.026	7.99	<.0001	6.199
II 3話し方等分かりやすさ	0.4240	0.023	18.35	<.0001	6.914
IV 1受講態度への対応	0.1728	0.023	7.52	<.0001	4.073
R2乗					0.8336
自由度調整R2乗					0.8326

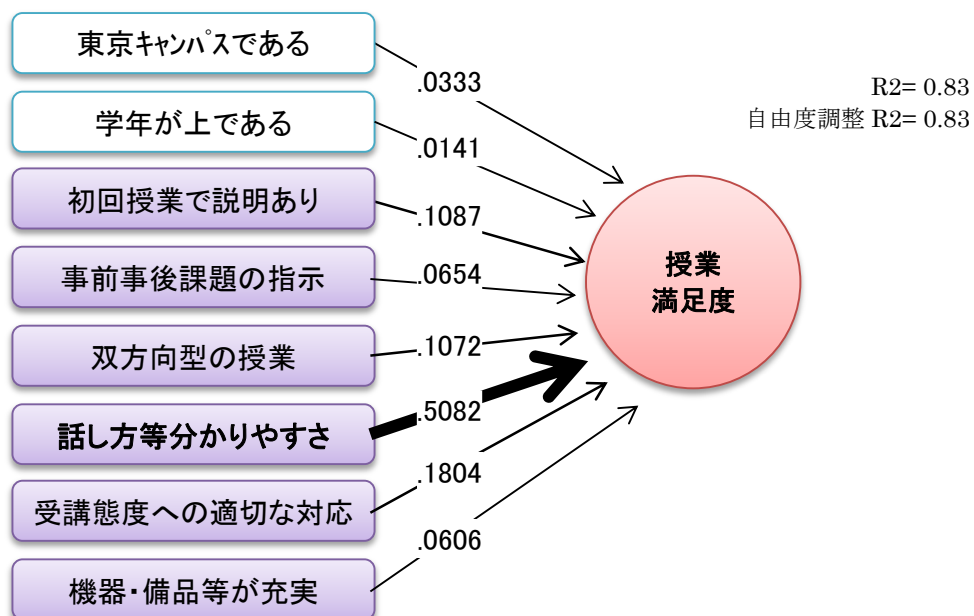
表4 採用した重回帰モデル[全授業] (目的変数＝授業満足度)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-0.1784	0.050	-3.6	0.0003	
東京	0.0333	0.010	3.33	0.0009	1.059
学年平均	0.0141	0.003	4.1	<.0001	1.046
I 1授業説明の有無	0.1087	0.025	4.31	<.0001	3.993
I 6事前事後課題の指示	0.0654	0.023	2.79	0.0052	4.557
II 1双方向型授業評価	0.1072	0.020	5.32	<.0001	4.438
II 3話し方等分かりやすさ	0.5082	0.020	24.82	<.0001	5.262
IV 1受講態度への対応	0.1804	0.025	7.2	<.0001	4.692
IV 2機器・備品等充実度	0.0606	0.023	2.58	0.0099	3.894
R2乗					0.8281
自由度調整R2乗					0.8274

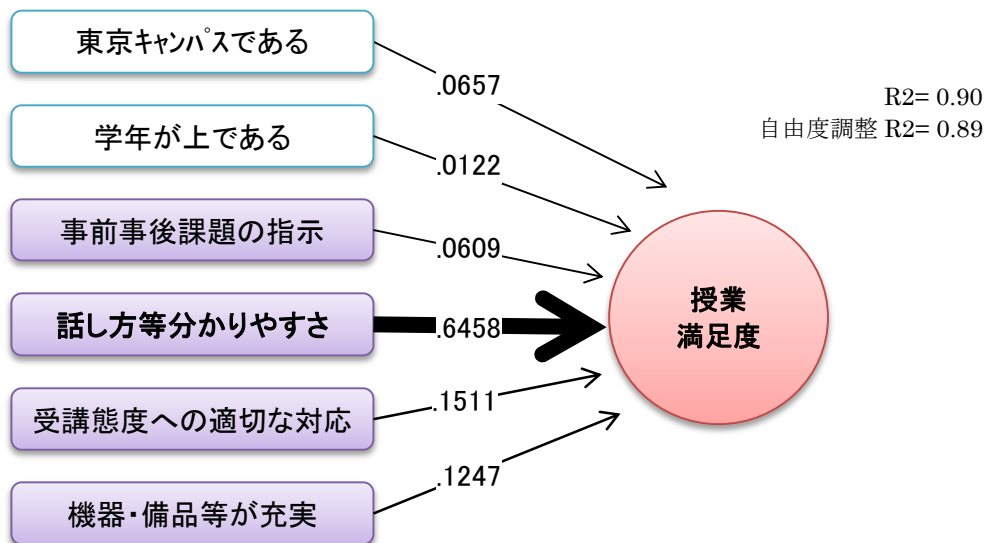
表5 採用した重回帰モデル[講義形式の授業] (目的変数＝授業満足度)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-0.0102	0.062	-0.17	0.8683	
東京	0.0657	0.012	5.33	<.0001	1.059
学年平均	0.0122	0.005	2.26	0.0241	1.019
I 6事前事後課題の指示	0.0609	0.028	2.16	0.0311	4.173
II 3話し方等分かりやすさ	0.6458	0.025	26.28	<.0001	5.143
IV 1受講態度への対応	0.1511	0.034	4.39	<.0001	4.898
IV 2機器・備品等充実度	0.1247	0.037	3.4	0.0007	5.313
R2乗					0.8955
自由度調整R2乗					0.8947

[全授業データを使用(n=1,980)]



[講義形式の全授業データを使用(n=743)]



(数字は推定値、線の太さは関連の強さ、破線はマイナスの関連を示す。説明変数間の相関、有意水準の記載は省略した。)

図 11 「授業満足度」を目的変数とした重回帰モデル

② 「知的刺激」を目的変数とした重回帰モデルの検討

①と同様に、全説明変数候補を投入した一次的な結果(全授業データを使用)を表 6 に、VIF 等の値や解釈可能性をみながら説明変数を取捨選択した採用モデルを表 7(全授業データ)と表 8(講義形式の授業データを使用)に示します。

図 12 は採用モデルを図示したものです。

表 6 全説明変数投入モデル[全授業] (目的変数=知的刺激)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-0.0445	0.053	-0.85	0.3974	
東京	0.0405	0.010	3.9	<.0001	1.014
学年平均	0.0178	0.004	4.31	<.0001	1.342
履修人数(5水準)[1&2-3&4&5]	0.0175	0.005	3.62	0.0003	1.807
履修人数(5水準)[1-2]	0.0139	0.006	2.21	0.0271	1.175
講義	0.0321	0.009	3.71	0.0002	1.435
I 4シラバス忠実度	0.0681	0.021	3.2	0.0014	2.996
II 1双方向型授業評価	0.1899	0.022	8.58	<.0001	4.801
II 2教材役立ち度	0.1931	0.028	6.93	<.0001	6.184
II 3話し方等分かりやすさ	0.3604	0.024	14.73	<.0001	6.739
IV 1受講態度への対応	0.1644	0.023	7.04	<.0001	3.663
R2乗					0.7995
自由度調整R2乗					0.7985

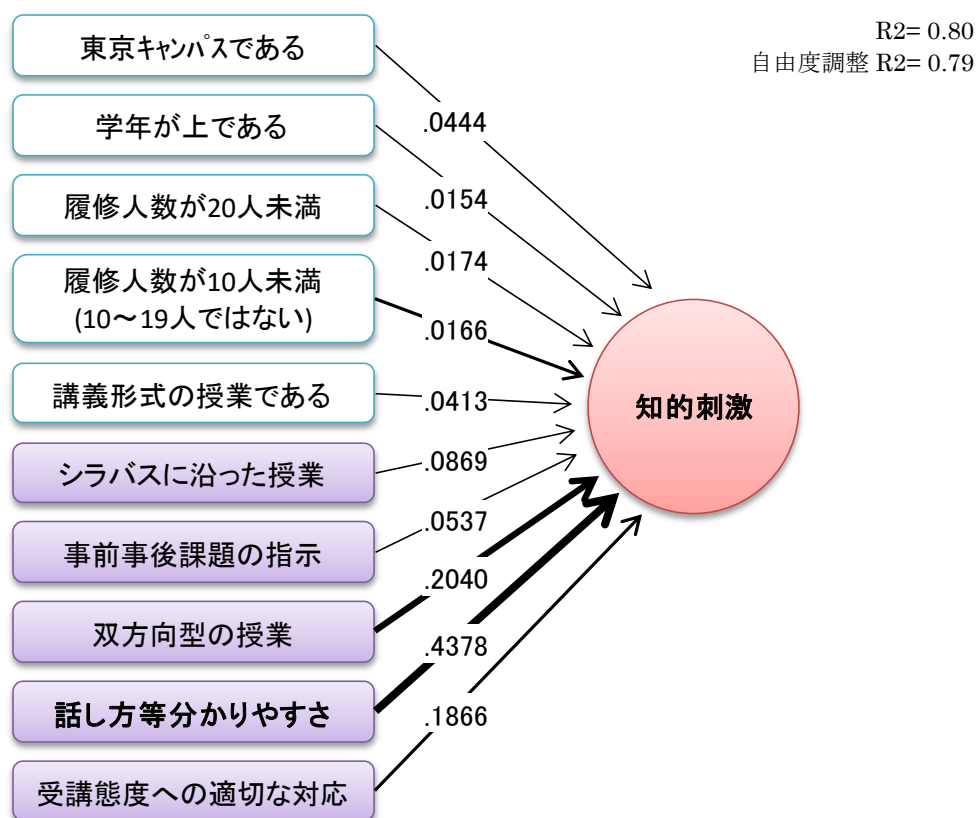
表 7 採用した重回帰モデル[全授業] (目的変数=知的刺激)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-0.0154	0.053	-0.29	0.7723	
東京	0.0444	0.010	4.24	<.0001	1.010
学年平均	0.0154	0.004	3.69	0.0002	1.332
履修人数(5水準)[1&2-3&4&5]	0.0174	0.005	3.56	0.0004	1.812
履修人数(5水準)[1-2]	0.0166	0.006	2.62	0.0089	1.170
講義	0.0413	0.009	4.78	<.0001	1.403
I 4シラバス忠実度	0.0869	0.022	3.88	0.0001	3.242
I 6事前事後課題の指示	0.0537	0.024	2.2	0.0282	4.374
II 1双方向型授業評価	0.2040	0.023	9.05	<.0001	4.871
II 3話し方等分かりやすさ	0.4378	0.022	20.2	<.0001	5.176
IV 1受講態度への対応	0.1866	0.024	7.89	<.0001	3.675
R2乗					0.7951
自由度調整R2乗					0.7941

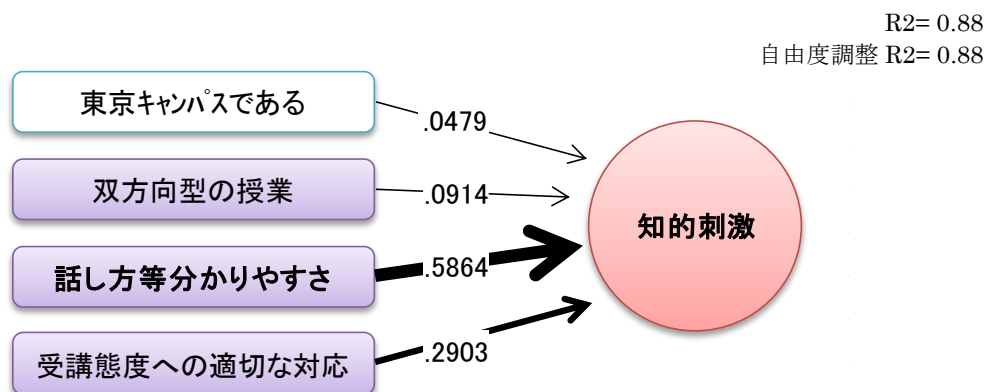
表 8 採用した重回帰モデル[講義形式の授業] (目的変数=知的刺激)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	0.0453	0.058	0.78	0.4349	
東京	0.0479	0.013	3.69	0.0002	1.018
II 1双方向型授業評価	0.0914	0.024	3.76	0.0002	3.586
II 3話し方等分かりやすさ	0.5864	0.025	23.02	<.0001	4.796
IV 1受講態度への対応	0.2903	0.032	9.2	<.0001	3.580
R2乗					0.8762
自由度調整R2乗					0.8755

[全授業データを使用 (n=1,980)]



[講義形式の全授業データを使用 (n=743)]



(数字は推定値, 線の太さは関連の強さ、破線はマイナスの関連を示す。説明変数間の相関、有意水準の記載は省略した。)

図 12 「知的刺激」を目的変数とした重回帰モデル

③ 「予習復習時間」を目的変数とした重回帰モデルの検討

これまで同様に、全説明変数候補を投入した一次的な結果(全授業データを使用)を表 9 に、VIF 等の値や解釈可能性をみながら説明変数を取捨選択した採用モデルを表 10(全授業データ)と表 11(講義形式の授業データを使用)に示します。

図 13 は採用モデルを図示したものです。

表 9 全説明変数投入モデル[全授業] (目的変数＝予習復習時間)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-2.0142	0.203	-9.94	<.0001	
東京	0.2590	0.034	7.67	<.0001	1.064
学年平均	0.1519	0.013	11.58	<.0001	1.343
履修人数(5水準)[1&2-3&4&5]	0.0844	0.015	5.53	<.0001	1.783
履修人数(5水準)[1-2]	0.0584	0.020	2.94	0.0034	1.163
講義	-0.1295	0.028	-4.7	<.0001	1.444
I 6事前事後課題の指示	0.7692	0.073	10.57	<.0001	3.926
II 1双方向型授業評価	0.2814	0.066	4.24	<.0001	4.280
II 2教材役立ち度	-0.3031	0.077	-3.96	<.0001	4.617
III 2難易度	0.6735	0.033	20.12	<.0001	1.066
IV 2機器・備品等充実度	-0.2253	0.073	-3.08	0.0021	3.368
				R2乗	0.4005
				自由度調整R2乗	0.3975

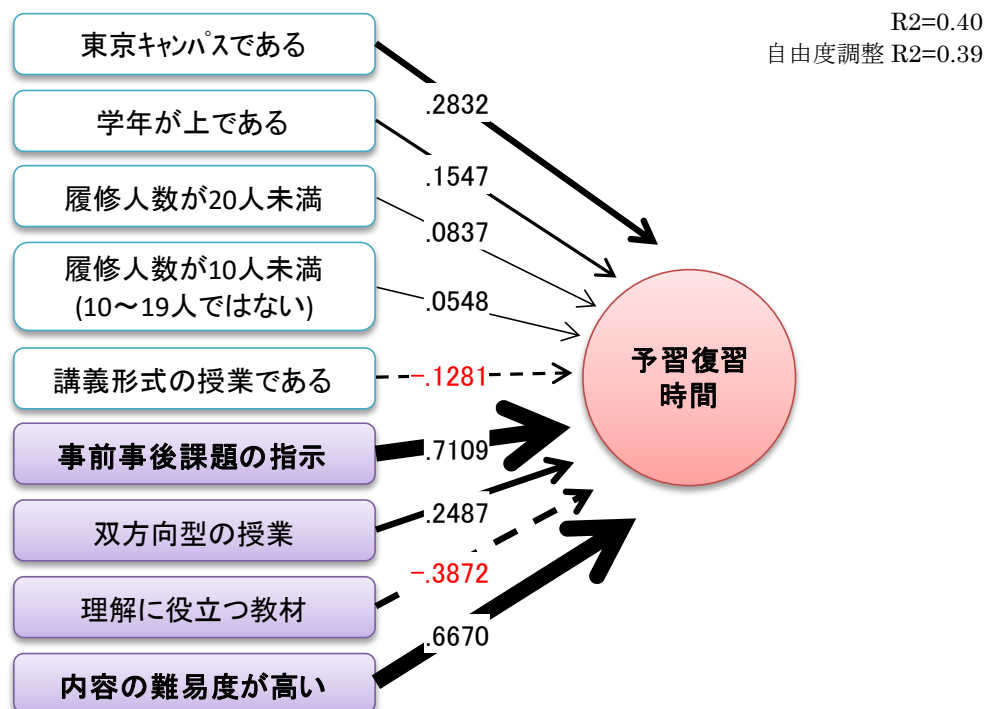
表 10 採用した重回帰モデル[全授業] (目的変数＝予習復習時間)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-2.1833	0.195	-11.17	<.0001	
東京	0.2832	0.033	8.61	<.0001	1.007
学年平均	0.1547	0.013	11.79	<.0001	1.337
履修人数(5水準)[1&2-3&4&5]	0.0837	0.015	5.47	<.0001	1.782
履修人数(5水準)[1-2]	0.0548	0.020	2.75	0.0059	1.159
講義	-0.1281	0.028	-4.64	<.0001	1.444
I 6事前事後課題の指示	0.7109	0.070	10.1	<.0001	3.659
II 1双方向型授業評価	0.2487	0.066	3.79	0.0002	4.170
II 2教材役立ち度	-0.3872	0.072	-5.41	<.0001	4.027
III 2難易度	0.6670	0.033	19.92	<.0001	1.062
				R2乗	0.3976
				自由度調整R2乗	0.3949

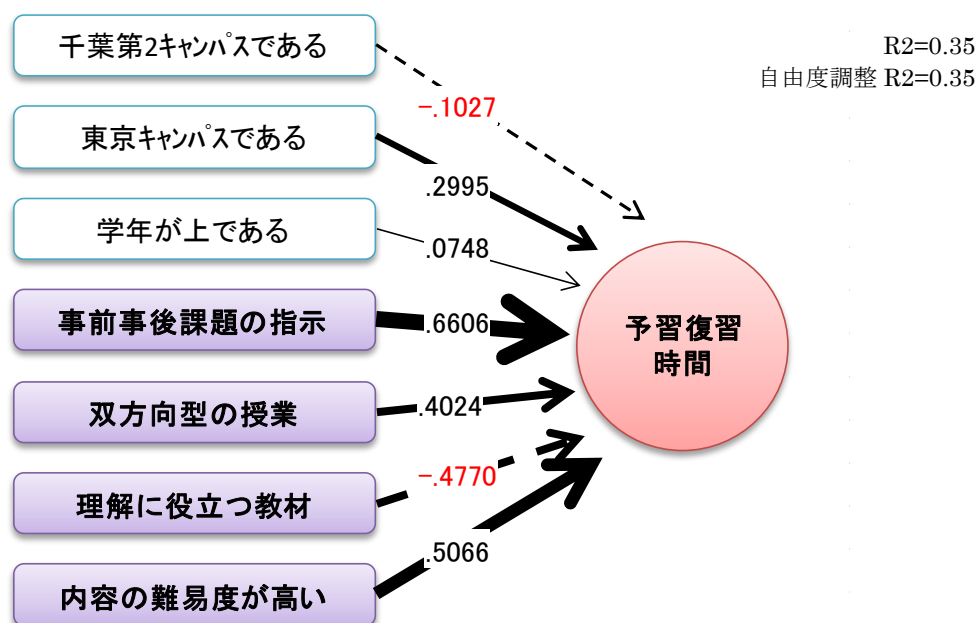
表 11 採用した重回帰モデル[講義形式の授業] (目的変数＝予習復習時間)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-1.6648	0.253	-6.57	<.0001	
千葉第2	-0.1027	0.037	-2.77	0.0057	1.090
東京	0.2995	0.038	7.94	<.0001	1.059
学年平均	0.0748	0.017	4.47	<.0001	1.054
I 6事前事後課題の指示	0.6606	0.089	7.4	<.0001	4.469
II 1双方向型授業評価	0.4024	0.070	5.74	<.0001	3.678
II 2教材役立ち度	-0.4770	0.081	-5.9	<.0001	4.290
III 2難易度	0.5066	0.047	10.8	<.0001	1.174
				R2乗	0.3513
				自由度調整R2乗	0.3451

[全授業データを使用 (n=1,980)]



[講義形式の全授業データを使用 (n=743)]



(数字は推定値、線の太さは関連の強さ、破線はマイナスの関連を示す。説明変数間の相関、有意水準の記載は省略した。)

図 13 「予習復習時間」を目的変数とした重回帰モデル

④ 「シラバス目標達成度」を目的変数とした重回帰モデルの検討

これまで同様に、全説明変数候補を投入した一次的な結果(全授業データを使用)を表 12 に、VIF 等の値や解釈可能性をみながら説明変数を取捨選択した採用モデルを表 13(全授業データ)と表 14(講義形式の授業データを使用)に示します。

図 14 は採用モデルを図示したものです。

表 12 全説明変数投入モデル[全授業] (目的変数＝シラバス目標達成度)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	0.5568	0.059	9.5	<.0001	
埼玉	0.0446	0.007	6.21	<.0001	1.090
学年平均	0.0141	0.004	3.93	<.0001	1.258
履修人数(5水準){1&2-3&4&5}	0.0064	0.004	1.61	0.1081	1.518
履修人数(5水準){3-4&5}	-0.0062	0.004	-1.44	0.1504	1.159
履修人数(5水準){4-5}	0.0099	0.006	1.59	0.1122	1.040
I 4シラバス忠実度	0.4596	0.020	22.72	<.0001	3.379
I 6事前事後課題の指示	0.1191	0.022	5.38	<.0001	4.575
II 1双方向型授業評価	0.1491	0.020	7.53	<.0001	4.799
II 2教材役立ち度	-0.0841	0.025	-3.33	0.0009	6.349
II 3話し方等分かりやすさ	0.1270	0.023	5.54	<.0001	7.392
III 2難易度	-0.0774	0.010	-7.71	<.0001	1.216
IV 1受講態度への対応	0.0527	0.024	2.22	0.0262	4.707
IV 2機器・備品等充実度	0.0448	0.022	2.03	0.0428	3.869
R2乗					0.7717
自由度調整R2乗					0.7702

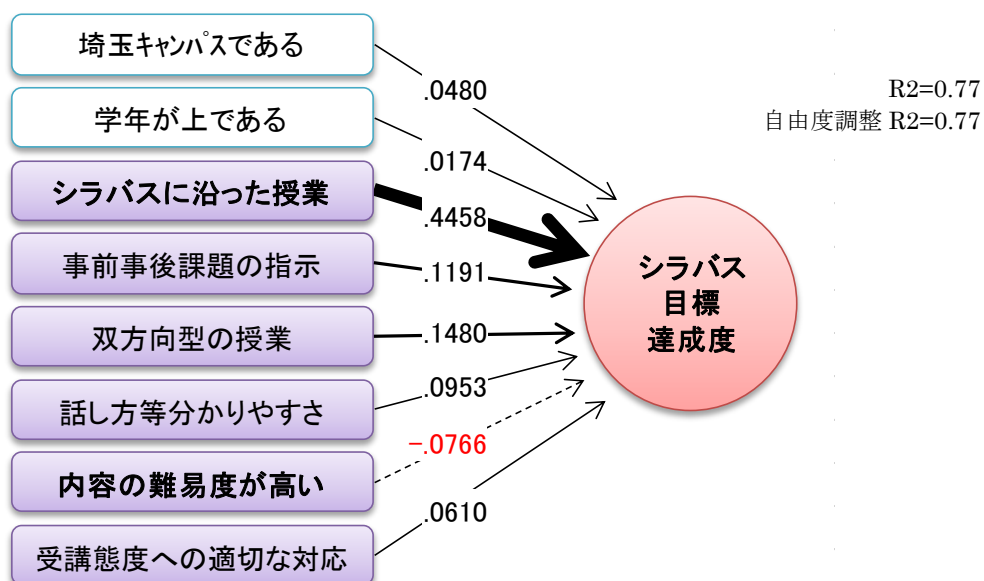
表 13 採用した重回帰モデル[全授業] (目的変数＝シラバス目標達成度)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	0.5401	0.055	9.91	<.0001	
埼玉	0.0480	0.007	6.81	<.0001	1.043
学年平均	0.0174	0.003	5.29	<.0001	1.060
I 4シラバス忠実度	0.4458	0.020	22.57	<.0001	3.196
I 6事前事後課題の指示	0.1191	0.022	5.48	<.0001	4.384
II 1双方向型授業評価	0.1480	0.019	7.75	<.0001	4.428
II 3話し方等分かりやすさ	0.0953	0.020	4.74	<.0001	5.627
III 2難易度	-0.0766	0.010	-7.63	<.0001	1.204
IV 1受講態度への対応	0.0610	0.021	2.86	0.0043	3.790
R2乗					0.7691
自由度調整R2乗					0.7682

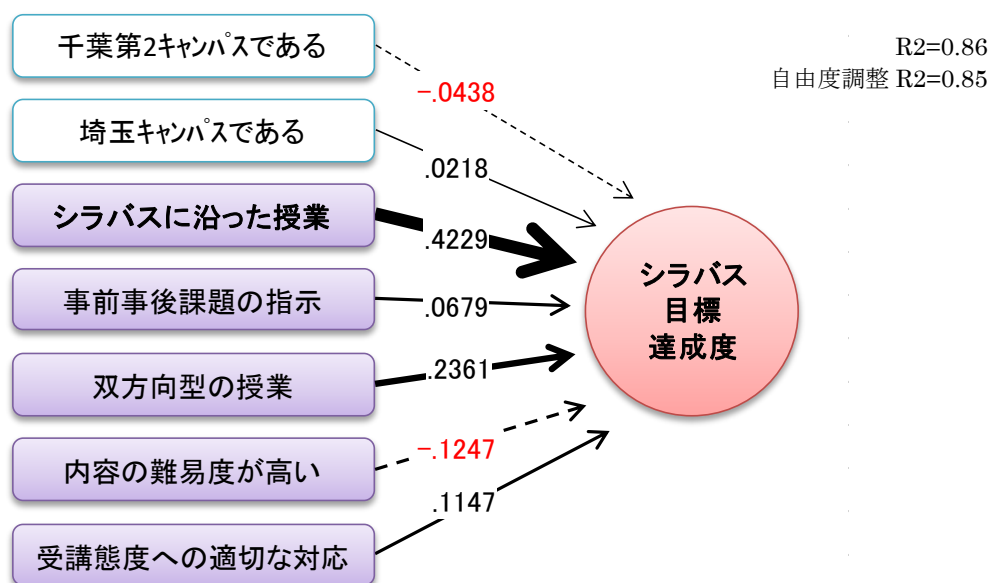
表 14 採用した重回帰モデル[講義形式の授業] (目的変数＝シラバス目標達成度)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	0.8490	0.077	11.01	<.0001	
千葉第2	-0.0438	0.011	-4.05	<.0001	1.116
埼玉	0.0218	0.009	2.37	0.018	1.093
I 4シラバス忠実度	0.4229	0.023	18.43	<.0001	2.884
I 6事前事後課題の指示	0.0679	0.025	2.67	0.0078	4.348
II 1双方向型授業評価	0.2361	0.021	11.15	<.0001	4.003
III 2難易度	-0.1247	0.013	-9.26	<.0001	1.155
IV 1受講態度への対応	0.1147	0.025	4.67	<.0001	3.192
R2乗					0.8550
自由度調整R2乗					0.8536

[全授業データを使用(n=1,980)]



[講義形式の全授業データを使用(n=743)]



(数字は推定値, 線の太さは関連の強さ、破線はマイナスの関連を示す。説明変数間の相関、有意水準の記載は省略した。)

図 14 「シラバス目標達成度」を目的変数とした重回帰モデル

⑤ 「授業説明取組み度」を目的変数とした重回帰モデルの検討

(授業目的や到達目標等について理解した内容を達成するため意欲的に取り組んだか)

全授業データを用いた分析の全説明変数候補を投入した結果では、VIF 等の値がそれほど高くなかったためそのまま採用モデルとしました。結果を、表 15(全授業データ)と表 16(講義形式の授業データを使用)に示します。

図 15 は採用モデルを図示したものです。

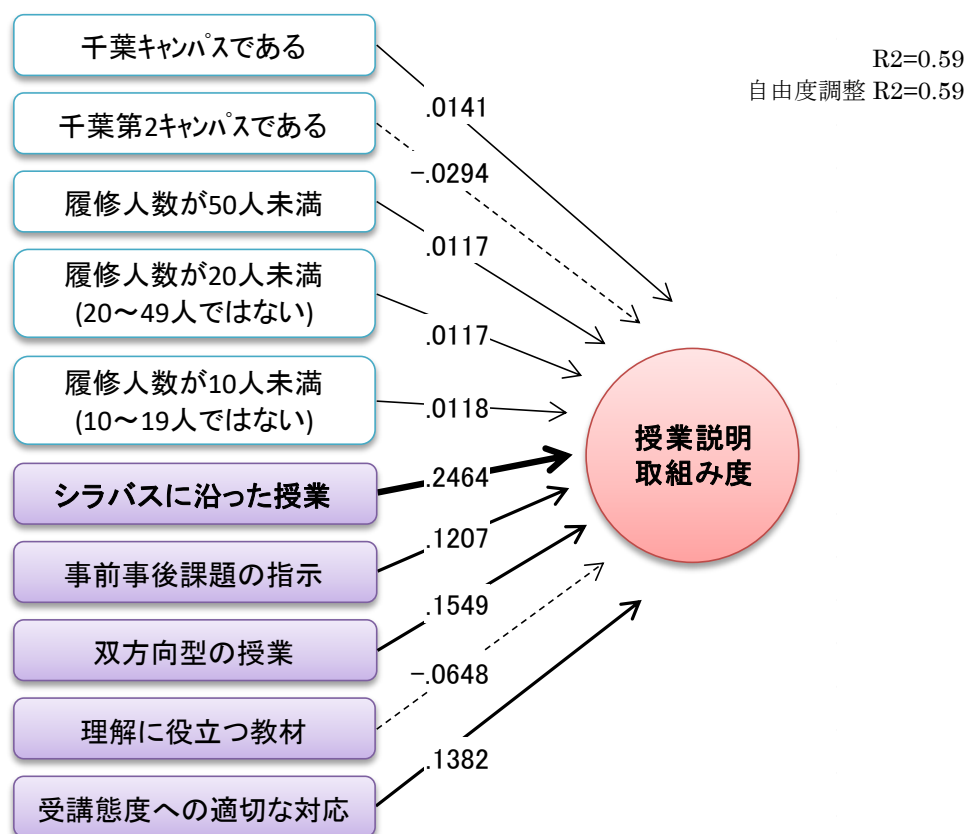
表 15 採用した重回帰モデル[全授業] (目的変数＝授業説明取組み度)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	1.4265	0.045	31.47	<.0001	
千葉	0.0141	0.007	2.01	0.045	1.162
千葉第2	-0.0294	0.012	-2.51	0.012	1.240
履修人数(5水準){1&2&3-4&5}	0.0117	0.004	2.7	0.007	1.392
履修人数(5水準){1&2-3}	0.0117	0.004	2.84	0.0046	1.179
履修人数(5水準){1-2}	0.0118	0.006	2.06	0.0394	1.125
I 4シラバス忠実度	0.2464	0.021	11.79	<.0001	3.355
I 6事前事後課題の指示	0.1207	0.023	5.3	<.0001	4.512
II 1双方向型授業評価	0.1549	0.020	7.93	<.0001	4.350
II 2教材役立ち度	-0.0648	0.022	-2.89	0.0039	4.656
IV 1受講態度への対応	0.1382	0.022	6.22	<.0001	3.866
				R2乗	0.5908
				自由度調整R2乗	0.5888

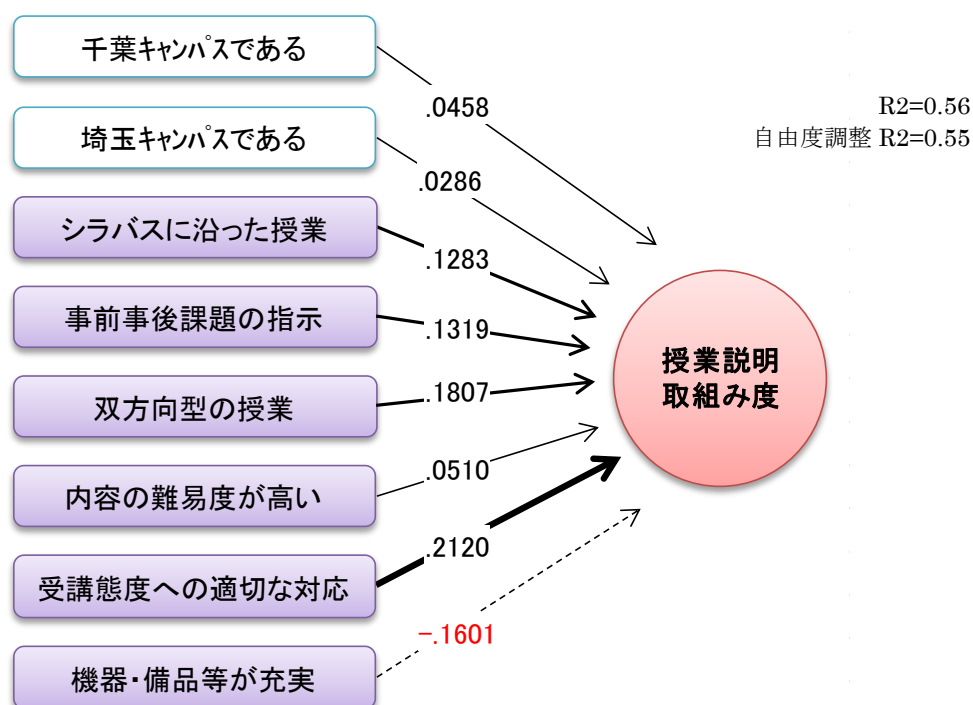
表 16 採用した重回帰モデル[講義形式の授業] (目的変数＝授業説明取組み度)

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	1.5724	0.096	16.39	<.0001	
千葉	0.0458	0.011	4.2	<.0001	1.428
埼玉	0.0286	0.013	2.24	0.0256	1.414
I 4シラバス忠実度	0.1283	0.029	4.42	<.0001	3.068
I 6事前事後課題の指示	0.1319	0.032	4.13	<.0001	4.531
II 1双方向型授業評価	0.1807	0.026	6.89	<.0001	4.074
III 2難易度	0.0510	0.016	3.1	0.002	1.146
IV 1受講態度への対応	0.2120	0.036	5.93	<.0001	4.487
IV 2機器・備品等充実度	-0.1601	0.040	-3.98	<.0001	5.423
				R2乗	0.5588
				自由度調整R2乗	0.5540

[全授業データを使用 (n=1,980)]



[講義形式の全授業データを使用 (n=743)]



(数字は推定値, 線の太さは関連の強さ、破線はマイナスの関連を示す。説明変数間の相関、有意水準の記載は省略した。)

図 15 「授業説明取組み度」を目的変数とした重回帰モデル

⑥ 各モデルからわかること

①～⑥のモデルは、次のように解釈することができます。

- 「授業満足度」は、以下の条件の授業において高まる。
 - ・ 東京キャンパスで実施されている。
 - ・ 履修者に高学年が多い。
 - ・ 初回の授業で、目的、内容、到達目標、評価方法等の説明があった(全授業の場合)。
 - ・ 事前事後の学習等の具体的な指示がある。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている(全授業の場合)。
 - ・ 話し方や説明の仕方が分かりやすい。
 - ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれている。
 - ・ 機器、備品等が充実している。
- 「授業満足度」にもっとも大きく影響するのは、全授業でも、講義形式の授業に絞っても「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」である。

※「教材役立ち度(教科書、板書、プリント、ビデオ等の教材は授業の理解に役立ったか)」も「授業満足度」を高める条件の一つと考えられるが、「教材役立ち度」は「話し方等わかりやすさ」との相関がとくに高かったため(全授業では $r=0.89$ 、講義形式では $r=0.94$)、本分析では説明変数として採用できなかった。

- 「知的刺激(授業を通じて知的好奇心が刺激される度合い)」は、以下の条件の授業において高まる。
 - ・ 東京キャンパスで実施されている。
 - ・ 履修者に高学年が多い(全授業の場合)。
 - ・ 履修人数が少ない(20人未満、さらには10人未満。全授業の場合)。
 - ・ 講義形式の授業である(全授業の場合)。
 - ・ シラバスに沿って行われている(全授業の場合)。
 - ・ 事前事後の学習等の具体的な指示がある(全授業の場合)。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
 - ・ 話し方や説明の仕方が分かりやすい。
 - ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれている。
- 「知的刺激」にもっとも大きく影響するのは、全授業でも、講義形式の授業に絞っても「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」である。
- 次いで影響が大きいのは、「双方向型の授業」および「受講態度への適切な対応」であるが、講義形式では「双方向型の授業」の影響はあまり大

きくない。

※「授業満足度」と同じく、「教材役立ち度」は「知的変数」を高める条件の一つと考えられるが、「話し方等わかりやすさ」との相関がとくに高かったため説明変数として採用できなかった。

- 「予習復習時間」は、以下の条件の授業において長くなる。
 - ・ 東京キャンパスで実施されている。
 - ・ 千葉第2キャンパスでは実施されていない(講義のみの場合)。
 - ・ 履修者に高学年が多い。
 - ・ 履修人数が少ない(20人未満、さらには10人未満。全授業の場合)。
 - ・ 講義形式の授業ではない(全授業の場合)。
 - ・ 事前事後の学習等の具体的な指示がある。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
 - ・ 教材(教科書、板書、プリント、ビデオ等)が授業の理解に役立っていない。
 - ・ 内容が難しい。

→「予習復習時間」にもっとも大きく影響するのは、「事前事後課題の指示」、次いで「内容の難易度」である。また、「双方向型の授業」はプラスに影響し、「理解に役立つ教材(教材役立ち度)」はマイナスに影響する。

この傾向は、全授業でも、講義形式の授業に絞っても変わらない。
- 「シラバス目標達成度(シラバスに記載された到達目標が達成できたか否か)」は、以下の条件の授業において高まる。
 - ・ 埼玉キャンパスで実施されている。
 - ・ 千葉第2キャンパスでは実施されていない(講義のみの場合)。
 - ・ 履修者に高学年が多い(全授業の場合)。
 - ・ シラバスに沿って行われている。
 - ・ 事前事後の学習等の具体的な指示がある。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
 - ・ 話し方や説明の仕方が分かりやすい(全授業の場合)。
 - ・ 内容がやさしい。
 - ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれている。

→「シラバス目標達成度」にもっとも大きく影響するのは、全授業でも、講義形式の授業に絞っても「シラバスに沿った授業であること」である。次いで影響が大きいのは、いずれの場合も「双方向型の授業」である。
- 「授業説明取り組み度(理解した内容を達成するため意欲的に取り組んだか)」は、以下の条件の授業において高まる。
 - ・ 千葉キャンパスで実施されている。

- ・ 千葉第2キャンパスで実施されていない(全授業の場合)。
- ・ 埼玉キャンパスで実施されている(講義のみの場合)。
- ・ 履修人数が少ない(50 人未満、さらに 20 人未満、さらに 10 人未満。前授業の場合)
- ・ シラバスに沿って行われている。
- ・ 事前事後の学習等の具体的な指示がある。
- ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
- ・ 授業の理解に役立つ教材が用いられていない(全授業の場合)。
- ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれている。
- ・ 内容が難しい(講義のみの場合)。
- ・ 機器、備品等が充実していない(講義のみの場合)。

→「授業説明取り組み度」は、全授業の場合と講義形式の授業に絞った場合で若干異なる。全授業の場合は、もっとも大きく影響するのは「シラバスに沿った授業であること」だが、講義形式の場合は「受講態度への適切な対応」である。次いで影響が大きいのはいずれの場合も「双方向型の授業」である。

※ 「授業説明取り組み度」は論理矛盾回答処理により欠測値が多いデータであるため、この結果は参考程度である。

⑦ 結果のまとめと考察

「授業満足度」「知的刺激」等を学生の授業評価、「予習復習時間」を学習行動とすると、⑥の結果は以下のように解釈することができます。

- 学生の評価は、主に以下の条件の授業において高まる。
 - ・ 何より、教員の話し方や説明の仕方の分かりやすい(とくに講義形式での授業では顕著)。
 - ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれている。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている(とくに「知的刺激」に対して顕著)。
 - ・ 事前事後の学習等の具体的な指示があり、機器・備品等が充実している(「知的刺激」に対してはあまり効果がない)。
- ※ キャンパス(東京キャンパスで実施)、履修者の学年(高学年が多い)なども影響する。履修人数(少ない)の影響はあまり大きくない(全授業の場合の「知的刺激」にのみ影響)。

- 学生の学習行動は、主に以下の条件の授業において促進される。
 - ・ 何より、授業の内容が難しく、事前事後の学習の具体的な指示がある。
 - ・ 授業の理解に役立つ教材が用いられていない。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
 - ※ キャンパス(東京キャンパスで実施等)、履修者の学年(高学年が多い)も影響する。
 - ※ 履修人数(少ない)と授業形式(講義形式ではない)の影響は、全授業の場合にのみ影響する。

- 評価の高さ、学習行動の促進の双方に効果があるのは「双方向型授業評価」と「事前事後課題の指示」である。この2つは、「シラバス目標達成度」「授業取り組み度」にも影響する。

以上は、過去のデータでもほぼ同様に得られており、安定した結果だといえます。

今年度は講義形式の授業のみでも検討することができましたが、講義形式に絞ると、もともと大きかった「話し方等分かりやすさ」の授業評価への効果が更に高まるという結果になりました。

ただし、そもそも「話し方等分かりやすさ」とほとんどのアンケート調査項目間には非常に高い相関があるため、「話し方等分かりやすさ」以外の影響が検討できていないとも考えられます。たとえば、「教材役立ち度」は「話し方等わかりやすさ」との相関がとくに高かったためモデルに採用できませんでしたが、両者には「分かりやすさ」という共通の潜在因子があると考えられます。「分かりやすさ」とは独立した新たな調査項目があれば、学生の評価を規定する要因に関するさらなる検討ができると考えられます。

また、目的変数側にも非常に高い正の相関があることも気になる点です。「授業満足度」と「知的刺激」の相関係数は、全授業では 0.91、講義のみの場合は 0.95 であり、ほぼ同じだと考えられます。たとえば、「知的刺激」は、より具体的な内容にする(例「新しい知識や考え方にふれることができた」)など、一部の調査項目を再検討すること望まれます。

(3)「履修人数」別の分析

講義形式の授業データを履修人数ごとに分けて、(2)と同様の重回帰分析を行った結果を表 17～19 に示します。表 17～19 では、標準誤差、t 値、VIF の表記を省略しましたがいずれも適切な値です(VIF は「授業満足度」では平均 2.8、最大 4.4、「知的刺激」では平均 3.0、最大 4.6、「予習復習時間」では平均 2.6、最大 5.3)。

なお、講義形式の授業に絞ると「10 人未満」の授業は 31、「10～19 人」は 64 と少ないため両者を合わせて 4 水準として分析を行いました。

表 17 「授業満足度」を目的変数とした履修人数別重回帰モデル[講義形式の授業]

	「19人未満」 n=95		「20人～49人」 n=201		「50人～99人」 n=247		「100人以上」 n=200	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	0.571	0.006	0.443	0.0054	0.004	0.9624	-0.318	0.0046
東京	0.077	0.0316	0.069	0.0008			0.019	0.0123
学年平均							0.273	<.0001
I 4シラバス忠実度							0.629	<.0001
II 3話し方等分かりやすさ	0.632	<.0001	0.682	<.0001	0.667	<.0001		
III 2難易度			-0.080	0.0164				
IV 1受講態度への対応	0.207	0.0092			0.322	<.0001		
IV 2機器・備品等充実度			0.246	0.0002			0.166	0.0021
R2乗	0.800		0.864		0.922		0.933	
自由度調整R2乗	0.794		0.861		0.921		0.931	

表 18 「知的刺激」を目的変数とした履修人数別重回帰モデル[講義形式の授業]

	「19人未満」 n=95		「20人～49人」 n=201		「50人～99人」 n=247		「100人以上」 n=200	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	0.352	0.0888	0.222	0.0859	0.065	0.536	-0.138	0.2566
東京					0.053	0.0682		
I 4シラバス忠実度							0.237	<.0001
II 3話し方等分かりやすさ	0.553	<.0001	0.725	<.0001	0.605	<.0001	0.619	<.0001
IV 1受講態度への対応	0.342	<.0001			0.351	<.0001	0.161	0.0016
IV 2機器・備品等充実度			0.188	0.0035				
R2乗	0.786		0.844		0.887		0.906	
自由度調整R2乗	0.781		0.842		0.886		0.904	

表 19 「予習復習時間」を目的変数とした履修人数別重回帰モデル[講義形式の授業]

	「19人未満」 n=95		「20人～49人」 n=201		「50人～99人」 n=247		「100人以上」 n=200	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	-1.335	0.1258	-1.103	0.0255	-1.654	<.0001	-1.144	0.0152
東京	0.466	0.0002	0.337	<.0001				
学年平均			0.098	0.0109			0.077	0.0025
I 1 授業説明_有無							-0.551	0.0013
I 6 事前事後課題の指示			0.835	<.0001	1.185	<.0001	0.977	<.0001
II 1 双方向型授業評価	0.495	0.0029	0.395	0.0134				
II 2 教材役立ち度			-0.854	<.0001	-0.502	<.0001		
III 2 難易度	0.560	0.0006	0.534	<.0001	0.447	<.0001	0.492	<.0001
R2乗	0.253		0.302		0.342		0.350	
自由度調整R2乗	0.229		0.281		0.334		0.337	

この結果を具体的に記すと、次のようになります。

- 講義形式の授業の「授業満足度」および「知的刺激」を高める最大の要因は、履修人数によらず「話し方等分かりやすさ(教員の話し方や説明の仕方の分かりやすさ)」であった。この効果は、履修人数に分けずに分析した全体のモデルと比べて更に強くなった。
- 次いで影響があるのは「受講態度への適切な対応」であるが、「話し方等わかりやすさ」に比べると効果は小さく、履修人数によっては影響しない場合もあった。
- 講義形式の授業の「予習復習時間」では、履修人数ごとに若干異なる傾向がみられた。
- 履修人数に分けずに分析したモデルとよく似た結果が得られたのは「20～49 人」の場合である。「19 人未満」では「難易度」と「双方向型授業評価」だけしか影響せず、逆に「50 人以上」では「双方向型授業評価」の影響は消え、「事前事後課題の指示」の効果が非常に大きくなった。

(4)「難易度」別の分析

講義形式の授業データを難易度ごとのデータに分けて※1、同様の重回帰分析を行った結果を表 20～22 に示します。表 20～22 では、標準誤差、t 値、VIF の表記を省略しましたがいずれも適切な値です(VIF は「授業満足度」では平均 3.1、最大 5.1、「知的刺激」では平均 3.1、最大 4.9、「予習復習時間」では平均 2.4、最大 4.9)。

なお、この分析では講義形式の授業に絞ったため、履修人数は単純な人数の差ととらえ、量的変数としました。

※1) 難易度は、データ全体の分布をみて、以下のように 4 水準に分けました。

「やさしい」.....授業単位の平均値 1.00～3.00 未満 (n=47)
「適切」.....授業単位の平均値 3.00～3.25 未満 (n=271)
「やや難しい」.....授業単位の平均値 3.25～3.50 未満 (n=230)
「難しい」.....授業単位の平均値 3.50～5.00 未満 (n=195)

表 20 「授業満足度」を目的変数とした難易度別重回帰モデル[講義形式の授業]

項	「やさしい」 n=47		「適切」 n=271		「やや難しい」 n=230		「難しい」 n=195	
	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	-0.269	0.2696	0.239	0.0257	0.069	0.57	-0.131	0.3168
東京			0.059	0.0013	0.059	0.0049		
履修人数(4水準)			-0.015	0.0424	-0.023	0.0028		
I 1授業説明の有無	0.402	0.004					0.142	0.032
I 4シラバス忠実度					0.105	0.0337		
II 3話し方等分かりやすさ	0.658	<.0001	0.760	<.0001	0.607	<.0001	0.591	<.0001
IV 1受講態度への対応							0.288	<.0001
IV 2機器・備品等充実度			0.169	0.0001	0.274	<.0001		
R2乗	0.880		0.865		0.894		0.901	
自由度調整R2乗	0.875		0.863		0.891		0.900	

表 21 「知的刺激」を目的変数とした難易度別重回帰モデル[講義形式の授業]

項	「やさしい」 n=47		「適切」 n=271		「やや難しい」 n=230		「難しい」 n=195	
	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	-0.532	0.022	0.319	0.013	0.148	0.2396	-0.095	0.3555
東京							0.083	0.0067
履修人数(4水準)			-0.021	0.0086	-0.031	<.0001		
I 4シラバス忠実度					0.148	0.0041		
I 6事前事後課題の指示	0.480	0.0006						
II 3話し方等分かりやすさ	0.653	<.0001	0.714	<.0001	0.604	<.0001	0.513	<.0001
IV 1受講態度への対応			0.189	0.0011			0.484	<.0001
IV 2機器・備品等充実度					0.209	0.0006		
R2乗	0.884		0.809		0.880		0.904	
自由度調整R2乗	0.879		0.807		0.878		0.902	

表 22 「予習復習時間」を目的変数とした難易度別回帰モデル[講義形式の授業]

項	「やさしい」 n=47		「適切」 n=271		「やや難しい」 n=230		「難しい」 n=195	
	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	2.184	<.0001	1.191	0.0008	0.734	0.0059	-0.011	0.9613
千葉第2			-0.136	0.027	-0.139	0.0274		
東京					0.295	<.0001	0.484	<.0001
学年平均							0.130	0.0016
履修人数(4水準)	-0.108	0.0144	-0.084	0.0001				
I 6事前事後課題の指示			0.653	<.0001	0.442	0.0107		
II 1双方向型授業評価					0.616	<.0001	0.972	<.0001
II 2教材役立ち度					-0.622	<.0001		
II 3話し方等分かりやすさ							-0.350	0.0048
IV2機器・備品等充実度			-0.325	0.0061				
R2乗	0.126		0.230		0.303		0.453	
自由度調整R2乗	0.107		0.218		0.288		0.442	

この結果を具体的に記すと、次のようになります。

- 講義形式の授業の「授業満足度」および「知的刺激」を高める最大の要因は、授業の難易度によらず「話し方等分かりやすさ(教員の話し方や説明の仕方の分かりやすさ)」であった。この効果は、履修人数の場合と同様、難易度で分けずに分析した全体のモデルと比べて更に強いという結果である。
- 講義形式の授業の「予習復習時間」では、履修人数ごとに若干異なる傾向がみられた。履修人数に分けずに分析したモデルとよく似た結果が得られたのは「やや難しい」の場合である。それより「やさしい」側では「双方向型授業評価」の影響が消え、履修人数(少ない)の影響が見られた。それより「難しい」側では「事前事後課題の指示」の影響が消え、「双方向型授業評価」の効果が非常に大きくなった。

(5)「学部」別の分析

回答した学生の所属学部の割合が 90%以上同じである授業のみを抽出し、それぞれを 6 学部のデータに分けて、これまでと同様の重回帰分析を行った結果を表 23～28 に示します。これまでのモデルと同様、表では、標準誤差、t 値、VIF の表記を省略しましたがいずれの値も許容範囲です(VIF は「授業満足度」では平均 3.2、最大 5.5、「知的刺激」では平均 3.6、最大 5.8、「予習復習時間」では平均 2.1、最大 5.2)。なお、キャンパス、履修人数は、学部ごとに大きな偏りがあるため説明変数として取り入れていません。また、履修人数は(4)の分析と同様、量的変数としました。

表 23～28 のとおり、それぞれの学部で特徴がみられました。

表 23 回答者の 90%以上が総合福祉学部の学生である授業の回帰モデル

n=214		「授業満足度」		「知的刺激」		「予習復習時間」	
項		推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片		-0.119	0.291	0.101	0.335	0.127	0.792
学年平均		0.021	0.021				
I 1授業説明_有無		0.141	0.013				
I 6事前事後課題の指示						0.803	<.0001
II 1双方向型授業評価				0.097	0.018	0.342	0.007
II 2教材役立ち度						-0.882	<.0001
II 3話し方等分かりやすさ		0.640	<.0001	0.642	<.0001		
III 2難易度						0.351	0.000
IV 1受講態度への対応				0.219	0.000		
IV 2機器・備品等充実度		0.227	<.0001				
R2乗		0.925		0.898		0.247	
自由度調整R2乗		0.923		0.896		0.232	

表 24 回答者の 90%以上が看護栄養学部の学生である授業の回帰モデル

n=115		「授業満足度」		「知的刺激」		「予習復習時間」	
項		推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片		-0.287	0.147	0.485	<.0001	-2.279	<.0001
履修人数(4水準)		0.049	0.001				
I 6事前事後課題の指示						0.650	<.0001
II 1双方向型授業評価				0.200	0.001		
II 3話し方等分かりやすさ		0.709	<.0001	0.638	<.0001		
III 2難易度						0.626	<.0001
IV 1受講態度への対応		0.323	0.000				
R2乗		0.893		0.881		0.339	
自由度調整R2乗		0.891		0.879		0.327	

表 25 回答者の 90%以上がコミュニティ政策学部学生である授業の回帰モデル

n=56		「授業満足度」		「知的刺激」		「予習復習時間」	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	
切片	0.666	0.013	0.060	0.766	0.866	0.076	
I 6事前事後課題の指示	0.261	0.021	0.279	0.033	0.376	0.012	
II 3話し方等分かりやすさ	0.607	<.0001	0.667	<.0001			
III 2難易度	-0.096	0.018					
R2乗	0.920		0.898		0.111		
自由度調整R2乗	0.915		0.894		0.094		

表 26 回答者の 90%以上が経営学部学生である授業の回帰モデル

n=101		「授業満足度」		「知的刺激」		「予習復習時間」	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	
切片	-0.111	0.438	-0.082	0.512	0.763	0.059	
I 4シラバス忠実度					-0.509	0.015	
II 1双方向型授業評価	0.150	0.041					
II 2教材役立ち度	0.606	<.0001					
II 3話し方等分かりやすさ			0.617	<.0001			
IV 1受講態度への対応	0.256	0.006	0.383	<.0001	0.898	<.0001	
R2乗	0.856		0.895		0.216		
自由度調整R2乗	0.852		0.893		0.200		

表 27 回答者の 90%以上が教育学部学生である授業の回帰モデル

n=56		「授業満足度」		「知的刺激」		「予習復習時間」	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	
切片	0.434	0.000	0.381	0.011	1.744	0.008	
履修人数(4水準)					-0.182	0.002	
I 6事前事後課題の指示					0.807	<.0001	
II 3話し方等分かりやすさ	0.871	<.0001	0.880	<.0001	-0.557	0.002	
R2乗	0.928		0.887		0.376		
自由度調整R2乗	0.926		0.885		0.340		

表 28 回答者の 90%以上が人文学部学生である授業の回帰モデル

n=106		「授業満足度」		「知的刺激」		「予習復習時間」	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	
切片	0.644	0.000	0.970	<.0001	-3.392	<.0001	
学年平均	-0.042	0.017					
履修人数(4水準)	-0.086	<.0001	-0.062	0.001	-0.208	0.000	
I 4シラバス忠実度	0.126	0.029					
II 1双方向型授業評価					0.618	<.0001	
II 2教材役立ち度					1.261	<.0001	
II 3話し方等分かりやすさ	0.771	<.0001	0.741	<.0001			
R2乗	0.904		0.815		0.532		
自由度調整R2乗	0.901		0.812		0.518		

平成30年度 学生用 授業アンケート調査

このアンケート調査は、みなさんの学びがより深められるよう、授業内容・授業方法の改善・工夫に向けての基礎的データの収集を目的として、実施するものです。また、大学がみなさんの学習の到達目標を明確にし、学修成果が得られる授業・教育を進めるための基礎資料としても利用します。

調査の結果は報告書にまとめて公表をするほか、大学ホームページにも公開します。回答は無記名であり、個々の回答結果が他に漏れたり、成績に影響したりすることはありません。ありのままを記入してください。

淑徳大学 教育向上委員会

【記入上の注意】 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。

良い例



悪い例



●はじめに、この科目の科目名および担当教員名を記入してください。 ※科目代表者の氏名を記入してください。

科目名	担当教員名
-----	-------

●次に、あなたの所属等について伺います。「学部・学科」「学年」「性別」の各欄について、該当する番号にマークしてください。

学部・学科	総合福祉学部	社会福祉学科	①	経営学部	経営学科	⑦	学年	1年次生	①	性別	男	①
		教育福祉学科	②		観光経営学科	⑧		2年次生	②		女	②
		実践心理学科	③		教育学部	こども教育学科		⑨	3年次生	③		
	看護栄養学部	看護学科	④	人文学部	歴史学科	⑩		4年次生以上	④			
		栄養学科	⑤		表現学科	⑪		科目等履修生	⑤			
	コミュニティ政策学部	コミュニティ政策学科	⑥	その他	⑫	その他		⑥				

●授業に関する事項について伺います。

下記のⅠ～Ⅴのすべての設問に回答してください。なお、「Ⅴ自由記述欄」を除いて、設問右(4段階)の該当する番号にマークしてください(一部、5段階)。

Ⅰ. 授業の構成について		大いに そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない	
1	初回の授業において、授業目的、授業内容、到達目標、評価方法等の説明がありましたか	④	③	②	①	
2	あなたは、その説明に対して理解ができましたか	④	③	②	①	
3	あなたは、理解した内容を達成するため、意欲的に取り組みましたか	④	③	②	①	
4	授業はシラバスにそって行われましたか	④	③	②	①	
5	あなたは、シラバスに記載された到達目標を達成できましたか	④	③	②	①	
6	授業のなかで「事前学習」および「事後学習」等、「授業時間以外の学習内容・方法(資料・課題等)」について、具体的に指示がありましたか	④	③	②	①	
7	「質疑応答の時間の設定」や「課題レポート・小テストの返却」等、疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫はありましたか	④	③	②	①	
8	あなたが、この授業1回(90分)のために事前学習・事後学習に費やした時間は平均()であった	⑤ 4時間以上	④ 3時間以上 4時間未満	③ 2時間以上 3時間未満	② 1時間以上 2時間未満	① 1時間未満

Ⅱ. 授業方法について		大いに そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
1	双方向型の授業(発表、討論、協同学習、調べ学習等)は、効果的に行われましたか	④	③	②	①
2	教材(教科書、板書、プリント、スライド、ビデオ等)は、授業の理解に役立ちましたか	④	③	②	①
3	この授業では、話し方や説明の仕方がわかりやすかったですか	④	③	②	①

Ⅲ. 授業に対する評価について		大いに そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない	
1	この授業を通して知的好奇心が刺激されましたか	④	③	②	①	
2	あなたの授業内容の理解において、難易度は適切でしたか	⑤ 難しい	④ やや難しい	③ 適切	② やややさしい	① やさしい
3	この授業を受講して、満足していますか	④	③	②	①	

Ⅳ. 授業環境について		大いに そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
1	受講態度(私語、携帯電話の使用等への注意等)に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれていましたか	④	③	②	①
2	授業に関する機器・備品等は充実していましたか	④	③	②	①
3	この授業を受けるにあたり、履修人数は適切でしたか	④	③	②	①

Ⅴ. 自由記述欄	
※この欄は、授業の改革や改善に繋げるためのコメント欄となります。人格を否定するようなコメントや授業に関係のないことを書いてはいけません。	
1	この授業を通して、どんなことが身についたと思いますか。自由に記入してください。(例：「〇〇する力が身についた」「●●●ができるようになった」等)
2	この授業を通して、大学や教員が工夫・改善すべき点がある場合は、自由に記入してください。

平成30年度 教員用 授業アンケート調査

2018 Shukutoku University Class Evaluation Survey for Teachers

このアンケート調査は、授業計画(シラバス)に明示している授業の目的・到達目標に対して、受講生が「何ができるようになったのか」また、達成できなかった場合は「なぜ、そうだったのか」を担当教員が把握し、授業内容・授業方法の改善・工夫に繋げるための基礎的データの収集を目的として実施するものです。実習を除く全開講科目を調査対象とし、各授業における目的・目標・成果並びに授業方法等について、担当教員と受講生の双方から評価を得るものです。

調査の結果は報告書にまとめて公表をするほか、大学ホームページにも公開します。
ご協力、よろしくお願いいたします。

The purpose of this survey is to compile data and help individual teachers reflect on their teaching and employ the plan-do-check-act cycle to improve their effectiveness in the classroom. These surveys will be taken by all classes with the exception of training and practice classes. Teachers and students should evaluate purposes of class, goals, class form etc... Results of the survey will be drawn up and published in a report and be made public on the university homepage.

淑徳大学 教育向上委員会
Shukutoku University Educational Progress Committee

記入上の注意

- 記入は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
- 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで完全に消してください。
- 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。

Instructions

- Use an HB pencil or mechanical pencil to mark the sheet.
- When making corrections, use the plastic eraser.
- Keep the sheets clean and uncreased.

良い例

Good Example



悪い例

Bad Example



●はじめに、この科目の科目名および氏名を記入してください。 Please fill in the blanks below.

※このアンケートは、科目代表者が回答してください。 Class representative answer this survey.

キャンパス名 Campus name

科目名 Class to be evaluated

授業番号 Class number

氏 名 Teacher's name

●授業に関する事項について伺います。

下記のⅠ～Ⅴのすべての設問に回答してください。なお、「Ⅴ自由記述欄」を除いて、設問右(4段階)の該当する番号にマークしてください(一部、5段階)。
Please choose your response to the following statements or questions I II III and IV.

Ⅰ. 授業の構成について Class Procedure/Organization		大いに そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない	
1	初回の授業において、授業目的、授業内容、到達目標、評価方法等の説明をしましたか I explained to students about class purposes, content, goals, and grading policies at the first lesson.	④ Thoroughly & very clearly	③ Well & clearly	② Poorly	① Never	
2	受講生が理解できるよう、この説明に工夫をしましたか I have a method to make sure students understand class purposes, content, goals, and grading policies at first lesson.	④ Thoroughly	③ Well	② Poorly	① Never	
3	受講生が理解した内容を達成するために、意欲的に取組ませることができましたか I encouraged students to study willingly to understand and acquire course content.	④ Very well	③ Well	② Poorly	① Never	
4	授業はシラバスにそって行われましたか The class description in the syllabus accurately reflected the content of the lessons.	④ Perfectly	③ Well	② Poorly	① Never	
5	受講生は、シラバスの到達目標を達成できましたか Students could attain the goals described in the class syllabus.	④ Strongly agree	③ Agree	② Disagree	① Strongly disagree	
6	授業のなかで「事前学習」および「事後学習」等、「授業時間以外の学習内容・方法(資料・課題等)」について、具体的に指示をしましたか I instructed students on the preparation and review of lessons concretely.	④ Perfectly	③ Well	② Poorly	① Never	
7	「質疑応答の時間の設定」や「課題レポート・小テストの返却」等、疑問の解決や学習の理解を深めるための取組みを行いましたか I encouraged students to work out problems, questions and issues and deepen their understanding by letting students have the question-and-answer sessions and handing back students' assignments, reports and quizzes.	④ Thoroughly	③ Well	② Poorly	① Never	
8	授業計画では、受講生がこの授業 1 回 (90 分) の事前学習・事後学習にかかる時間の目安を平均 () と設定した How many hours did you allot for students' preparation and review of your lessons in your class syllabus?	⑤ 4 時間以上 More than 4 hours	④ 3 時間以上 4 時間未満 More than 3 hours but less than 4 hours	③ 2 時間以上 3 時間未満 More than 2 hours but less than 3 hours	② 1 時間以上 2 時間未満 More than 1 hours but less than 2 hours	① 1 時間未満 Less than 1 hour

うら面につきます。

Please turn over



Ⅱ. 授業方法について Class Content/ Teaching Method		大いに そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
1	双方向型の授業(発表、討論、協同学習、調べ学習等)を、効果的に行いましたか Were your lessons conducted interactively by letting students give presentations, have discussion, do group work and research study?	④ Very well	③ Well	② Poorly	① Never
2 - 1	教材(教科書、板書、プリント、スライド、ビデオ等)は、授業の理解に役立つように工夫しましたか Did you use teaching materials/technology such as textbooks, handouts, slides and video and write on the blackboard effectively so that students could understand without any trouble?	④ Very well	③ Well	② Poorly	① Never
2 - 2	上記の設問(Ⅱ-2)で工夫した教材について、該当する番号にマークしてください(複数回答可)。 What materials did you use to make your lessons effective and appropriate? Please choose appropriate answer(s). You can choose more than one. ① 教科書・参考書の選定 Textbook and reference book ② オリジナル教科書・教材 Original teaching materials ③ プリント・レジュメ Handout or summary ④ スライド・パワーポイント Slides or Power Point ⑤ 映像視聴覚教材(ビデオ・DVD等) Audio-visual educational materials such as video tapes and DVD ⑥ その他() Others				
3	授業において、わかりやすい話し方や説明の仕方を心がけましたか How was your manner of speaking and explanation? Did you think it was easily understood by students?	④ Strongly agree	③ Agree	② Disagree	① Strongly disagree

Ⅲ. 授業に対する評価について Overall satisfaction with this class			大いに そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
1	この授業は、受講生の知的好奇心を刺激する内容でしたか Did the content of this class stimulate students' interest intellectually?		④ Very well	③ Well	② Poorly	① Never
2	受講生の授業内容の理解において、難易度は適切だったと思いますか What was the difficulty level of this class? Could students understand the content of your class?	⑤ 難しい Difficult	④ やや難しい A little too difficult	③ 適切 Just right	② やややさしい A little easier	① やさしい Easy
3	受講生の満足度を高める授業をできたと思いますか Would you say students were very satisfied with your lessons?		④ Strongly agree	③ Agree	② Disagree	① Strongly disagree

Ⅳ. 授業環境の確保について Classroom Atmosphere		大いに そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
1	受講態度(私語、携帯電話の使用等への注意等)に適切な対応をし、学習するのにふさわしい環境保持に努めましたか Did you cope well with problems such as students talking to each other and using cell phones during class and did you try to provide a good educational environment?	④ Very well/ strongly agree	③ Well/ agree	② Poorly/ disagree	① Never/ strongly disagree
2	授業に関する機器・備品等は充実していましたか How was the teaching equipment used in your lessons?	⑤ Very good	④ Good	③ Poor	② Very poor
3	この授業を行うにあたり、履修人数を考慮した授業運営の工夫を行いましたか Did you develop methods to teach students with thorough consideration to the number of students in your class?	④ Very well	③ Well	② Poorly	① Never

Ⅴ. 自由記述欄 Comments (Please feel free to express your opinion.)	
1	受講生は、この授業を通してどのような力が身についたと思いますか。 (例:「〇〇する力が身についた」「●●ができるようになった」等) What ability could students improve upon in your class or what specific objective for this class was achieved by students? Ex. Students could improve ○○○ ability. Students have gained ○○○ from this class.
2	受講生のこの授業に対する満足度や知的好奇心を高めるため、今後に向けた工夫あるいは改善点があれば記入してください (大学に対するものを含めることも可)。 What could be done to improve the quality of Shukutoku University education as well as this class? What changes to the course methods, text(s), content would inspire and motivate students' interest and make them more satisfied with Shukutoku University as well as this class? Anything else you would like to comment on about this class or the University.

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
Thank you for taking the time and effort to respond to this questionnaire.

2018年度 淑徳大学 授業アンケート全学報告書

■発行日 2019年9月30日

■発行者 淑徳大学

〒 260-8701 千葉県千葉市中央区大巖寺町200

TEL.043-265-7331(代表)

■編集 淑徳大学高等教育研究開発センター
IR推進室

■第二部分分析 株式会社 生活環境工房あくと
